

アドバンス グループ メンタリング ガイド



目次

はじめに	4
------	---

1年目 12

セッション1	アドバンスへようこそ	13
セッション2	伝道者のアイデンティティ	17
セッション3	伝道者のメッセージ	21
セッション4	伝道者の働き	25
セッション5	伝道者の力	31
セッション6	伝道者の献身	35
セッション7	伝道者の従順	39
セッション8	伝道者の品格	45
セッション9	伝道者の機会	51
セッション10	伝道者のコミットメント	57
セッション11	伝道者のインスピレーション	63
セッション12	リトリート	68

2年目 72

セッション 1	伝道の挑戦と結実	73
セッション 2	神からの挑戦 - 礼拝と従順	79
セッション3	弟子訓練の実 - 誠実と自制	83
セッション4	自分自身からの挑戦 - 自己実現と比較	89
セッション5	福音の内にある実 - 善意と平安	95
セッション6	この世からの挑戦 - 恐れと迫害	101
セッション7	伝道者の内にある実 - 親切と喜び	107
セッション8	敵からの挑戦 - 誘惑と非難	113
セッション9	生き方の内にある実 - 優しさと忍耐	119
セッション10	家族からの挑戦 - 交わりと煩わしさ	125
セッション11	世界の内にある実 - 愛	131
セッション12	リトリート	137

3年目 142

セッション1	伝道の実践 - 会話	143
セッション2	伝道の実践 - 弁証論 (護教論)	147
セッション3	伝道の実践 - 危機	151
セッション4	軽視された伝道のツール - 祈り	157
セッション5	軽視された伝道のツール - 傾聴	161
セッション6	軽視にされた伝道のツール - 感謝	165
リトリート		170

付録

福音の教理	176
福音物語	177
ユースゴスペル トーク例	178
その他のセッションのアイデア	182
1年目の振り返り	190
2年目の振り返り	192
3年目の振り返り	194
アカウントビリティ用紙	196

はじめに

福音 他にはない

**福音は
宣べ伝えられるべき
良い知らせで、
救う力があります。**

**アドバンスでは、
スモールグループの
指導を通して、伝道
者として召された
人たちの伝道の
賜物をかき立て、
教会を備え、
励まし、力づけます。**

アドバンスは-アドバンスグループを主にし-
神の栄光のため、全世界に福音を伝える
ため-様々なトレーニング、リソース提供、ネ
ットワーク構築を通し-全ての教会をサポート
する世界的な運動です。

アドバンスグループは、毎月のミーティング
から学び、ディスカッションを通して互いに
磨かれ、個人的、霊的生活について打ち解け
て分かち合います。セッションの間も、近
況を伝え、励まし合い、福音を伝える機会や
サポートを共有します。

1年間、アドバンスグループに参加したメンバー
は、-元のグループに属しながら-福音を伝える
情熱と能力を育てたいと望む12人までの人
たちと、新たなアドバンスグループを作ること
が奨励されます。

アドバンスはイギリス、マンチェスターで始ま
り、世界中で毎月数千ものグループが集まる
グローバルな運動へと発展してきました。参
加者は皆、福音への情熱、失われた人への思
い、実践的で霊的な支え合いにより、伝道に
心を尽くすことに燃えています。

アドバンスは神が与えるあらゆる機会を用い
て、恥じず恐れず福音を伝えるクリスチャン
を増やすことを目指しています。

運動の5大要素

1- 定例会

グループメンバーは毎月のミーティングを優先事項にします。参加者は、互いを励ますため、決められた月一の日程を尊重し、ドタキャンを避けます。神に召された働きの備えに力を注ぐことが、アドバンス・グループの旅の基礎となる要素です。

2- 切磋琢磨

毎月のセッションでは、福音をより深く知るため、聖書を学ぶ時間を大切にします。また、主にディスカッションを通して、伝道と福音についての理解や適用を健全に批評し合う機会も設けています。

3- アカウンタビリティ（説明責任）

アカウンタビリティ用紙からの正直な自己評価と、グループセッションでのオープンな分かち合いは、忠実に福音に生き、伝えようとする中で、説明責任を果たし、聖なる生活を送ろうとするものです。正直に脆さを見せ合う関係に発展するには時間がかかるかもしれませんが、グループリーダーが模範となり導きます。

4- コミュニケーション

伝道の機会、祈り課題、救いの体験談など、互いの最新情報を交換します。メールやグループSNSのやり取りで、各メンバーが共同体として支え合うことができます。次のセッションまでの繋がりが家庭的な雰囲気を生み出します。

5- 拡張

アドバンスのメンバーは、1年目以降、(元のグループを継続しながらも) 新たなグループを指導し、拡張していく視野を持つ必要があ

ります。アドバンス教材(現本)は、次のステップを容易にしてくれるでしょう。

私にも該当する?

伝道者の役割は、教会を建て上げるための神からの特別な賜物だと聖書は教えます(エペソ4:11-12)。伝道者が福音を伝え、人々をキリストに導くことも結実ですが、教会全体が福音の忠実な証人となるように備え、鼓舞することでも実を結びます。

アドバンス・グループは、伝道者という特別な役割(役職)や賜物がある、または召されていると考える人たちだけでなく、福音を理解し、伝え方の向上を願う人たちのものです。イエスの「世に出て行って弟子を作りなさい」という大宣教命令は、すべての信者に語られています。伝道はすべてのクリスチャンの仕事です。「伝道の才能」があるとなかろうと、皆が、自分の言葉と行動でキリストを世に明らかにする「伝道者の働き」に召されています(IIテモテ4:1-5)。

本書では、「伝道者」という言葉を、特定の才能や召しを認識している人だけでなく、福音を伝えるすべての人を指します。

壇上で説教する人も、個人伝道に情熱を注ぐ人も、次の3つのシンプルな質問は、アドバンスグループを始める(または参加する)判断に役立ちます:

信仰

福音に力があり、人が真のいのちと救いを知る唯一の方法だという信仰がありますか?

分かりやすく

機会があれば、分かりやすく福音を伝えたいと思いますか?

招き

イエスとの永遠の関係に入れる福音の希望の招きを広めたいですか?

これらの質問に「はい」と答えたら、アドバンスはあなたのためのものです。同じく「はい」と答えた仲間を集めて、本書を用いて、一緒に旅を始めましょう。

セッションガイド

このガイドには、3年間、月1回のアドバンス・グループ・セッションを実施し共に成長するための教材が載っています。あなたが経験豊富な伝道者、またはグループリーダーなら、本書を単なる話題提起として使用してもよいでしょう。グループのニーズに合わせて内容を追加・変更し、自身の経験を基に活用してください。初めてリードする方は、ガイドをそのまま利用できます。

1年目

最初の12セッションは、福音、伝道、伝道者の本質を理解する設定です。(初回のセッション1以降) 各セッションで伝道者の5つの特徴を学びます。

セッション2-4:

聖書を教える伝道者 - 福音を深く知る

宣べ伝えるメッセージを可能な限り深く知るべきです。宣教は私たち自身の考えや信念ではなく、神が語ることに基づくので、神のみことばを読んで学ぶことに専念します。単なる伝道者ではなく、真理を伝える - 聖書を教える伝道者と召されているからです。この3課で

は、聖書が教える父、子、聖霊に照らした福音と伝道について考えます。

セッション5-6:

祈る伝道者 - 聖霊の力で行動する

救いをもたらすのは神の力なので、伝道の働きをするとき、聖霊の力の元にへりくだります。神からの好機と伝道の結果、人が救われ、人生が変えられるのを見たいと神に祈り求める生き方です。この課では、伝道者の霊的生活を探り、伝道に直接影響を与える献身的生き方を学びます。

セッション7-8:

説明責任を果たす伝道者 - 聖く生きる

聖さは福音の中心です。変える力がある福音を真に伝えるとは、人が見えてもいなくても、説明可能な裏表のない生き方をすることです。聖いメッセージを伝える聖い人に成長するには、上手く行くとき応援し合い、失敗したとき建て上げる関係が重要です。この課では、伝道者の聖さ、説明責任の必要性、イエスに仕える者の主な特徴、謙遜の立ち位置を学びます。

セッション9-10:

心を尽くす伝道者 - 課題に意図的に取り組む

伝道の鍵は意図的であること。神の愛を伝えるのに、日常的な好機を意識し、捕らえます。イエスの物語をただ伝えるだけでなく、聞いた人々を新しい人生に招き、弟子としての歩みを支援します。この課では、日々福音を大胆に伝える機会を増やすことと、目的を持って人々を神の国へ招く意欲の、伝道の2つの賜物の要素を学びます。

セッション11:

感動を与える伝道者 - 証し合う教会へ

福音を必要とする世界に福音を届けながら、教会にも同様の働きかけをすべきです。伝道はすべてのクリスチャンの仕事ですが、教会

を励まし、奮い立たせることも伝道者の責務です。この課では、イエスの弟子のあり方の中心、キリストを証し合うように教会を励ます、伝道者の役割を学びます。

セッション12：リトリート

12課は、一年の締めくくりです。あなたの内に、また、あなたを通して神から学んだことを振り返り、次に備える機会をグループに与えます。

2年目

2年目の12課は、伝道の挑戦と実りを交互に学びます。

セッション1：導入

初回セッションは今年のテーマである挑戦と結実について学びます。

セッション2：神からの挑戦

この課では、従順に霊と真で神を礼拝するという神からの挑戦が、私たちの世界への伝道とどんな意味があるかを探ります。

セッション3：弟子訓練の実

この課では、宗教的な義務からでなく、永遠に誠実な方に誠実でありたいために自制する生活の意味を学びます。

セッション4：自分自身からの挑戦

この課では、人から良く見られたい自分のプレッシャーと他人と比べることの危険性に焦点を当てます。

セッション5：福音の内にある実

この課では、福音の中心にある実-創造主の善意と、反抗と迷いの代わりに、主が与える完全な御国の平安について考えます。

セッション6：この世からの挑戦

この課では、この世で直面する課題、人を無力にする恐れと、深刻な迫害の脅威の実態を見ていきます。

セッション7：伝道者の内にある実

この課では、神の親切さを世に語ること、言動でイエスを知る喜びを現すことを解き明かします。

セッション8：敵からの挑戦

この課では、霊的戦いの課題と、どのように敵を意識し、戦うかを取り扱います。サタンは、罪で誘惑し、欺きと非難で信仰を破壊し、動きを鈍らせ、失格者にしようと攻撃します。

セッション9：生き方の内にある実

この課では、どんな伝道方法を用いるにしても、聖霊の力を得て謙虚さと柔和を世に示すことで、私たちの努力を通して神が成し遂げると期待できることを学びます。

セッション10：家族からの挑戦

最後の挑戦は、教会の家族からです。孤立しないための交わりの重要性を覚えつつ、心が乱されたり無関心になることがあっても、福音を思い出し、伝える者となる喜びの責任を果たすため、教会を奮い立たせる役割を担います。

セッション11：世界の内にある実

2年目の最後の課では、生活と福音のメッセージを共有する人々との人生の内に、持続的

な愛の実を見るときはどういうことかに焦点を当てます。

セッション12：リトリート

1年目同様、2年目もリトリートで締めくります。ここでは、3年目に向けての枠組みと内容、さらなるアイデアを提供します。アドバンス・グループとしての2年目を振り返り、神がどのように働かれたかを考えながら、普段のグループよりもクリエイティブに時間を過ごすチャンスです。

3年目

3年目のアドバンスグループは、最初の2年間の決められた教材から離れ、より個性的にグループを発展させるための選択肢やリソースが提示されます。

3年目には、伝道の実践に関連した6つのセッションがあり、どのような順番でも学習できます。3年目の終わりに活用できるリトリートセッションもあります。

全6課とリトリートに加えて、さらに14課のアイデアが用意されています。

3年目は、アドバンスの5つの基本原則に取り組みながら、より具体的なグループのニーズに合わせて発展、適応するための選択肢が重要です。

グループ作り

月に1回、2時間程度、最大12人のグループを結成します。説明責任を果たす上では男女別グループが効果的ですが、必須ではありません。

リーダーかファシリテーターか？

アドバンスグループのリーダーに自分がふさわしいか悩んでいる方も多いでしょう。グループの運営には、リーダー、あるいはファシリテーターという2つの考え方があります。

リーダーは通常、伝道の経験があり、他の人を指導して教えたり議論したりする経験もある人たちです。

ファシリテーターは、アドバンス・グループのリーダーではなく、アドバンス・グループを立ち上げたいと考えている人たちです。

自分の経験値をグループに活かすも、このガイド通り進めるも、どちらにしても、アドバンス・グループのリードは、何よりもコアバリューへコミットし、ピアラーニングのような雰囲気、皆が一緒に成長することが重要です。

アドバンスグループを始めるための簡単な10ステップガイド・251ページ参照。

セッションの内容

各セッションは、簡単な導入とセッションのまとめで始まります。

セッションの背景では、その課の背景が分かれます。全体像を深く理解するため、課をリードする前に読んでおきます。時間がゆるせば、このガイドの一部または全部をセッションに取り入れることもできますが、この資料の主な目的は、あなたのグループを導く準備を助けることです。

各セッションは、**近況報告**で始まります。初期のセッションでは、互いを知り、グループがどう機能するかを探る時間です。回を重ねると、互いのストーリーを共有したり、前

課の適用からの振り返りをする時間が増えます。

次に、**祈り**の時間です。どれくらい時間をかけるか、どんなやり方か、決まりはありません。グループ全体、または二人一組で、短くも長くも祈ることができます。

メインとなる**学び**の部分がその後に続き、聖句の参照や引用、**ディスカッション**のためのポイントなどが記載されています。この部分は、時間管理が必要です。後半にもディスカッションの時間があります。重要なのは、セッションの最後にあるアカウンタビリティの時間を確保することです。教えたいことを強調しすぎて、その時間を圧迫しないようにしましょう！

学びのセッションの後は、セッションのトピックに関連するいくつかの質問と引用を含む**ディスカッション**セッションです。ここですべてを議論する時間はないでしょうが、必要以上に内容を盛り込んだので、最も役に立つものを選んでください。このセッションをすべて終わらせるために急がなければならないと感じる必要はなく、いくつかの要素に集中します。

各セッションのおわりには、次のセッションの前にグループで行う**適用**が用意されています。ここでは、ご自分のアイデアを自由に使ってください。

セッションを踏まえて**祈り**のガイダンスもありますが、どのように、どれくらいの時間祈るかは、あなた次第です。

アカウンタビリティは、セッションに関連した特定の考察を行うもので、自己評価用紙に記入し、共有し、祈られる必要があります。この用紙は、ガイド巻末のコピーか、advancegroups.orgからPDF版をダウンロードできます。

次のミーティングの日付をまだ決めていない場合は、ミーティング終了時間までに必ず決

めてください。直接会って合意する方が、いつでも簡単です。**忘れないで**のセッションには、ウェブサイト上でグループが取り組めることや、アドバンスの機能など、グループの活動に役立つちょっとした注意事項が記載されています。

随時のセッション題材

特別な祈り

グループ内の数人の個人的なこと・生活、家族、働き、等、祈り課題としてあげられたことをグループ全体で祈る時間を持ちます。人数の多いグループでも、3回目までには皆がもれなく祈られ、また一巡するようにします。

伝道の実践

1時間ほど街に出て、祈りやディスカッションを用いた個人伝道やクリエイティブに福音を伝えてみることもできます。このグループは伝道の準備をするためのものですが、実際に一緒に伝道するという時間の過ごし方もアリです！アドバンスの伝道訓練は単に情報やインスピレーションを受けるだけでなく、実践することが大事です。福音を忠実に伝えるというアドバンスセッションの最終目的を達成する機会だけでなく、実践から、単に教えや議論だけでは学べないことを学ぶことができます。このような経験の後は、必ず報告や振り返りの時間を設けましょう。

ゲストスピーカー

講師やゲストを招くことで、学びやディスカッションが有意義で、異なる経験や新鮮さがもたらされるなら、活用してください。

グループ運営に役立つヒント

1. 早めにグループミーティングの日程を決め、尊重してもらおう（可能であれば6ヶ月

以上先）。doodle.comのようなオンラインツールが役立ちます。

2. WhatsApp、Signal、Facebook Messenger、TelegramなどのグループSNSは普段のコミュニケーション、祈り課題、救いの証等に効果的です。グループ全員が使いやすいものを選び、グループリーダーが、できる限り頻繁に投稿し、定期的な参加の模範となるようにします。自分の体験談を紹介したり、祈り課題を聞いたり、リソースやポッドキャスト、YouTubeへのリンクを貼ったりします。あなたが先頭に立てば、他の人も参加してくれるでしょう。
3. 食事は、人を集め、繋げる素晴らしい方法です。食事の前か後にアドバンス・セッションを行うのはいかがですか。
4. 早い段階で自分のグループの立ち上げを考えてもらいます。他にも参加したい人がいる場合、新しいグループにつなげることができます。
5. アカウンタビリティの時間は、人々が快適に議論し、祈り、分かち合える場所で集まります。喫茶店のような公共の場が適している人もいれば、プライバシーを重視する人もいます。ミーティングの場所は慎重に検討してください。オンラインミーティングも有効ですが、可能なら、対面で行いましょう。

1年目

セッション1 アドバンスへようこそ

初回のグループミーティングでは、お互いを知り、グループのあり方の枠組み作りをします。この導入に沿って、対話を通し、伝道とは何かと、伝道者の働きに必要な5つの本質を学びます。

セッションのまとめ

アドバンスの最初の12課で、5つの伝道の本質において、力を与える神により頼み、共に成長し、励まし合い、備え合います。

セッションの背景

アドバンスの旅路に人を迎え、伝道について議論するとき、伝道への呼びかけは個人的なものだと思いつくとよいでしょう。マルコ1:16-18で、イエスは岸辺から、若い漁師、アンデレとペテロに声をかけ、網（自分の商売）を捨てて、ついて来ようと言いました。今日、神は同じ言葉であなたを呼びますか。この兄弟と同じ職業でなければ、それはあり得ません。イエスは彼らを個人的に、漁師という比喻を用いて伝道に招きました。

神は、私たちの情熱と神が何者かの理解につなげることで、一人ひとりを神の働きに個人的に呼び出します。音楽家、芸術家、科学者、看護師、経営者など、あなたの職業や才能が何であれ、神はそれを用いて、福音を宣べ伝える機会を作り出すことができます。

伝道の目的は、人々を神の良い知らせにつなげることです。伝道のメッセージは、イエス・キリストに信頼し従うことで、神に対する拒絶から、神の支配を受け入れるようにとの呼びかけです。私たちは神のために創造されたと認識すると、礼拝とは何かを理解し、人生を変える聖霊の力を体験します。従順、献身、信仰、愛を通して、人生を生きた礼拝とすると、自分の全体性を見つけます（ガラテヤ5:13-26）。

出エジプト8:1で、神は「私の民を解放しなさい」とのメッセージを持ってファラオのところに行くようにモーセに指示しました。今日も、神の願いは、捕虜を罪から解放することです。奴隷でいる必要はありません。神は、イエスとその霊の力により、私たちが自由に生きることを可能にしたからです（ローマ8:2）。伝道の目的はモーセとイスラエルの民に語られたのと同じ-礼拝です。

- わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。

● 出エジプト 8:1

私たちは、他の人が礼拝に来て証し人になるように、証しする礼拝者であるべきです。

品性を持ち、励まし、備え合い、神から力を得て務めます。

セッションガイド

近況報告 [20~30分]

グループ全員を紹介し、お互いを知ることから始めます。アイスブレイクゲームをするか、各自、自己紹介をしても良いです。

それから、4ページの「はじめに」を読むか、自分のスタイルで、どのようにグループの活動を進めていくかを説明します。

祈り

アドバンスの旅路全体を神に委ねること、近況報告で出たそれぞれの祈り課題について祈ります。

学び [20-30分]

以下の教材をそのままか、自分なりに工夫して読む、またはアレンジして、教えます。

- けれども、私が自分の走るべき道のりを走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を証しする任務を全うできるなら、自分のいのちは少しも惜しいとは思いません。

● 使徒の働き 20:24

「伝道する」とは「良い知らせを告げる」こと。良い知らせとは、罪深い、神に背いた人類がイエス・キリストの救いの御業により、神と和解したというイエスのメッセージです。イエスが私たちが受けるべき死を引き受けたので、現在から永遠に至る永遠の命を知り、神との回復された関係を楽しむことができます。

伝道についての2つの定義を見てください。

- 歴史的、聖書的なキリストを救世主、主であると宣言し、人々がキリストのもとに個人的に来て、神と和解するように説得することを目的とする。

● ローザヌ条約

- 伝道とは、罪深い世界に対し、神の赦しを受け入れ、神の主権と愛と命を今日も永遠に知ることを願い、聖霊の力によって、イエス・キリストの福音を宣べ伝えることです。

話し合う: これらの定義から、伝道の働きについて何を学ぶことができますか？ (具体的な議論のためにいくつかの単語をハイライトしています。)

伝道には、言葉によるメッセージ、復活したイエスの表現、そして聞き手が良い知らせを受け取り、応答に招くことが必要です。伝道には言葉が不可欠なのは間違いありませんが、言葉で伝えただけで終わらないようにすべきです。

伝道は霊的な働きで、神が力強く動くことで初めて効果を得ます。もし伝道が単に人々の考えを変えるものなら、説得力があればよいでしょう。しかし伝道は私たちがメッセージを伝え、神の霊が確信と信仰を与え、心の変革が始まります。聖霊の力を伴わない伝道は、単なる宣伝活動に過ぎません。

- 聖霊の力の現れがなければ、福音の宣教は無駄だ。伝道とはいえないだろう。

● デイビッド・ワトソン

逆に、伝道者レナード・レイブンの言葉を借りれば、神がその中に働いているなら、

どんな伝道方法でもうまくいくという確信を持つことができます。

伝道の目的は、弟子、つまり霊と真理によって礼拝する礼拝者を形成することです(ヨハネ4:23)。伝道者は自分自身が本物の礼拝者でなければなりません。礼拝と伝道は表裏一体だと言われますが、確かに私たちの世界への証しは礼拝で、私たちの王に対する従順と献身です。

このアドバンス・グループ・セッションは、本物の礼拝者としての成熟を助け、伝道者の5つの中核の本質における成長を見ることができます。

聖書を教える伝道者

宣べ伝えるメッセージを可能な限り深く知るべきです。宣教は私たち自身の考えや思い込みではなく、神が教えるみことばに基づくので、神のみことばを読んで学ぶことに専念します。

祈る伝道者

救いをもたらすのは神の力なので、伝道の働きをするとき、聖霊の力の元にへりくだります。神からの好機と伝道の結果、人が救われ、人生が変えられるのを見たいと神に祈り求める生き方です。

説明責任を果たす伝道者

聖さは福音の中心です。変える力がある福音を真に伝えるとは、人が見ていても、いなくても、説明可能な表裏のない生き方をすることです。聖いメッセージを伝える聖い人に成長するには、上手に行くとき応援し合い、失敗したとき建て上げる関係が重要です。

心を尽くす伝道者

伝道の鍵は意図的であること。神の愛を伝える日常的な好機を意識し、それを捕らえま

す。イエスの物語をただ伝えるだけでなく、聞いた人々を新しい人生に招き、弟子としての歩みを支援します。

感動を与える伝道者

福音を必要とする世界に福音を届けながら、教会にも同様の働きかけをすべきです。伝道はすべてのクリスチャンの任務で、教会を励まし、奮い立たせることも伝道者の責務です。

話し合う: 5つの中核的な本質について考えてみましょう。それぞれの領域で、あなた自身の強みと弱みはどこだと思いますか？

ディスカッション [15分]

以下の質問/ディスカッションから研究します:

- 伝道のどの部分が神の責任、または私たちの責任ですか？
- 私たちが真の伝道者、真の礼拝者であることをどのように確認できますか？
- アドバンスグループを通して、どのように成長したいと望みますか？

- もし罪人が地獄に落ちるにしても、せめて私たちの体をくぐり抜けて行かせましよう。もし彼らが滅びるにしても、私たちが彼らの膝に縋りついて留まるよう懇願しながら滅びさせましよう。もし地獄が満たされなければならないとしても、せめて私たちの尽力と共に満たされ、誰一人、知らされず、祈られないまま地獄に行くことのないようにしましょう。

● チャールズ・スボルジョン

適用 [5分]

自分の言葉で伝道の定義（できれば聖句を参照しながら）を考え、グループに送る（下記の「連絡先と次回日程」を参照）。この目標は、言葉で完璧に定義することよりも、あなたが今、伝道についてどう理解しているかを表現することです。

このセッションを振り返り、再考察する。次のセッションで時間があれば、これらの定義のいくつかをもっと詳しく一緒に見てみるのもよいでしょう。

最後に、今後のセッションの日程をできるだけ多く設定します。半年前が理想的で、全員がその日程を早めに決め、優先的にスケジュール帳に書くことができます。

祈り

神の素晴らしい福音に感謝しましょう。神が、あなたを世界における救いの働きの一部に選んでくれたことを感謝します。霊と真理をもって神を礼拝し、言葉と行動で神様のメッセンジャーとなれるよう、神が力を与えてくれるように祈りましょう。このアドバンス・グループで共に前進、成長していく中で、伝道者の5つの本質において成長するための助けがありますように。

アカウントビリティ [15分]

アカウントビリティ用紙と一緒に目を通し、記入し、ペアや小グループで共有する。最後に、お互いのために祈る。

連絡先と次回日程 [10分]

このセッションの最後に、グループの全員が使えるグループSNSをダウンロードし、ログインしてもらおう。WhatsAppとFacebook Messengerはどちらも無料で、良く機能します。次回セッションまでにも、最新情報、祈りの課題、証しなどのコミュニケーションに使うグループを作成します。

セッション2 伝道者のアイデンティティ

この課では、神のアイデンティティと神の福音に密接な伝道者のアイデンティティを学びます。

セッションのまとめ

伝道者のアイデンティティは、父なる神のアイデンティティに根ざす：私たちはメッセージを届ける神の子ども。

セッションの背景

ビリー・グラハムのミニストリーの最盛期には、クリスチャンの若者たちは、彼に倣い良い知らせを伝える伝道者となることを志しました。この20年間で、クリスチャンの若者の願望に明らかな変化が生じています。かつて、キリスト教の奉仕の頂点は伝道者とされていましたが、今日のクリスチャンの若者は、賛美リーダー、ユースワーカー、教会の牧師を目指すことが多くなっています

音楽や映画製作、その他の賜物ある人がクリエティブに、個人伝道や礼拝奉仕をすることで、教会は確かに恩恵を受け、彼らの信仰と努力によって、神は賛美され栄光を帰されてきました。しかし、誰かが真の礼拝者、つまり霊と真理による礼拝者（ヨハネ4：23）になるには、それ以前に福音を聞き、応答したからです（ローマ10：14-17）。

同様に、牧師や教師もまず自分が弟子となるのが必須で、役職にあぐらをかいていてい

られません。この世に宣教や伝道がなくなれば、教会は空になり、牧師は世話をする会衆を持つことができなくなります。

人々を真の礼拝に招くには、福音を説く必要があります。その意味で、私たちは誰も、聖霊の力によってすべての人々にキリストへの信仰を証しし、良い知らせを世界に伝える責任を回逃してはいけません（使徒1：8）。聖書は、すべての信者が伝道者の仕事をするように召されていると教えていますが（マタイ28：19、2テモテ4：5）、特に伝道者として召されている人たちがいます（エペソ4：11）。このような人々にとって、福音を宣べ伝えるのは、単なる日々の証しではなく、人生の主要な焦点となります。

セッションガイド

近況報告 [20-30分]

お互いの話を聞き、励まし、機会に関する振り返り、グループへの励まし等シェアしあう時間です。グループで伝道の聖書の定義（セッション1-応用）を発表し合い、前セッションを復習しながら、数分間一緒に話し合います。小さいグループなら全体で、大きいグループなら小グループに分けて話し合います。第1回目セッション欠席者のために、グループのあり方を説明するのもよいでしょう。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた、良い状況、困難な状況、様々な状況について祈ります。

学び [20-30分]

以下の聖書箇所を、そのまま読むか、自分なりのやり方で教えます。

- 神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。
- みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。
- というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、
- 真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。
- けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。

● **IIテモテ4:1-5**

伝道者の召しとは何ですか？すべての信者がイエス・キリストの良い知らせを世に伝えるよう求められているのではないですか？マタイ28章のイエスの大宣教命令は、イエスに従うすべての人に語られているようです。しかし、後のエペソ4:11-12で、牧師、教師、預言者、使徒と並んで、キリストのからだを築く伝道者という特定の役割が強調されています。「使徒の働き」では、伝道者という具体的な称号を与えられたピリポが登場します（使徒21:8）。伝道者の召命をどのように捉

えたらいいですか。すべての人、それとも特定の人のものですか？

IIコリント5:17は、キリストによって人は新しく創造されるとパウロが語った言葉です。これまで福音を伝えるのに、この聖句を使ったことがあるかもしれません。しかし、この聖句の続きを引用することはあまりありません：

- ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

● これらのことはすべて、神から出ています。神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました。

● すなわち、神はキリストにあつて、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わせず、和解のこぼれを私たちに委ねられました。

● こういうわけで、神が私たちを通して勧めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。

● **IIコリント5:17-20**

話し合う：このみことばは、セッション冒頭の伝道の定義とどのように関連がありますか？

神は被造物をご自身と和解させ、和解した私たちが神の変革のメッセージの大使となることを望んでいます。これは「プロの」伝道者だけでなく、すべての信者へ呼びかけです。しかし、どのように大使の務めを果たすかは、個人によって大きく異なります。

このように考えてみてください。サッカーチームでは、すべての選手が試合に勝つこと追求します。ストライカーには、特にゴールを決める使命があります。他の選手がゴールを決められないわけではありませんが、ストライカーの主な役割はゴールを決めることです。もうひとつの例として、結婚式の一日を思い浮かべてみてください。スマホを持つゲストなら誰でも、この特別な日の思い出を残すために素敵な写真を撮ることができるし、その中には、二人の公式フォトアルバムに掲載される写真もあるかもしれません。同時に、新郎新婦が依頼したプロの写真家は、優れた機材と技術を駆使し、素晴らしい結婚式の映像を残します。

教会として、私たちは皆、神の完全な王国の回復を追求しています。私たちは皆、証しと伝道において果たすべき役割を担っています。しかし、特に伝道活動を優先させ、他の活動を犠牲にしても伝道するよう召されている人たちがいます。使徒21:8で紹介されているピリポのような伝道者たちです。

もし、次のことが当てはまるなら、伝道者の召命があるかもしれません：

あなたは、一

- 失われた人々が救われるのを見たいと願っている。
- 「時が良くても悪くても」福音を宣べ伝えるように命じられている。
- どんな苦境に立たされても、粘り強く仕事に取り組む。
- 聴衆にとって耳の痛い言葉でも、伝えるべきメッセージを伝える。
- 力があり、人生を変え、救うことができる福音のメッセージを、失われた人々に伝えることに尽力する。

- 伝道者になるようにと預言的な言葉を語られたことがある。
- 分かりやすく伝える能力がある。
- 気が付くと定期的に失われた人々のために祈っている。
- 福音が導くところ、どこへでも行くつもりだ。
- だれかが信仰をシェアするのを助けたいと願う。

話し合う：これらの事柄で特に当てはまるものはどれか、時間をかけて話し合います。グループ内に伝道者がいるなら、彼らがどのように自分の才能と役割を認識するようになったかを話してもらいます。

聖書は、神が誰一人滅びるのを望まないと教えます（IIペテロ3:9）。伝道者は、父と同じ心で世に出ることを余儀なくされています。義務や恐れからではなく、私たちの心が天の父と一致しているからこそ、福音を伝えることができます。伝道者のアイデンティティは、その役割ではなく、神の相続人となった神の子としての新しいアイデンティティにあるのです（ヨハネ1:12）。

才能や召命があっても、誰ひとり、自分自身や他人を救う力はありません。私たちは伝えることしかできません。救うのは神だけだからです。神は、私たちが愛する天の父としての神をより深く知り、その救いの力を世に明らかにするために、失われた人々に対する神の心を自分の心とするよう招きます。

- 伝道は神の超自然的な力に根ざしているから、自分の小ささを祝い、御霊の力の中で歩もう！福音の真理とその奥義を学び続けよう。伝道は神の真理に根ざしているから、出会うすべての人に関連性を

- 示すことができる!愛こそが、他の人々に手を伸ばす動機であり、手段だと思いつく。福音主義はキリストの愛に根ざしているから、イエスの愛と憐れみを表現する以上に、福音に閉ざし抵抗する心や考えを開くものはない!

レベッカ・マンリー・ピッパート

ディスカッション [20分]

1. 個人的な証しと伝道は違うものですか?
2. すべての人に伝道者の仕事が行われているなら、なぜ伝道師と呼ばれる人たちがいるのですか?
3. 伝道者だろうとなかろうと、失われた人への父の心を自分の心として育むにはどうしたらいいですか?
4. 伝道は「プロ」だけがするものだと思っている人たちに、自身が「和解の使者」になるよう促すにはどうしたらいいですか?

適用 [5分]

伝道者の召しのない人が福音を伝えることを免除されているように、伝道者だからといって福音を伝えるわけではありません。すべての信者は、神が誰であるか、神が自分の人生に何をしてくださったかに対する自然な反応として、福音を伝えるべきです。私たちが御父の愛によって変えられたように、他の人たちも同じように彼らを変える愛を知ることが私たちに切望します。

これから1ヶ月間、毎日のディボーションの時間にマルコ福音書を読み、マルコの主要なテーマの一つである「イエスは神の子であり、父の御心を行うために来られたしもべである」という点に注目してください。このような視点で福音書を読み直しながら、自分の

真のアイデンティティを確認できるように神に願ひましょう。

祈り

天の父なる神が、誰も滅びることを望まず、イエス・キリストを信じて、すべての人が救われる道を作ってくれたことに感謝しましょう。神が伝道者としての召命を明確にしてくれるように、福音を伝える機会をより多く与えられるように、より大胆に福音を伝えることができるように、お互いのために祈る時間を持ちます。

アカウントビリティ [15分]

ペアまたは小グループで、自分が伝道者(伝道者の仕事に召されている人)だと考えるか尋ね合います。人生にある神の召し、またその召しに忠実であることがあなたにとって何を意味するか考える場を設けます。

最後に、アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈ります。

セッション3 伝道者のメッセージ

この課では、福音のメッセージそのものを探ります。福音とは何か? 分かりやすく伝えるために、メッセージを十分に理解していますか。

セッションのまとめ

伝道のメッセージは、イエス・キリスト:キリストが来て、十字架につけられ、復活し、再び来る。

セッションの背景

聖アウグスティヌスは、「主よ、あなたを私たちをご自身のために造られました。私たちの心は、あなたのうちに憩うまで休まりません」と名言しました。

福音は、人々を失望、暗闇、傷心、絶望から、喜び、光、愛、希望に導きます。安らぎの無い心を創造主の充足へと変えます。しかし、悲しいことに、信者の多くが福音の力への確信がないように見えます。信者が福音を伝えない理由はたくさんあります。恐れ、不適格感、誰かがやるだろうという期待などです。どの理由も、福音を理解していない、その力を信賴していないことに起因します。

ローマ1章で、パウロは「私は福音を恥じとしない」と大胆に宣言し、間髪入れず、その理由を述べます:それは、信じるすべての人に救いをもたらす神の力だからです(ローマ

1:16)。福音が救いをもたらす神の力だと理解するのは、神が誰で、何をして、それが世界に何を意味するかを理解すること。そのすべては、イエス・キリストが誰かという現実が包括します。講堂や討論会の外では無意味な、漠然とした哲学とも違います。福音を理解するとは、創造主の正体と私たちの存在意義など根本的な問いを解くことです。

私は誰?

誰もがこう問いかけます。生きる意味は? 目的はあるのか?私のアイデンティティは? 福音は、あなたは神の子で、神に造られ、愛されていると答えます。

今日、世界中で人の最大の関心事は、「死んだらどうなるのか」より、「こうして生きている自分は何者か」です。

神とは誰か?

世界には多くの宗教があります。もし、神がいたとして、神が何者で、私たちが正しい神を拝んでいるのかをどのように知ることができますか。神は、被造物、聖書、世界中のクリスチャンの体験、イエス・キリストを通してご自身を知らせます。神は生命を創り、維持し、宇宙の王、完全に愛に満ちた天の父、傷み背く人類がご自身との関係に戻るのを切望する方です。

イエス・キリストは何者か？

イエスは、人類の歴史上で最も人を惹き付けた人物です。イエスの存在を疑う歴史学者はほとんどいませんが、彼は何者でしたか？賢者？ペテン師？狂人？真実は、イエスは彼の言葉通りの人物です。その生涯と死と復活を通して、人が神の子となり、永遠の王を永遠に知ることを可能にした世界の救世主です。

これらの疑問は、福音を語るきっかけになっても、福音の意味を十分に理解するには至りません。むしろ、関係を築くための接点です。これらの質問を通して、イエス・キリストの完全で力強い福音を指し示せるように、聖書を深く掘り下げる必要があります。

セッションガイド

近況報告 [15-25分]

時間をとり、近況、体験談、励まされた事、反省点など、グループに助けになることを分かち合います。

この1ヶ月間のマルコ福音書通読の道のり（セッション2-応用）をシェアしてもらおう。またこの時間で、役職としてでなく、神の御子の救いの御業によって神の子とされた召しによる真のアイデンティティを探り、確認します。このアイデンティティへの応答は、家族の中でまず自分が和解の使者となり、失われた人々を探し出して、彼らも家に帰れることを知るようにすることです。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた、良い状況、困難な状況、様々な状況について祈ります。

学び [20-30分]

以下の聖書箇所を、そのまま読むか、自分なりのやり方で教えます。

● 兄弟たち。私があなたがたのところに行ったとき、私は、すぐれたことばや知恵を用いて神の奥義を宣べ伝えることはしませんでした。

● なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心していたからです。

● **1コリント2:1-2**

パウロは、「私はあなた方と一緒にいる間、イエス・キリストと十字架につけられたキリスト以外には何も知らないと決めた」と宣言し、イエスの物語の真実と力への全幅の信頼を表明しました。これこそ福音の核心です。神ご自身がイエス・キリストを通して人となり、私たちの世界の混乱に足を踏み入れ、完璧な人生を送り、私たちが受けるべき死を引き受けて十字架にかかり、3日目に復活して死の呪いをきっぱりと断ち切りました。救いと真のいのちは、イエス・キリストを信じる信仰によって見出します。この真理を、単に思考の変化だけでなく、新しい生命をもたらすために、つまりイエス・キリストを信じることによってのみ達成できる変化をもたらすために宣べ伝えます。

このセッションでは、福音とは何かを探ります。以下の項目（このガイドの巻末にある）を使って、私たちが信じる福音とは何かについて話し合ってみてください。

福音の教理 (176ページ)

福音を理路整然にレイアウトしたもの。
(理系の伝え方)

福音物語 (177ページ)

物語の中の福音（文系の伝え方） 大まかに言うと、同じ福音でも理系、または文系の伝え方があります。

ユーストーク&福音メソッド (178ページ)

方法（メソッド）を用いて福音を語るのは福音の説明と、福音物語の特定の部分に焦点を当てることで聞き手が明瞭に理解できるように提示する方法です。

福音の真理を宣べ伝えることは命令だと認識してください。私たちは誰も救うことができません。福音は救いをもたらす神の力です（ローマ1:16）。もし私たちの福音メッセージが、聞く人の心に心地よく響き、一側面的に道理にかなえば「応答」してたくさんの方が手を挙げるかもしれませんが、彼らが本当に応答したのは何でしょうか。

福音のメッセージには、信じられないほど耳が痛い考え方が含まれます。私たちは皆、「罪人」で、死に値する破滅した存在だと主張します。福音の良い知らせは、酷い状態の人間に救いを与える「神からの答え、応答、解決」で、非常に良いものです。

神がどれほど愛にあふれ、恵み深い方かという概念は、罪がどれほど問題と捉えるかで決まります。人は、神が罪を裁き、愛の神が人を地獄に落とすのをよしとするという考えに苦しみます。福音のこの側面を軽視したり、完全に無視したりする誘惑に駆られますが、それではダメです。私たちの伝道には、罪の問題を明らかにし、十字架の力と復活の希望が、神の子供たちに愛ゆえに与えられたもつたないほどの恵みで、人類の唯一の希望だと理解させる責任があります。

罪は、より大きい神によって解決された大きい問題です。それを認めないと、勝利して余りある真実からも目を背けることとなります。

もうひとつ見落とされやすいのが、自分を捨て、日々自分の十字架を背負い、イエスに従うという考えです（マタイ16:24）。「神が私

を幸せにしてくれる」という定説をより好むと、イエスの犠牲が最小限にされがちです。同様に、人々を説得しようと、足したり引いたり、自分のコミュニケーション能力に頼ると、真に力強い救いの福音を、全く福音でなくします。

● 福音の霊的な力は、私たちが福音を増補したり調整したりして、まったく福音でなくしてしまうときに否定されます。

● メッセージだけが救いのための神の力であることを疑うとき、私たちは自分の説得力やプレゼンテーションの力を信じて、足したり引いたりし始めるのです。

● **マット・チャンドラー**

人々の疑問をキャッチできないまま福音を伝えようとするのは避けるべきです。例えば、最近の若い世代は、「まだ先」の死後どうなるかより、「今」の目的、アイデンティティ、正義といった目の前の問題に関心があることが多いので、これを念頭に置いた福音の伝え方が必要です。メッセージの外装は時代とともに変わっても、その内容、本質的な真理は変わりません。福音を明確に伝えるには、福音を深く知らなければなりません。私たちが提供するのはいくつかの良いアイデアやアドバイスではなく、御霊の力によるイエス・キリストの本物の福音です。

毎日の聖書の学びを優先するのは、すべての信者にとって不可欠で、その真理を常日頃から伝えている人には特に必要です。毎日聖書を生活の糧としていないなら、どうして聖書から啓示を受けていると主張できますか。私たちが伝道者であるだけでなく、聖書を教える伝道者であることが求められています。

ディスカッション [20分]

1. あなたは、福音をどの程度理解していると思いますか？

セッション4 伝道者の働き

説教と宣教の違いは何ですか？この課では、聖書的かつ具体的にこれを探り、聖霊の力に完全に従うことで、会話でも説教でも、言葉での伝達スキルの向上を励まし合う機会にします。

セッションのまとめ

伝道者の働きは、神のみことばを通して啓示された福音を、聖霊の力によって言葉で伝えることです。

セッションの背景

アッシジの聖フランシスコが言ったとされる言葉：

- いつでも福音を宣べ伝え、必要なら言葉
- を使う。

これは、福音に生きる人生の重要性を言い表すのによく引用される文です。しかし、これには2つの問題があります。ひとつは、記述されていないので、聖フランシスコがこう述べた実証がないこと。2つ目で、さらに重要なのが、これは単に声明として成り立たないということです。生き方を通して神の御国の良い知らせを現わすのは正しいことですが、福音を宣べ伝えるのはまさに言葉あつてのものだからです。使える文章にするようになります：

- いつでも福音を宣べ伝え、必要なので言葉を使う。

「説教する」「宣べ伝える」とは、言葉を発することの動詞です。生活を通して完璧に「福音」を表していると思っていても、イエスにある希望を言葉にしなければ、どのようにあなたの生き方の理由を世界が知ることができますか？

- 黙ったまま、私の行動を自由に解釈してください、というのは間違いだ。神はそうはしない。歴史の中の重要な神の救済行為には、言葉による啓示が伴う。

- ウィル メズガー

新約聖書（使徒2:14）に記されているように、福音を広めるためには説教が不可欠でしたが、今日では、説教は古いやり方で、福音を分かりやすく伝える最善の方法ではないと信じる人もいます。もちろん私たちが工夫を凝らして説教したいです（意志伝達の王道、映像制作や作詞作曲を試す）が、聖書が命じる伝道者の福音を伝える任務の中心的要素は、聞き手がメッセージを理解し、キリストの主権への招きに応じる機会を与えることです（Iコリント1:21、IIテモテ4:1-2、マルコ1:17、ルカ9:23）。

2. 今日、福音をうまく説明するための課題は何ですか？
3. どのように現代の聞き手と接点を持ちますか？
4. 「聖書を教える」伝道者とは、実際にどういう意味ですか？

- 福音はキリスト教の大動脈で、文化常識と相反する土台基盤を据える。真に福音を信じると、福音がキリスト者を取り巻く常識の中の問題との対決を命じるだけでなく、実は、福音は私たちを取り巻く、そして私たちの内にある常識と対決を生むことに気づく。

● デイビッド・ブラット

適用 [5分]

グループのメンバー全員に、YouVersion携帯アプリや他の聖書通読表を使って、毎日聖書を読み始め、継続するように勧める。イエスに従う者として成長し、福音を深く理解し、それを簡単に伝えることができるようになるには、みことばに親しむことが重要です。

本書の福音に関する資料と聖書を使って、福音について簡潔な説明（3～5点）を作り、それを裏付ける聖書箇所を添えて、次のセッションでグループ内で共有できるようにします。この課題はテストではなく、あなた個人が福音の真理を理解するための方法で、ディボーション活動です。237ページの「福音の教理」が役に立つでしょう。

祈り

「主イエスよ、あなたが来て完全な人生を送り、私たちの身代わりに十字架にかけられ、復活によって私たちが新しい命を共有できることを感謝します。あなたに信頼し、あなたの愛の中で成長できるように助けてください。

みことばをより深く理解し、福音をより深く知り、それを周りの人々にシンプルかつ真摯に伝えることができるように助けてください。あなたが与えてくださる機会に感謝し、みことばとあなたの臨在の中で時間を過ごすことで、その機会に忠実であるように私たちを備えてください。アーメン」

アカウントビリティ [15分]

少人数のグループやペアで、毎日の聖書を読む習慣について、お互いに正直に話してみます。良いこと、悪いことも含めて話し合い、神のみことばを読むことの好きなどころ、難しいと思うところをいくつか挙げてみましょう。聖書を読む習慣がある新しいシーズンをよくイメージし、目標を設定します - 目標を高く設定しすぎて心が折れることがないように。アカウントビリティ・グループに一月ごとの進捗状況を尋ねてもらいます。聖書を読む目標だけでなく、神と福音を日々より深く知る喜びが大切なことを忘れないでください。

最後に、アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、お互いのために祈ります。

すべての信者が説教する伝道者と召されているわけではありません。ほとんどの信者にとって、伝道と個人的な証しは対話と同じで、福音を言葉にして他の人に「宣べ伝える」主な方法です。

どちらにしても、伝道には言葉が不可欠、しかし、言葉だけではダメということを常に覚えておくべきです。そして、神の霊の力から切り離された言葉は、信じる者すべてに救いをもたらす神の力を欠くこととなります（ローマ1:16）。

これを踏まえて、伝道には3つのことが必要です：

宣言する：イエスが誰かを説明することで。

表現する：イエスを現す生き方で。

招く：こうすることでイエスに信頼する機会を与える。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

時間をとり、近況、体験談、励まされた事、反省点など、グループに助けになることを分かち合います。2～3人に福音のプレゼン（セッション3適用）をしてもらい、皆の感想を聞きます。建設的な意見求む！

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で印象に残った良い点、難しいことについて祈ります。

学び [20-30分]

以下の学びの題材を、そのまま読むか、自分のやり方で教えます。

- なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。遣わされるのがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。
- **ローマ10:9、13-15**

聖書には多数の「宣教」が語られています。通常「説教」「宣教」と訳すギリシャ語は少なくとも33種類あります。このローマ人への手紙では、パウロは良い知らせを伝えるという意味で「宣べ伝える」という言葉を使いました。パウロにとって、宣教は極めて重要で、テモテに宣教の働きを最優先するように言いました（IIテモテ4:1-2）。ペンテコステの日（使徒2章）に、神が説教を用いて、人々が神を信じるようにした例があります。何千人もの人々が救われたのは、単に超自然的なしるしや奇跡（火の異言、他の言語で話す）を見たからではなく、ペテロの霊に満ちた宣教を聞いたからです。

「エバンジェリズム」の語源のギリシャ語は、基本的に「良い知らせを宣べ伝える」という、本来は言葉による活動を意味します。

今の時代、説教は古臭いとされ、それよりも、「友情」や「個人的」な関係に基づく会話をういた伝道方法に焦点があてられます。ある人々は、言葉の力の必要性をほとんど捨てて、神の愛を行動のみで証しする社会への

奉仕を中心とした宣教活動を好みます。しかし、パウロがローマ書の中で問いかけるように、信者が、この世で愛を持って行動する力や、私たちの持つ希望について何の説明もしないなら、誰がイエスの真実を知り、喜んで彼を主と信じるようになるでしょうか？

話し合う：伝道者の働きに宣べ伝えることが重要だと知ると、どのように聞き手に分かりやすく伝え、有意義な応答の機会を与えることができますか。説教はどんな役割を果たしますか？

最善の伝道の実践は、先に挙げた選択肢の中から「どれか一つ」を見つけるのではなく、多様性を活かした様々なアプローチの価値を認識することです。そして、言葉を使うことは必須です。

公的な説教、また個人的な会話でも、いかに分かりやすく伝えるか常に考えることができます。聴衆とその背景を知るのは、私たちの伝えることを聴衆が理解しやすい説明や接続点をきめ細やかに考えるのに重要です。例えば、中高生のグループに福音を伝えるのと、高齢者と一対一で会話する場合には異なる語彙や関心事を盛り込みます。福音のメッセージそのものは変わりませんが、その表現方法、使用するイラスト、文化的な言い回しを、目の前にいる人々に合わせて調整できます。何を伝えるかは変わりませんが、どのように伝えるかは変わります。

このように、福音を伝える準備をするのは、クリスチャンの歩みの重要な一部です。説教で毎回、同じ古い福音の語り方だけに固執していたら、陳腐で怠惰な説教者になる可能性があります。また、話す相手が違うのにも同じ方法で福音を説明するなら、彼らがイエスを発見する手助けにはなりません。何よりもまず、祈りを持って準備に取り組み、神の霊によって、語るべき言葉が与えられるようお願い求めるべきです。そして、私たちが

接するであろう人々を考慮し、さまざまな方法で福音を伝える準備をしなければなりません。

話し合う：福音を言葉にするとき以下の要素から、自分の伝道の機会にどのように適用できるか考えます。この準備自体が、どんな礼拝の行為になり得ますか？

次のように宣言すべきです：

- **明瞭に：**わかりやすさは、優れたコミュニケーションの究極の目的です。明確に説明するには、福音をよく理解し、深く知ること、端的に表現できるようにすることです。
- **霊的に：**死んだ心が福音のメッセージによって生かされるには、神の霊の働きが不可欠です。説教するとき働かれる霊の力に従わなければなりません。
- **愛をもって：**人々を獲得するのは私たちの考えや知恵でなく、生けるイエス・キリストおひとりです。謙虚に説き、同労者（神）に敬意を払い、伝える相手（神の子供たち）に憐れみを持つべきです。
- **大胆に：**謙虚さは、福音の真理を伝えるときの大胆さを否定するものではありません。メッセージの真実に確信と自信を持ち、親切、穏やか、謙虚に語るができます。
- **ユニークさ：**キリストは後にも先にも唯一無二の存在であることは、福音を語る際のものであります。
- **個人的に：**自分の人生に福音が与えた影響について話すことで、福音の真理を示し、聞き手の状況との橋渡しをすることができます。

セッション5

伝道者の力

私たちは、霊的に死んだ心の再生を見たいと願います。この課では、祈りにより霊的な力を得ることの意味を探り、私たち自身の心の中に本物のリバイバルが起こされ、それを世界にもたらすように導きます。

セッションのまとめ

祈りは伝道の基礎で、人間の努力ではなく、神の手に委ねられた力です。

セッションの背景

長老派の牧師で宣教師のアーサー・タッパン・ピアソンは、「どの国や地域でも、一致した祈りなくして、霊的覚醒はない」と、印象的な主張をしました。

彼の発言と矛盾するような例を見つけるのは困難でしょう。これは、聖書を通して神がその民に与えた命令と、それに伴う約束を言い表しています。ソロモンの治世に、神に反抗し不従順のゆえ混乱に陥り、滅びるしかかったイスラエルの民に、神が希望を与えようと語りかけます：

- わたしの名で呼ばれているわたしの民
- が、自らへりくだり、祈りをささげ、わた
- しの顔を慕い求めてその悪の道から立ち

- 返るなら、わたしは親しく天から聞いて、
- 彼らの罪を赦し、彼らの地を癒やす。

● II歴代誌7:14

同様に、イエスの福音は、謙虚になって人生の支配権を神に明け渡し、キリストを主と告白して服従し、癒しと新しい命を受け取るチャンスです。反逆（自分の罪）から、啓示（神の真理）、悔い改め（神への信仰）、リバイバル（他の人に変化を与える変化）へと移行します。

II歴代誌で使われている「回心」の意味は、新約聖書で「悔い改め」と訳された言葉と同じです。まさにそう呼びかけながらイエスは宣教を始めました（マルコ1:15）。II歴代誌のイスラエルの民と今日の私たちの問題は同じです。容易く（自分自身を含む）他の神々に目を向け、自分の運命を支配しようと躍起になります。この不従順は、死、破損、混乱をもたらすだけです。神は、私たちが背を向けた瞬間から、神に立ち返るよう呼びかけています。福音は、私たちの反逆にもかかわらず、神の恵みと、神に対する謙虚な応答の中に希望があると明らかにします。

裁判官への嘆願は、通常、無罪を主張し、免責を願うものですが、ここでは、永遠の裁判官の前に頭を下げ、自分の罪を認めなさいと言います。そうして初めて、私たちは赦されま

す。正義は、私たちが聖なる王に反逆した現実を照らし出し、罪への罰を要求しますが、神は代わりに、十字架の完全な正義によって、私たちに赦しを与えます。死の代わりに、癒しと回復と命が与えられるのです。神は謙虚な者を新しく生かします。

リバイバルのための祈りと（神と互いの）一致の力のもう一つの例は、ヨブ記にあります。ヨブの転機は、自分の観点を神から厳しくテストされたときでなく、ヨブの観点を惑わせる悩みの種だった友人たちのために従順に祈ったときです。ここで、ヨブは自分の境遇から目を上げ、（自分を不当に扱った）他人のために恵みを持って祈り、回復されます（ヨブ42:10）。

リバイバルは、一人の人が天の父への服従を選び、平和の王国への忠誠を宣言することから始まります。イエスが主だと言葉と行動で宣言し、聖霊に頼って新しく生まれ変わる力を得る、たった一人が必要なのです。神の恵みにより、リバイバルは私たちから始まります。そして、同じ恵みによって、かつて反抗的だった人々が謙遜に団結し、この地を癒す神の力を祈り求めれば、どこでもリバイバルが起きるのです。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

時間をとり、近況、体験談、励まされた事、反省点など、グループに助けになることを分かち合います。

この時間を使って、福音のプレゼン動画（セッション4-適用）について話し合います。良い点、悪い点は何ですか。この例が良い知らせを伝える成長に役立つ点はどこですか？

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で印象に残った良い点、難しいことについて祈ります。

学び [20-30分]

以下の学びの題材を、そのまま読むか、自分なりのやり方で教えます。

- そこで、私は何よりもまず勧めます。すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。それは、私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るためです。そのような祈りは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることです。神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。

1テモテ2:1-4

テモテへ宛てた最初の手紙で、パウロはエペソの教会の礼拝生活への明確な指示を与えます。そして、すべての人のために祈り、執り成すことを優先しなさいと語ります。それは神が喜ばれることだからです。神は、すべての人が神の国の平和を知りたいことを望んでいます。祈りとは、神にしかできないこと、つまり、混乱の中に平和を、死から生をもたらすことを求める方法です。

祈りは伝道の基礎です。なぜなら、神の力を求め、その力を人間の努力ではなく、神の手に委ねるからです。

- 聖書は神の言葉で、反抗的な男女をご自分のもとに連れ戻す神の働き物語です。人間が失われた神を求めるのではなく、神が失われた人間を求める物語です。聖書は祈り方を見せるのではなく、祈りの神を見せます。私たちが答える前に

- 呼び、私たちが呼ぶ前に答えてくださる神です。

エドマンド・P・クラウニ

アメリカ建国の父ベンジャミン・フランクリンは、かつてこう言いました。こう言い換えることもできます：

- 祈り込んで伝道の準備するのを怠ると
- は、伝道で失敗する準備をしている。

忠実な祈りと霊的な力ある福音メッセージを持ってしても、人々は福音を拒否する選択もできます。しかし、救いの力は神だけにあり、たとえすぐに結果が見えなくても、私たちの祈りによって神が働かれるのを信じていることができます。伝道の結果は、メッセージを聞く人、そして神ご自身に委ねられています。伝道の成否は、何人救われたかではなく、神が求めていること、すなわち、祈ることと宣べ伝えることに従順かどうかで測られます。

私たちが祈る動機は、第一に神がそうするように命じているから。しかし、この動機も、天の父との関係が深まることで成熟し、単に神の命令に答えていたものが、神を賛美し、人生と祈る人々に神の善と祝福を心から願い求めるようになるはず。神をより深く知ると、神の御心がはっきり分かります。祈れば祈るほど、神を知り、神を知れば知るほど、神の御心が天でも地でも成されるように祈りたいと願うようになります。

どんな祈りの生活をしていますか。自然に祈れる人もいれば、多くの努力を要する人もいます。自問自答してみてください。

「説教をするのと祈るのとどちらが楽か？」

「説教時間を超えても説教を続ける？」

「普段、ディボーションや静寂の時間を超えても祈りを続ける？」賛美するのはどうですか？多くの人は、賛美の音楽に没頭するのは簡単ですが、祈りはそうではありません。

もし効果的な伝道をしたいなら、自然にできるかできないかでなく、祈り深い人間になる必要があります。祈りの長さは重要ではありませんが、真摯さは重要です。自分の人生と他の人々の人生を変える主の働きを心から願い続けることで、主の御前でより長い時間を過ごす能力が高まることに気づきます。その時間が、主に栄光を帰し、私たちのためになり、他の人々への祝福となります。

話し合う：ウェストミンスター短編カテキズムでは、祈りとは「キリストの名によって、神のみこころにかなうことを求めて、私たちの願いを神にささげ、私たちの罪を告白し、神の慈しみを感謝して認めること」と説明しています。この記述は、特に伝道との関係において、あなたの祈りに対する理解をどのように形成していますか？

伝道活動の一環として他の人のために祈るということに加えて、福音を伝えるために自分自身を準備するという点に関して、私たちは少なくとも3つの方法で祈りを理解し適用することができます：

まず、私たちが神の子、またイエス・キリストの弟子として**成熟し**、他の人々が同じように成長するのを助けるプロセスの一部として（エペソ4:14-16）。

第二に、神の力が私たちを通して働きと**証しの機会**をもたらす、私たちの伝道を、単にキリスト教信仰を売り込むものから、**心を死から生へと揺り起こすもの**に変える方法として（コロサイ4:2-6）。

第三に、私たちが霊的な戦いの最前線に出るとき、敵の攻撃から身を守る**霊的な鎧を身につけさせ**、敵の策略に惑わされた、すべての人の**目を開き**、イエスの光を見、知るようになるため（エペソ6:10-20）。

セッション6 伝道者の献身

私たちの生活と伝道が本物であり続けるにはどうすればいいですか。前は祈りについて学びましたが、今回はクリスチャンの歩みと伝道における完全な献身の重要性について学びます。

セッションのまとめ

献身による、聖なる天の父との時間が私たちに聖くし、心を変え、唇に希望のメッセージを与え、真の御国の大使に造り変えます。

セッションの背景

毎年恒例の過越の祭りでエルサレムを訪れていたマリアとヨセフは、イエスが行方不明だと気づきます。3日間探し回って、神殿の境内で祭司や宗教学者たちと一緒にいるイエスを発見します。識者たちに囲まれたイエスは、聞くだけでなく、わずか12歳にして旧約聖書を理解し、説いて、彼らを驚かせました。「なぜ親を心配させるようなことをしたのか」とのマリアの問いにイエスは戸惑っているようでした。

イエスは両親が彼の居場所を知らなかったことに戸惑いました。

どうして彼らは、イエスが居て当然の場所、父の家にいると考えつかなかったのでしょうか。まるで、アメリカの大統領を探し出そうとして、ホワイトハウス以外の場所を探し回っ

た結果、大統領執務室の机にいる彼を見つけて、「どこに行っていたのですか」と憤慨して尋ねるようなものです。

ルカは、マリアに応答して、神との独特な関係を主張したイエスの言葉を記しています：「私が居るべき父の家に居ることを知らなかったのですか。」(ルカ2:49)このようなイエスの発言は聖書の中でここだけです。イエスはここで自分が神の子だと初めて宣言しました。

十字架の御業によって、私たちは神の家族に養子として迎え入れられました。イエスを信じて、神の子と呼ばれる権利が与えられた私たちが父の家で過ごすのは、どれほど当たり前なことですか。

神に自分を捧げる献身があって初めて、本当の自分を見つけます。成長し、洗練され、勇気づけられ、間違いに気付かされ、生きる目的を教えられ、自分の存在意義を見出します。献身を通して、聖化(キリストに似たものにされる)があります。聖化を起こす献身はクリスチャン生活の中心で、福音は聖なる人々によって生き、宣べ伝えられるので、伝道の働きに極めて重要です。

御前に来る私たちに、神は憤りではなく、喜びをもって、「どこに行っていたのか」と問いかけます。

パウロがテモテにしたように、私たちもすべての人のために祈ることを促し、励まし合います。世界が神の救いの真理を知り、それに従うようになることを願って、私たちが神の力に従うことが、神に喜ばれることです。

ディスカッション [10分]

- 福音を伝える前、または特別な証しの機会の前に、どんな祈りの習慣や訓練がありますか？
- 伝道活動中も祈りを用いますか？もしそうなら、どのように？
- 「答えられない」祈りをどのように理解し、対処していますか？信仰を伝える中で、誰かにこれについて尋ねられたら、どのように理解させますか？

● 来るべきリバイバルは、祈りが大きく揺り起こされてから始まります。まず、閉じられた貯水庫の中から大雨が降る音が聞こえます。同労者たちの隠れた祈りの増し加わりが、祝福の確実な前触れとなるだろう。

● アンドリュー・マーレー

祈りとアカウントビリティ、前半 [20-30分]

2人が3人で、自分の祈りの生活、パターン、習慣を振り返る時間を持つ。その取り組み方の長所と短所をお互いに正直に話し、毎日祈る時間を持ち成長すると決意する。

次の3つの方法で一緒に祈りましょう。

- お互いのために祈る。
神との関係において日々成長する謙虚な人になれるように。

- あなたの地域、町、都市のために祈る時間を取ります。失われた人々が救われるように、地域が癒されるように神に願います。(さらに言うと、「神様、今日も分かち合いの機会を与えてください、神様、今日も心を生き生きとさせてください」)
- 自分のために祈る時間を持つ。
前線に出たとき、神の完全な武具を備えているように祈ります。

適用 [5分]

まだイエスが主だと知らない友人、家族、同僚、または名前も知らない人を少なくとも5人書き出します。このリストを、携帯電話、財布、聖書など、毎日見ることができる場所に置く。毎日、その人たちのために忠実に祈り、神様が彼らを救い、神の信頼へ導いてくれるよう求めます。

アカウントビリティ、後半 [15分]

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、お互いのために祈って終わります。

忘れないで

あなたの祈りと伝道を通し、神がどのように働かれたかを聞きたいです。

advancegroups.org であなたの話を共有し、同じ旅路にある人たちを励ましてください。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

時間をとり、近況、体験談、励まされた事、反省点など、グループに助けになることを分かち合います。祈りのリスト（セッション5適用-2）を振り返り、毎日だれかのために忠実に祈り始めてからの最新報告をする。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で印象に残った良い点、難しいことについて祈ります。

学び [20-30分]

以下の学びの題材を、そのまま読むか、自分なりのやり方で教えます。

- さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

● マルコ1:35

私たちは、人生において様々なことに「専念」します。家族や友人を大切に、ポジティブに考える、夢を追い求める。趣味やスポーツに打ち込んだり、最新の携帯ゲーム機で高得点を出したり。

イエスは家族や友人にも心を尽くしました。父ヨセフに献身的に従い家業を学びました。母にも心を注ぎ、自分の死と復活、昇天の後、使徒ヨハネが母の世話をするように手配しました。友人たちとの交流にも熱心で、大勢の人々に説教するよりも友人たちと過ごす時間の方が長かったようです。

このような明確な献身を示しながら、「家族を対立させるために来た」（ルカ12:53）とイエスが言ったのはどんな意味ですか。私たちの献身（なにか、だれかに心を注ぐこと、それがどんなに崇高でも）と、イエスが天の父に捧げた献身を照らし合わせると、その意味が理解できます。イエスは、両親を愛することが悪いと言っているのでも、そのために家族を引き裂くことを望んでいるのでもありません。イエスは、神を第一にする献身がないなら、聖化につながらないと知っていました。神への献身を通して私たちは聖とされます。

話し合う: 神への献身を邪魔するものはありますか？それ自体は悪いことではないが、神への服従を妨げたり、気を散らしたりしやすいものについて話してください。

イエス様自身よりも伝道活動に傾倒してしまうことはあり得ます！しかし、私たちの一番の存在意義は王を礼拝すること。ミニストリーや召命ではありません。心から神に耳を傾け、神に献身する霊的な生き方が根底にあるべきです。

イエスは、宣教や地上での人間関係の要求にかかわらず、父との個人的な関係を優先し、退却し、祈り、耳を傾ける時間を取りました。イエスにとって、父と一緒にいるのが当然の居場所でした。マルコの福音書には、3つの静まりの場面が記されています。これらの箇所について、しばらく考えてみてください：

マルコ1:35-39 朝早く孤独な場所で祈る
これは、神からの指示を受けることについて、何を教えてくださいか。

マルコ6:45-46 祈るため山頂に退く
これは、神によってリフレッシュされることについて何を教えてくださいか。

マルコ14:32-41 逮捕される前にゲッセマネで祈る

これは、重大な局面で神に頼ることについて、何を教えてくださいか。

一日の中で、思いついたときに祈るのも良いですが、意図的に祈り、聖書を読む時間を確保することは非常に重要です。祈るのは得意でも、聖書を開くのは苦手という人もいれば、聖書の勉強は得意でも、なかなか祈れないという人もいます。聖書の1章以上を読み、その箇所に書かれていることを祈り、自分の人生にどう適用できるか考える、この2つの組み合わせは非常に効果的です。また、神を仰ぎ、感謝を捧げ、自分の願いや必要を神に言い表す時間も大切です。

罪を告白する必要のないイエスが、弟子たちに教えた祈りの中心は：「私たちの罪をお赦してください...」（マタイ6章、ルカ11章）でした。ダビデの詩篇51篇の告白と悔い改めの祈りは、必要ときに悔い改めの祈りをもって神の前にへりくだる姿勢は私たちへの素晴らしいお手本です。

聖化への第一歩は、神が聖であり、私たちは聖でないとの認識です。神を求め、毎日時間をとって神の前に出ることで、私たちを変え、神の愛の力がもはや以前と同じではないと保証してくれます。福音が真実で、救う力があると示す最強の証拠は、この「変化」です。神の素晴らしさを宣げ知らせ、イエスの物語を伝えるとき、それを聞く人たちは、私たちの神への献身を見て吟味し、福音のメッセージが本物だと確信します。

イエスは自分を捧げた十字架の救いの御業を通して、私たちを聖くする道を開き、古い生き方に死んで、イエスを信頼するように呼びかけます。新しい命へ足を踏み入れる私

たちに、イエスは、父なる神への日々の献身を通して聖さを追求するとはどういうことかを示しました。私たちは完璧ではないし、人生において常に正しいことができるとは限りません。しかし、恵み深く聖なる王の前にひざをかがめるとき、父が聖であるように私たちも聖とされる、癒しの恵みと助けの力を受けることができます。

ディスカッション [15分]

1. 生活の中で、毎日のディボーシヨンのために十分な時間を取っていますか？あなたの良い習慣は何ですか、また、どんな習慣が必要ですか？
2. 健全なディボーシヨライフと伝道の質との間に相関関係があることに気づきましたか？
3. 今後数週間、意図的なディボーシヨンから得る、指示、リフレッシュ、展望、悔い改めに対して、自分をどのように素直に従わせますか？

● （霊的）弟子訓練の目的は自由を得ることです。自由が目的で、訓練が目的ではありません。訓練（規律）を中心に据えた瞬間、それが律法となり、従う自由を失います...私たちは永遠にキリストを中心に据え、霊的規律をキリストの心に近づくための方法として捉えましょう。

● リチャード・フォスター

適用 [5分]

聖書の学びや祈る時間に加えて、毎日数分間、詩篇を読んで祈ることを始めてください。できれば、1ヶ月、1年と続けてみます。聖書を開いて詩篇を一編ずつ読むだけでも良いし、ティム・ケラーの「My Rock; My Refuge」のようなディボーシヨプランに従うのもい

いでしょう：A Year of Daily Devotions in the Psalms.

祈り

天の父が自分の子供たちとの関係を望んでおられることに感謝します。献身することで私たちがただの通りすがりではなく、天の父の家に住み、御父の臨在の中にいる子どもに変えられることを心から祈ります。神が聖いように私たちを聖くする人生を変える力が伝道の土台となるように、神に祈り願います。

アカウンタビリティ[15分]

生活の中で、なにが自分の偶像で、神第一の献身を奪う恐れがあるか、2人1組で話し合います。自分の盲点を克服するため、優しい気持ちで質問し合います。

アカウンタビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈ります。

セッション7 伝道者の従順

この課では、前の課で学んだ聖さと、(特に) 神のアイデンティティ、福音の希望、クリスチャンの生活との関連について深く学びます。また、弟子の歩みに欠かせないアカウンタビリティ(説明責任)についても学びます。

セッションのまとめ

ご自分が聖なように自分の民も聖であることを神は望み、聖霊に従い、共同体での説明責任を通して、聖さにおいて成長できます。

セッションの背景

聖、聖なるものという言葉は、聖書の中で700回以上登場します。聖さは聖書の中心的テーマで、それが私たちの人生の真ん中にある現実となるのを神は望んでいます。

神は聖なる方、とは、聖別されているという意味です。神は完全、主権者、唯一無二の存在で、こんな方は他にいません。私たちは聖くないし、だれも、聖なる神の完璧な基準に達しません。ヘブル人への手紙の著者は、聖なる者だけが主を見ることができると語り(ヘブル12:14)、イエスは心の清い者が神を見ると語り(マタイ5:8)。神との関係を望むなら、聖さの欠如は人類にとって大問題です。

どうすれば、汚れた者が聖とされ、主に受け入れられ、主の御国に住めるようになりますか。

良い知らせは、汚れた人々が完全な聖い神の御前に来て、神とともに永遠に住む方法をイエスが与えてくれたことです(エペソ5:25-26) イエスに信頼を置く者は、イエスの聖さを共有し、全く新しい人生に足を踏み入れます。真のいのちは、聖い生き方です。

聖さは、マタイ5:13にあるイエスの地の塩のメッセージのテーマです。塩が塩気を失ったら意味がないのと同じように、私たちが聖さを失ったら私たちのメッセージも絶望的です。この世では未完成な私たちでも、宣言するメッセージが本物だと世界が認識できるように、この世とは違った生き方が求められます。

- 御霊によって注がれたキリストにおける
- 神の私たちへの愛(ローマ5:5)は、私たちを神と御子との交わりに導き、そこから神の聖なる美しさを見るようになり、
- それを見ることによって、私たちも神のよう
- うに愛おしくなる。
- ジャッキー・ヒル・ペリー

福音は聖いメッセージで、聖い神が聖い方法で行動し、汚れた民が聖い王国の聖い民として、真のアイデンティティの回復が可能にされたことを証します。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、出来事や励まし、機会に関する振り返りなど、グループを励ますことを共有する。祈りながら詩篇を読んだ経験を、グループにシェアしてもらおう（セッション6-応用）。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で印象に残った良い点、難しいことについて祈ります。

学び [30-40分]

以下の学びの題材を、自分なりのやり方で教えるか、またはそのまま読みます。

この課では3つの主題聖句があります。

1. 神だけが聖です。

- わたしは、わたしの聖なる名をわたしの民イスラエルの中に告げ知らせ、二度とわたしの聖なる名を汚させない。諸国の民は、わたしが主であり、イスラエルの聖なる者であることを知る。

● **エゼキエル39:7**

私たちが神を知り霊と真理をもって礼拝することができるように、聖書は神がどのような方かを明らかにしています。聖書を読むと、神が唯一の真の神だと分かります。神は、三位一体（父、子、聖霊）で、完全で、永遠で、王です。

しかし、聖書が神について特に明確にしているのは、神が聖なる存在だということです。聖性は、神の第一の特徴です。つまり、神の

ような者はおらず、神は他のすべての者たちから区別されています。つまり、神のアイデンティティ、品性、臨在に匹敵する存在は他にありません。そして、神がご自分の民に望むのは、この特徴です。私たちが神への礼拝と従順によって聖別された、義と純潔の民となることです（レビ記11:45）。私たちの聖さの欠如、神の聖さへの拒絶が、人類に破滅的な問題を引き起こしました。神の王国は完全な王国です。私たちは不完全なものを選び、神の臨在から逸脱してしまいました。

2. イエスの聖性が、イエスの民の聖性を可能にする。

- イエスは永遠に存在されるので、変わることがない祭司職を持っておられます。したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。このような方、敬虔で、悪も汚れもなく、罪人から離され、また天よりも高く上げられた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。

● **ヘブル7:24-27**

神に似せて造られた私たちは、聖なる民とされるのは可能ですが、反抗心が邪魔をします。もし、神がご自分の王国にほんのすこしでも不完全な部分を入れるなら、その王国は完全でなくなります。なので、私たちが聖さを拒絶することは、神の聖さとその王国の祝福から私たちを排除することになります。

福音は、私たちが自ら選んだ死をイエスが十字架上で引き受けてくれたと教えます。イエスが私たちの身代わりになれたのは、イエスが完全に聖なる方（罪や汚れのない方）だからです。世の中の反抗的な態度の払いきれ

ない負債は、完全に従順なイエスの口座に請求されました。決して支払うことのできない私たちの負債を、イエスはその聖性という無限の宝によって解決してくれました。そして今、神はイエスに信頼を置く者を見て、人間の不完全さ（汚れ）ではなく、イエスの完全さ（聖さ）を見るのです。

特別な装いをして良い気分になったことがありますか？おそらく、特別な日にお洒落をして、家から一歩出ると、少し自信が湧いてくるでしょう。イエスに信頼を置くと、神はイエスの義を私たちに与え、私たちはイエスの完全な衣をまとうと聖書は教えます（ローマ5:18、ピリピ3:9、1コリント1:30）。

パウロは、肉の欲望を満たす代わりに、「キリストを着」、文字通りキリストの善を身につけるべきだと教えます（ローマ13:14）。ヤコブは、道徳的な汚れをすべて取り除くように勧めます（ヤコブ1:21）。私たちは、神に敵対していたものを脱ぎ捨ててキリストに委ね、キリストは偉大な交換、ご自身の義と交換します。

ドレスコードの基準を満たさず追い返されたことはありますか。神の完全な王国の入場条件は完全な聖性で、私たちにはないものです。しかし、不完全な民である私たちが、キリストによって「ドレスコード」にふさわしくされ、神の完全な王国に入ることができます。不完全で足りない私たちが着ることのできる、キリストの完全さがいつでも提供されています。最終的には、不完全だった私たちが完全な義の衣を着て、完全な王国に入る日が実現します。

3. 聖霊への服従と自制が聖い生活を生む

- その教えとは、あなたがたの以前の生活
- について言えば、人を欺く情欲によって
- 腐敗していく古い人を、あなたがたが脱
- ぎ捨てること、また、あなたがたが霊と
- 心において新しくされ続け、真理に基づ

- く義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。

● **エペソ4:22-24**

神は、今日、神のために生きる私たちが、同じ過ちを何度も繰り返さず、成熟に向かって成長するのを望んでいます。私たちは神の恵みに覆われていますが、誠実で本物の信仰の証は、変化と成長（弟子となる）です。キリストの義を免罪符にして満足するだけでなく、代価を支払ってくれた方に従順に生きることで、得た義の代価に敬意を払うことを選択すべきです。これが私たちの弟子としての旅です。新しく生まれた最初の瞬間（義認）から、新しい命の継続的な発展（聖化）へと移行するのです。

これは、私たちが将来受ける永遠の完全さを保証するだけでなく、今日、違った生き方をする手段を与えてくれます。

弟子の人生に起こる変化は、パウロがイエスの真の信者の人生から流れ出る霊的な実を探求することで力強く表現されています（ガラテヤ5:22-23）。言及された実の最後の面は、自制心、すなわち自己管理です。神は御霊によって、私たちに自己鍛錬の力を与えてくださいますが、私たちは神と協力しなければなりません（ピリピ2:12-13）。

ここでは、神聖さと神への従順さを育てる4つの実践的な事柄を紹介します：

デボーション

神のみことばに触れる時間を増やせば増やすほど、神が私たちに望む姿を知ることができます。同様に、祈りの時間を過ごすことで、自分の弱さと誘惑を克服できるよう、神に願い求めることもできます。を誘惑する。イエスと過ごすのは、そうなる力を与えられながら、キリストの聖さを着ることを学ぶことです。

セッション8

伝道者の品格

最も聖いクリスチャンは最も謙遜です。では、謙遜に伝道するとはどういうことですか。

セッションのまとめ

謙虚さは、神の国の大使が持つ高潔さの要。イエスが完全な模範となり、聖霊が力を与え、それを洗練し、天の父の栄光が現わされるものです。

セッションの背景

天使ガブリエルがマリアに受胎を告げた瞬間、イエスの物語の中心テーマである謙遜が出現します。マリアは神を礼拝し、底辺の自分に神が心を留めてくださったことを感謝します。そして、「私は普通の女の子なのに... どうして神は私を使おうとされるのでしょうか」と言います。

なぜ神は私を用いるのかと考えたことがありますか？

時に、自分の才能や能力に自信を持ち、だから神は私たちを用いようと思ったと信じてしまうことがあります。神の召しは才能ではなく人格で、神が最も喜ばれる人格の中心は謙遜です。マリアは、聖なる神がいかに高慢な者を散らし、へりくだった者を引き上げてくださるかを歌い、賛美を続けます。若いユダヤ人女性だった彼女は、旧約聖書から、神はこんな方だと確信を持って主張できる知

識を得たのでしょうか。その現実をマリアは体験しました。神はいつも、謙遜な者を思いがけない方法でご自分の目的のために用いることを選びます。世の中の知恵に逆らい、最も可能性の低い人々を通してご自分の力と恵みを明らかにします。神によって偉大なことのために用いられる第一歩は、神に完全に依り頼む自分に気づくことです。

これ以上ないほど粗末な環境でイエスは誕生しました。王の王は、飼葉桶（動物の餌入れ）に寝かされたのです！栄えある王の誕生とは打って変わって、貧しい無名な者の誕生となりました。万物の創造主との和解は、驚くほどの謙遜さから始められました。

イザヤ書53章で、私たちの罪のために刺し通され苦しむ主の僕の姿を見、仕えられるのではなく、仕えるために来たというイエスの宣言を聞きます。弟子たちの足を洗う場面など、聖書のどこを見ても、その内容は明らかです。ゲッセマネの園で父の意志に従ったこと、一言で自分に危害を加える者を一掃できたのに、殴られ、あざつけられ、十字架につけられることを受け入れたこと、聖書は聖なる謙遜の力によって人間の誇りの呪いを打ち砕くしもべなる王の姿を描きます。

神は、その民が生きるために救い出します。高慢は私たちに破壊をもたらしますが、謙虚さが私たちを回復させます。

活動と、子供との時間を楽しんでいるようにさえ見えます。

忘れていけないのは、イエスが弟子たちの足を洗ったとき、ユダが自分を裏切ろうとしていたことを知っていたことです。ペテロが自分を否定することも知っていました。それでも、イエスはその力と威厳をもって、弟子たちの前にへりくだり、弟子たちが倣うべき模範を示しました。単に足を洗い合うだけでなく、すべてのことにおいて謙遜な僕となるようにと語ったのです。

チャールズ・スポルジョンの有名な逸話があります。彼は、ある説教の生徒が少しばかり傲慢な態度で教壇に立ち、その後、説教のあまりのひどさに落胆して降りてくるのを見て、「もし、あなたが降りてきたように上がってきたなら、あなたは上がったように降りてきたかもしれない」と言ったそうです。私たちの召命の壮さ、才能の素晴らしさ、機会の大きさ、ミニストリーの評判にかかわらず、私たちは誰も救うことができません。罪の報酬は死ですが（ローマ6:23）、謙遜の報酬は命です（箴言22:4）。十字架上で私たちの身代わりとなった謙遜な苦役の僕を通して、私たちは彼に信頼を置き、古い傲慢な自分に謙虚に死んで、自分の十字架を背負うことができるようになりました。私たちは死から命へと移行することができます。謙遜は単なる美徳ではなく、私たちが、イエスが主だと認識したとき、イエスに対してできる唯一の適切な応答なのです。

- 主はその民を喜ばせ、へりくだる者に勝利を戴かれるからだ。

● 詩篇149:4

伝道における謙遜とは、人に迎合することでも、福音を水増しすることでも、真理を伝えて不快感を与える可能性のある場所で、真理を伝えるのを避けることでもありません。福音は、頑なな心の人にはその人の価値観に攻撃的で不快なメッセージに成り得ます。同様

現代の私たちは、偉大さの気配が漂うと、自分を正当化し、自分の立場や権力を確立するように勧められます。しかし、神はあなたにミニストリーの業績や、地位の向上を求めてはいません。それよりも大いに関心があるのは、あなたの品性で、謙遜になることであなたの品格が高められることです（ルカ14:11）。

イエスは、底辺、つまり仕える者の位置に付きました。仕えられるためにではなく、仕えるために来た王です（マルコ10:45）。弟子たちの足を洗う直前のイエスについて、ヨハネが述べたことに注目してください：

- イエスは、父が万物をご自分の手に委ねてくださったこと、またご自分が神から出て、神に帰ろうとしていることを知っておられた。

- イエスは夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

● ヨハネ13:3-4

すべてのものが自分の力の下にあり、自分のアイデンティティの完全さを知っていたイエスは、父の御心を現すために、しもべとなることを選びました。実際に洗足の箇所のバイスタをしたことがある人もいるかもしれませんが、今日、誰かの足を洗ったからといって、イエスが弟子たちに示したことの完全な意味を理解したことにはなりません。自分たちの師、救世主が、謙遜と奉仕の心を示すためにした行為で、弟子たちが味わった気まぐさを完全に理解するのは困難です。

想像してください。呼び鈴がなって扉を開くと、国の統治者である君主が玄関先にいます。彼はあなたの家に入って、あなたの赤ちゃんを抱き上げ、満杯のおむつを交換し始めます。悪臭がひどく、あなたは赤ん坊の排泄物が王様の手に触れるのを恐々と見えています。しかし、君主は穏やかで、この不快でも必要な

- キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。
- キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。
- 人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

● ピリピ2:3-8

C.S.ルイスの言葉を借りれば、「謙虚さとは、自分は低いと評価することではなく、自分への評価（の頻度）を低く（少なく）すること」

聖書は私たちに、自己卑下や、過小評価を求めてはいません。あなたは神様に大切にされ、愛され、価値ある子どもです。しかし、思い上がると、人類を罪の世界に陥れた高慢さの危険にさらされます。過小評価は、神が代価を払った私たちのアイデンティティを否定すること、逆に過大評価は、神の主権と王権を認識していないことです。

プライドはすべての罪の核心です。箴言は、「高慢になると恥が生じるが、謙遜になると知恵が生じる」（箴言11:2）と教えます。聖書の知恵の書は、高慢の対極にある謙遜の美徳を繰り返し確認し、そこから生まれる祝福を喜びます。

私たちは自己顕示欲の強い時代に生きています。もし今日、ダビデがゴリアテを倒していたらと想像できますか？血の滴る生首を手でセルフィー撮る誘惑に駆られたでしょう！私たちの多くは、自分の功績が歌に、映画に、タイトルになることを大歓迎します。

この点について、偉大な伝道者D.L.ムーディが謙遜についての有名な説教の中で注意喚起しています。

- あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

● IIコリント8:9

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

時間をとり、近況、体験談、励まされた事、反省点など、グループに助けになることを分かち合います。

前課から今までに、ひとつ習得したこと、葛藤したことを小グループで分かち合います。人数が多いなら、5人選んで、発表してもらいます。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で印象に残った良い点、困難なことについて祈ります。

学び [20-30分]

以下の学びの題材を、そのまま読むか、自分なりのやり方で教えます。

- 何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい。
- それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい。

に、伝道での大胆さとは、相手を理解、尊重もせず、ただ、私たちの伝えたい福音の希望を高圧的に人々に押しつけることではありません。

話し合う: 時間を取って伝道での4つの謙遜について話し合います。学んだ謙遜の原則をどのように適用しますか？

1. 謙虚に主に仕える

どんな困難、不快、犠牲が伴っても、私たちの一番の責任と願いは、神に仕えることであるべきです。私たちは、喜んでしもべの性質を身につけ、主人に従順になることができますか。

2. へりくだって自分を明け渡す

謙遜とは、聖霊に満たされるために、自分を空っぽにすることです。これ自体が謙遜な行為ですが、聖霊を私たちの人生に招き入れると、謙遜に心を注ぐので、謙遜になる力を得ます。

3. みことばを謙虚に受け取る

神のみことばの前に謙虚になりましょう。みことばをよく読み、自分の必要に合わせて都合よく解釈しないで、そのまま受け入れる。自分の先入観や常識に当てはまらなくても、謙虚に神の真理を聞こうとすること。神の真理を発見し、神の知恵を適用するには、謙虚さが必要です。

4. 失われた人に謙虚に仕える

宣教も大事ですが、宣教する相手愛することがもっと大事です。困っている人たちに仕えるべきです。人を愛するには、相手の話をよく聞くこと。もしただ話すだけなら、福音と彼らの人生の重要な接点を見逃し、彼ら

との有意義な関係を最小にする可能性があります。

神を敬い、神の御霊が私たちの中で働く場を作り、神のみことばの真理を土台とすることで、現実的なニーズを満たし、人々の声によく耳を傾け（伝道において最も軽視されている分野）、イエスの物語を忠実に宣べ伝える、世界の中の有能な奉仕者になることができます。もし私たちが伝道において実を結びたいなら、私たちのスタート姿勢は、主の前に謙遜でなければなりません。

D.L.ムーディーは謙遜についての説教の中で、このように語ります：

- 私の農園に、とても美しい梨の木があります。どの枝も光に向かって伸びて、まるでキャンドル立てのようですが、実はありません。もう1本の木は、枝が地面につきそうなほど実が成りました。もし私たちが十分にへりくだりさえすれば、友よ、神は私たち一人一人を神の栄光のために使ってくださいなのだ。

ディスカッション [15分]

1. 謙遜について悩んでいる分野はありますか？
2. 大胆に福音を伝えることと、謙虚に福音を伝えることの間には、本質的にどんな対立がありますか？
3. 謙虚さの欠如、あるいは偽りの謙虚さに対して、私たちはどのように愛情をもって接することができますか？

- 愛と謙遜は、キリストの学校における最高の到達点であり、キリストが本当に私たちの主人であることの最も輝かしい証拠であると、私は確信しています。

● ジョン・ニュートン

適用 [5分]

思いがけなく価値ある方法で、まわりの人々に仕え、祝福できることがあるかよく考えてみます。教会やミニストリーで清掃員はいますか？その人が家族と過ごしたり、精神的な休暇を取るのに、彼らの仕事をすると言ってください。毎日、オフィスで最初にお茶やコーヒーを入れてあげましょう。店員に丁寧に接したり、神の愛を表現したメモを渡す...クリエイティブに、意図的にやってみます。

これらのことで、イエスが弟子たちの足を洗ったほどのインパクトを与える奉仕はできませんが、単なる「気まぐれな親切」でもいけません。これらの行為は、思慮深く、愛情深く、謙虚な人々が意図的に行うもので、労苦して他者を祝福したしもべが報いを受ける機会と捉えることができます。神からの好意を得るため、人前で見栄を張るため（SNSで自分の善行を言いふらす前に、よく考えること）にするものではありません。謙遜に成長することを学ぶ方法、また、神が私たちの中で育む謙遜の自然な産物として、仕えるのです。

祈り

キリストの謙遜と仕える姿勢の模範を感謝します。神があなたを見るように、自分自身を見ることができるよう、日々謙虚さと知恵において成長できるように、神に祈り求めます。福音を大胆かつ謙虚に宣べ伝えることができるように祈り合います。

アカウントビリティ [15分]

プライドに苦しんでいる人が、自分のプライドを認め（プライドの高い人には難しいですが）、神があなた方全員の謙遜さと、奉仕の心を育むように、互いに祈ります。

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈りましょう。

セッション9

伝道者の機会

伝道者の才能の一つは、周りの人々に福音を伝える機会を見出す能力と、それを掴もうとする願望です。このセッションでは、どのように機会を最大限に活かせるかを学びます。

セッションのまとめ

私たちは常に、福音のチャンスを捕らえて、あらゆる場面で、良い知らせを明瞭に説明する準備をしておくべきです。

セッションの背景

ペテロは、私たちの持つ希望について尋ねてくる人には、常に福音を伝える用意をしておくべきだと教えます(1ペテロ3:15)。テモテにも、人生のあらゆるシーズンや状況で福音を宣べ伝える用意をするようにと言い(2テモテ4:2)、別の場所では、あらゆる機会を最大限に活用しなさいと書きました。

(コロサイ4:5)。イエスは、いつでも奉仕し、分かち合う用意のあるライフスタイルを示します。それは時に、思いがけない場所に目を向けて機会を見出すこと(ルカ19:1-10のザアカイのように)、社会的に困難な状況でも準備ができていないこと(ヨハネ4:1-26のサマリア人の女性のように)、特権のある場所で大胆であること(ルカ7章のパリサイ人の家の罪深い女性を思い出してください:36-50)、社会から追放された人たちと

分かち合い(ルカ17:11-19のツアラアト患者の癒しのよう)、あるいは自分自身の苦しみの中で真実を宣言する(ルカ23:39-43の十字架の上の盗人のように)...など、数え切れません。

ビリー・グラハムの伝道活動で最も有名なのはクルセード(十字軍集会)です。しかし、彼が生涯を通じて福音を伝えた方法はこれだけではありません。大統領や王族との会談、メインストリームのトークショーへの出演、自然災害に見舞われた地域への援助、海外の軍隊への伝道、あるいは道中で出会った人々への伝道など、彼は常に、出会う人々に福音を伝える用意と意志を持っていました。

ビリー・グラハムがいつでも伝道準備していたのは、大宣教命令を重く受け止めたからではありません。ビリー・グラハムは、福音を真に理解し、受け取り、服従したから、あらゆる機会を捉えようとしたのです。

伝道者として才能がある人の一つの特徴は、伝道や説教の機会を満ちた満足感よりも、失われた人々に対する(超)自然な憐れみを持つことです。伝道者は、すべての人が福音を聞き、受け取ることを切望し、たとえ叱責や厳しい結果に脅かされても、あらゆる機会にイエスについて話すことを止めないでしょう(使徒4:18-20)。しかし、実は、伝道者としての才能を持つ者だけでなく、どんな信者

でも、良い知らせを自分自身で理解し、その貴重な恵みの中で生きれば生きるほど、失われた人々への思いやりが増し、神ご自身の姿に似た新しい命へと成長する神の思いやりを共有することができます。

ハリウッド映画『ハクソー・リッジ』で語られたデズモンド・ドスの驚くべき実話は、第二次世界大戦中に衛生兵として入隊せざるを得ず、神への敬虔な信仰のために、断じて銃を手にするのを拒んだ人物を明らかにします。沖縄に配属されたドスは、「ハクソー・リッジ」で敵陣の後方に配置されず、敵の激しい銃撃を受けながら、アメリカ人と日本人の負傷者の叫びが聞こえました。ドスは、できる限り多くの人を救おうと、その場しのぎのロープの滑車を使って尾根から降ろす作業を開始した。ドスは狙撃兵に腕を撃たれ、後に体内に17個の破片があることが判明したが、そんな体で一人でも多くの人を救うために、できる限り活動を続けました。

数年後、この驚くべき偉業についてインタビューを受けたドスは、疲れきって、もう誰も助けられないと思うたびに、「主よ、もう一人助けさせてください」と祈ったと説明した。ドスはその日、少なくとも75人の男性を救った。

ドスの祈りは、伝道者の叫びです。失われた人への神の心を共有するすべての人の叫びです。「主よ、あらゆる機会を通して、どんなに困難でも、どんな代償をはらっても、私がもう一人獲得するのを助けてください。」

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、出来事や励まし、機会に関する振り返りなど、グループの励ましになることを共有する。小グループの場合は、前回のミーティング以来の勝利と苦難を

1人ずつ話してもらいます。大きなグループの場合は、4~5人を選び、前回のミーティング以降の具体的な証しを話してもらいます。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い点、や困難な状況について祈ります。

学び [20-30分]

以下の学びの題材を、そのまま読むか、自分なりのやり方で教えます。

- ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。すると、生まれつき足の不自由な人が運ばれて来た。この人は、宮に入る人たちから施しを求めするために、毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとすることを見て、施しを求めた。ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。彼は何かもらえると期待して、二人に目を注いだ。すると、ペテロは言った。
- 「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」
- 使徒 3:1-6

チャンスを逃すことはよくあることです。人生の後半で直面する後悔の多くは、チャンスを逃したことに起因します。つまり、挑戦する自信があればできたのに、とか、人の目を気にしなければできたのに、と思うことです。ソーシャルメディアの世界は、「Fear Of Missing Out」(取り残される恐怖)、つまり「FOMO」という特殊な現象を生み出しました。常につながっている世界では、他の人が何をしているかいつも目に入り、自分よりも良い人生を送っているように見えて、FOMO

が発生します。一般的に、FOMOはつながりがもたらす、役に立たない、不健康な副作用と考えられていますが、聖書を読むときはどうですか。使徒の働きでイエスの弟子たちや初代教会の様子を読んで、FOMOを経験したことがありますか？

新約聖書で使徒たちについて読むと、彼らが福音を伝えて経験したほどの冒険を、自分が見逃しているような気がします。私たちの多くは、石打ちの刑(!)のような恐怖を切望してはいませんが、使徒たちの働きに伴うしや不思議をもっと見たり体験したりしたいと思うものです。

使徒3章で、ペテロとヨハネが、足の不自由な乞食にお金をせびられる日常的な状況に遭遇します。使徒たちは、この不幸な男の前を素通りしたり、少額の寄付をするのは簡単だったでしょう。

ペテロとヨハネは、通り過ぎるのではなく、その人を見つめます。NRSV訳では、ペテロとヨハネがその人をじっと見て、その人が何かを受け取ることを期待して、自分たちに注意を向けています。

話し合う: 周りの世界をどのくらい熱心に見ていますか？あなたは、福音を伝える機会に目を留め、利用するのが得意ですか？

足の不自由な男は、自分が最も必要だと思うもの、お金を手に入れる機会を得たと思いました。幸いなことに、使徒たちは目の前の機会に注意を払い、彼が本当に必要としているものを与えることができた：イエス様です。ペテロとヨハネが立ち止まったのは、彼の障害や社会的地位に対する単なる同情ではなく、失われた人への愛からです。

聖書は、神を敬う者は、今度は神から敬われるようになるかと教えています(1サムエル2:30)。

私たちが人生の「小さなこと」において神を敬うほど、真実なことはありません。隠れた場所、つまり人生の些細で目立たない領域で信頼することを立証すると、神は次の機会を託し、あなたは、より大きなものを得ます。それは、もっと大きい機会かもしれませんが、聴衆が増えて満足するより、私たちの人生において聖霊の力がより大きく発揮されることが重要です。今日、あなたが主に服従することで、聖霊の力を知ることができますが、主は、神に仕える人御自分の奉仕のためにそれを最もよく用いると知っている人々に、最も完全に、最も頻繁にそれを託すようです。神の助けがあればイスラエル軍の誰でも、ゴリアテを倒すことができました。しかし、ダビデが立ち上がり、特定の任務において信頼できることを証明したので、王座への道が開かれたのです。

もし大冒険がしたいなら、小さなこと、つまり日常の機会に忠実になり、神が何をするかを見てください。もし、ありふれたチャンスをつかむ意欲がないなら、あなたの快適な領域から連れ出してくれるよう神に願い、たとえ気分が乗らなくても、意図的に行動することを選択し、邁進しましょう。もし、チャンスを逃したことに罪悪感を感じ、神を失望させているように感じるなら、あなたが罪悪感を感じるのを神は望んでいるのではなく、神の愛から失われた人を愛するのを望んでいることを思い出してください。

だれ一人完璧ではありません。使徒たちは伝道で間違いを犯し、途中でチャンスを逃したことは確かです。重要なのは、自分を無理な基準で縛ってプレッシャーを与えるのではなく、神の比類ない愛の中に自分を捕らえ恵みを与えることです。この現実から、私たちは成長し、日々目の前にあるチャンスにますます忠実になるように成熟します。

セッション10

伝道者のコミットメント

聖書は、神に敵対していた私たちが、イエス・キリストを信じる信仰によって、神との関係に立ち返るよう招きます。福音を説き示すだけでなく、人々が聞いたことに応答し、行動するように大胆に呼びかけるにはどうしたらよいですか。

セッションのまとめ

伝道の働きは、完全な福音のメッセージを宣べ伝えることで、聞き手が方向転換し、イエス・キリストを信じる信仰による真の命を経験するよう招くのも含まれます。

セッションの背景

結婚式の日、教会の前に立つ花婿を想像してみてください。見渡すと、美しく装飾された建物と花嫁の登場を心待ちにする友人や家族の姿があります。彼の運命の女性は、今にも到着しそうです。10分経っても花嫁は到着しません。「花嫁が遅れてくるのは慣例だ」と彼は思います。20分経っても、花嫁の姿はありません。彼は緊張して笑います。30分経っても花嫁は現れず、遅刻の理由も知らされません。会場の人たちがざわざわし出し、彼は少しパニックになり始めます。45分経っても、1時間経っても、花嫁の姿はなく、客たちのざわめきは最高潮に達します。一体どうなっているんだ？まさかのドタキャン!?

新郎は、なぜ彼女が来ないのか、理由をあれこれと考え始め、ハッと思いつきます。彼は花嫁にプロポーズしてなかった!

あなたが誰かの応答を期待するなら、まず招きが必須です。イエスが語った福音メッセージの最短バージョンは、マルコによって記録されています：「時は来た。神の国は近づいた。悔い改めて、良い知らせを信じなさい!」(マルコ1:15)。

「悔い改め」という言葉には多少の問題があります。多くの人がある本当の意味を知らないからです。「悔い改め」と聞くと、「回心するか、地獄に行くか」という福音宣教の究極の選択と結びつけられ、多くの人はこの言葉から、裁きの宣告だけを聞き取ります。現代人の多くにとって、「悔い改め」という言葉は「良い知らせ」の言葉には聞こえません。

しかし、正しく理解するとき、「悔い改め」という言葉には、福音の真理を示す驚くべき啓示が隠されています。文字通りには、考えを改めること、人生の進路を変えることを意味します。「あなたは間違った道を進んでいるが、私のおかげで正しい道、つまり父に至る真理の道を進むことができる」とイエスは言います。悔い改めは、聞いた人に、死ではなく命を知る機会を与える良い知らせです。悔い改めは、現実を知らせる火災報知器である

と同時に、私たちが解放してくれる真理のイエスを発見するための招きです。

ウォルター・A・エルウェルとバリー・J・ベイツェルは、悔い改め（コンバージョン）には3つの要素があると説明する：

- 第一に、何かから離れること、これには特定の罪や偽りの神、また単に自分のために生きる人生も含まれます。（1テサロニケ 1:9、黙示録9:20、21、6:11）
- 第二に、回心は神の意志とその恵み深い働き賜物です。（使徒11:18、ローマ2:4、IIコリント7:10、IIテモテ2:25、IIペテロ3:9）
- 第三に、回心とは、誰かに立ち返ること、イエス・キリストにおいて自分の全生涯を神に捧げることです。（使徒14:15、Iテサロニケ1:9、Iペテロ2:25）
- 劇的でも、そうでなくても、突然でも
- 徐々にでも、感情的でも穏やかでも、人が自分の全忠誠を神に移す、完全な方向転換です。

最初の福音宣教師たちは、イエスがしたように、聴衆がメッセージに反応する機会を設けることに気を配りました。イエスの物語を伝えるクライマックスとして、悔い改めを訴えました（使徒2:37-39; 3:25-26; 4:12; 5:31; 10:43）

福音は、人類が神に背を向けるのをやめるよう招きます。イエス・キリストを信じることで、振り返って神と向き合うことができます。そうすることで、神が誰かという真実に心を変えられ、神の霊の力によって人生が変わります。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、出来事、励まし、機会に関する振り返りなど、グループの励ましになることを共有する。前回のセッション（セッション9-応用）を踏まえて、あなたが遭遇した特別な機会について共有する。

祈り

この時間を主に委ね、この数週間に福音を伝える機会があったことに感謝します。その機会を通し、イエスを信頼するようになった人たちのために祈ります。

学び [20-30分]

以下の学びの題材を、そのまま読むか、自分なりのやり方で教えます。

- 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。
- そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めで、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。
- この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」
- 使徒 2:37-39

招きは、十字架そのものと同じく、福音のメッセージの一部です。

ペンテコステで聖霊の到来を体験したペテロは、集まった群衆に説き始めます。ペテロの説教には聖霊の力が働き、聴衆は福音のメッセージを聞きながら「心を切り裂かれた」のです。

ここで、物語の違う展開を想像できますか。群衆がイエスに信頼を置く準備ができたところで、ペテロは「ありがとう、おやすみなさい!」と言って、説教後、友人たちと当然のように食事に出かけます。群衆は、ペテロのメッセージに感動しながらも、自分の人生にどう生かせばいいかわからないまま、ペテロが語ったイエスに信頼を置く機会を得られず、解答より疑問を持って自分の人生に戻ります。

ありがたいことに、そうはなりませんでした！ペテロは応答を求め、群衆に悔い改めるよう呼びかけました。彼らは理解したメッセージに基づいて行動し、心の中で経験した聖霊の呼びかけに応える具体的な方法を得ました。福音には、悔い改めへの招きと、聞いたことをどう行動に移すかの説明が含まれます。弟子たちは、完全な福音を宣べ伝えることに徹底して取り組みました。私たちがそうあるべきです。

日頃から説教や講演を準備する人は、メッセージを日常生活に応用する方法を盛り込むことがいかに重要かを知っているでしょう。イエスの説教も、使徒たちの説教も、応用に満ちていました。マルコにあるイエスの最初の福音は、「天の国は近づいたので、悔い改めなさい」と呼びかけますが、これはほぼほぼ応用です。

福音書の中でイエスは、「疲れた者はみな私のもとに来なさい」（マタイ11:28）、「来て見なさい」（ヨハネ1:39）、「来て私に従いなさい」（マタイ4:19）、「渇いた者は誰でも私のところに来て飲みなさい」（ヨハネ7:37）、「来て食べなさい」（ヨハネ21:12）と繰り返し招きます。

この招きは、気まぐれでくだらないものではありません。イエスのアイデンティティを世に明らかにし、招待状を受けた、または拒否したときに、現実の結果をもたらすものです。招待の決定的な特徴は、返事を求められることです。「はい」と答えるだけで、招待を受け入れ、それに続く祝福を得ることができるからです。

話し合う：聖書にある3つの招待の例を見て、グループで話し合います：

1. 弟子たちの召集（マルコ1:17）
イエスの呼びかけは個人的なもの

2. 金持ちの青年への呼びかけ（マタイ19:16-22）
イエスの呼びかけには代償がある

3. 死者の召し出し（ヨハネ11:43）
イエスの呼びかけは力強い

福音に応答する機会は、私たちの説教の最も重要な側面です。福音を正しく伝えるには、イエスを主であり救い主だと受け入れるよう、常に招きの場を設ける必要があります。

語弊があるかもしれませんが、ある福音の機会では、応答に招きやすいものもあります。どんな状況でも、伝道活動で誠実な応答を「招く」ことができますか？壇上でも、一対一でも、単に教会の礼拝に来たいかではなく、人々を神の国へと誘うことに専念すべきです。聖書には、そのための細やかなガイドはありませんが、次の原則は、その出発点となります：

直球の質問をする

質問は、ストレートでシンプルにする。イエスが誰か、イエスに従うとはどういうことかを説明し、「今日、イエス・キリストに信頼を置いて、イエスとの関係の中で新しい人生を始めたいですか」、あるいは、「今日、イエスに信頼を置くことを妨げるものはありますか」と尋ねるだけでいいのです：

もし、イラストやたとえ話など、聴衆の心に響くものを用いて伝道したら、それをキーワードとして使います。

例えば、放蕩息子の話からだ：神様は今日、あなたを家に呼んでいます。放蕩息子のよう、父の実腕に帰ってきたいですか。この質問は、聞き手がイエスに「はい」と心を開いているかを確認できます。続く質問で、相手の反応をより明確にできますが、最初の質問は、ストレートかつシンプルで、あなたが話したメッセージとつながったものでなければなりません。

必要な時間をかける

大勢に話すときは、御霊が人々の心に触れたと導かれるまで待つことです。どれほどの時間（と、気まずさ！）は、ほとんど関係ありません。重要なのは、人々に語られたことを考える時間をあげる、そして、神がしたいことをするスペースをあなたが確保することです。一対一の場合、相手が考えるための時間と空間が必要なときは、別の機会にもう一度会って、話し合う約束をすることができます。神のタイミングで動かれるのを期待して、無理に答えを出そうとしたり、強制しないでください。神に期待し必要な時に必要な反応が出るように、心を開いてください。

この先を示す

「はい」と答えたらどうなるのか、なにに招かれているかを説明する。例えば、一緒に祈る、聖書を読むプランを渡す、あなたの教会につなげるなどです。彼らの人生が即座に良い方向に変わるわけではないですが、イエスへの日々の献身を通して、イエスが与える人

生が満ち溢れるのを鮮明に思い描けるようにします。現実的な次のステップと、イエスへの最初の応答に続く弟子としての生活の霊的な現実を説明します。

受容を喜び、断られても恵み深く

だれかがこの招きを受け入れたいと言うなら肯定し、（救いを断言し）、喜んでください。もし、この応答を心から喜べないなら、福音を伝えるよりも自分の思いを優先している可能性があります！

同じように、もし相手がはっきりノーと言っても、潔く、謙虚な態度で臨みましょう。（しつこく、高圧的にしない）可能なら、地元の教会の連絡先を伝え、なにかの機会につながるができるようにします。

人々が福音のメッセージに応答しない最も一般的な理由は、誰も彼らに尋ねないからです。伝道者が応答を求めない最も一般的な理由は、誰も反応しないと、自分（あるいは福音）が馬鹿にされるという恐れです。しかし、救いの力はあなたのものではないし、イエスでさえ、人々が自分から離れ、招きを拒むことがありました。私たちは、次に何が起ころうと、完全な福音、メッセージと招きに忠実であることが求められています。実際、キリストの招きは、私たちが来て、自分に死んで、自分の十字架を背負いキリストに従うことです（マタイ16：24）。伝道活動でも、どんな代償を払っても、どんなに愚かに見えても、自分自身に死ぬということです。

- 福音とは、説教という行為を通して、聞き手に対して、新しい次元の存在への決断を導く、神の招集です。

● マイケル・グリーン

イエスとその使徒たちは、福音を宣べ伝える際に招きを行いました。私たちもそうすべきです。相手の反応はいつでも、私たちは忠実に福音のメッセージを伝え、悔い改めとイエス・キリストへの信頼を呼びかけて、後は神が何とかします。

ディスカッション [15分]

1. イエスを信じるという応答を提示せずに、真に福音を伝えることは可能ですか？
2. 伝道で応答の場面の、どこが簡単/難しいと感じますか？
3. 伝えられた福音に人々に応答する場を提供することから何を学びましたか？

- ルターが「信者の全生活が悔い改めであるべき」と書いたように、悔い改めは単に三位一体の神との関係への入り口ではなく、関係を継続させる通路です。信仰生活には死ぬまで神との関係があり、墮落した世界にいる限り、悔い改めは私たちの生活の永続的な一部です。

● マーク・J・ボダ

適用 [5分]

福音を伝えるたびに、福音への応答の招きを意図的にしましょう。この部分で葛藤があるかもしれません。応答を求めた際、誰も反応しなくてもがっかりしないでください。また、人々とイエスについての会話を始めるのは得意でも、次のステップにつなげるのに苦労している人もいるかもしれません。今月は思い切って、福音中心の会話から、少なくとも一人に、イエスに信頼を置きたいか尋ねてみましょう。

祈り

神が私たち一人ひとりに差し出してくれた、神との和解の招きに感謝します。私たちが福音を伝えるとき、大胆になれるように、自信を持って人々に悔い改めを促し、非難ではなく、希望を見せることができるように、神に願い求めます。この招きを受け入れることができるように祈りましょう。

アカウントビリティ [15分]

二人一組で、生活の中で、「自分自身に死ぬ」点で、少し努力が必要だと思う部分はどこか話し合ってください。私たちは皆、偶像崇拜や性格的な欠点に悩まされ、それを改善する必要があります。福音の招きを人々に広げようとするとき、神が私たちに与える同じ新しい招き、すなわち、自分に死んで神に従うことも考えてみます。これを分かち合いながら、励まし合い、祈り合いましょう。

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈りましょう。

セッション11

伝道者の インスピレーション

伝道者の務めは、世界に福音を宣べ伝えるだけでなく、教会全体を伝道へと引き立てることです。このセッションでは、私たち全員が教会の火付け役となり、周りの人々も伝道に忠実になるのを励まし、備えさせる役割を学びます。

セッションのまとめ

伝道者は、世界に福音を宣べ伝えるだけでなく、すべての信者を励まし、備え、伝道に向かわせることで教会に仕えます。

セッションの背景

ソーシャルメディアの登場で、新しい形の有名人、いわゆる「インフルエンサー」が生まれました。これは、ソーシャルメディア（特にYouTube）でフォロワーを増やし、人々に大衆的な影響力を行使できるようになった人々のことです。芸能界やスポーツ界の有名人は、何年も前から広告を通じて、何を着るか、何を食べるか、何を飲むか、どんな匂いがするかなどを教えてくれています。影響力そのものを目的として支持者を集めたのは、間違いなくこの世代のセレブリティ（芸能人・有名人）が初めてでしょう。

パウロはローマ人への手紙で、この世の影響に合わせるのではなく、聖霊に従う、心の一新によって変えられるようにと教えます

（ローマ人への手紙12:2）。神の聖なる民である私たちは、生命、自由、希望をもたらすメッセージを持つ、本来のインフルエンサーなのです。

セッション7では、「塩気のない塩は何の役にも立たない」ということを再認識しました。ソーシャルメディアのインフルエンサーの力は、フォロワーの数と、そのフォロワーが宣伝するものにどれだけ関与するかにかかっています。教会にとって、私たちの特徴ははるかに重要で、それを失うことははるかに大きな損失です。ソーシャルメディアのインフルエンサーは、影響力が弱まるにつれて名声やキャリアを失うかもしれませんが、教会が影響力を弱め、独自性を失えば、世界は福音の実践と、理解できる方法で福音を聞く機会を失います。

伝道者は、世界が福音を受け取るのを見るために情熱的ですが、世界で福音の影響力を担うために教会を継続的に揺り動かすことにも情熱的でなければなりません。結局のところ、福音に関しては「プランB」は存在せず、イエス・キリストにある教会が唯一の大使です。教会がこの事実を忘れて、おろそかになるとき、伝道者や、様々な形で伝道に情熱的に携わる人たちが、福音の影響力がすべての人に見えるように明るく輝き、愛情をもって伝道の火をもう一度燃え立たせることができます。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、体験談、励まし、機会に関する振り返り等、グループの励しになることを分かち合います。前回のセッション（10課-応用）を踏まえ、福音に応答するように人々を招いた経験を分かち合う。意図的に行動する機会がありましたか？どんな結果でしたか？

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良かったことや困難な状況について祈ります。

学び [20-30分]

以下の学びの題材を、そのまま読むか、自分なりのやり方で教えます。

こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。

それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。

私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。

エペソ4:11-13

ハリウッドの「ザ・ロック」を演じたアクションヒーロー、ドウェイン・ジョンソンがインタ

ビューで証言したように、大きな影響力を持つ人でも、人生に何らかのインスピレーションが必要でした：

- 8歳の時、ノースカロライナ州のシャーロットで『レイダース/失われたアーク』を観ました。とても感動して、劇場を出ました。映画に心を奪われて、あの男になりたいと思ったんだ。

話し合う：だれかから感銘を受けて、その人のようになりたいと思ったことはありますか？その人やその人がやっていることの何が、あなたに影響を与えましたか？

家族、歴史上の人物、ポップカルチャー、あるいは架空の人物（アニメや映画のキャラ）など、私たちはさまざまなところからインスピレーションを得ます。このようなインスピレーションは、趣味やキャリアに影響を与え、私たちの性格や世界観を形成することもあります。また、その逆もあります。才能あふれる人を見て、「何をやっても無駄だ、あの人のみたいに上手になれない！」と、何かを追求する意欲をそがれることもあります。

聖書には多くの感動的な人物がいます。聖書のページをめくり、信仰の英雄に目を向けるのは良いことです。モーセがファラオに力強く語りかけることができたのは、彼の弁舌の巧みさとは無関係で、神の呼びかけに忠実で、その力に従順だったからだだと知れば、勇気づけられ感動します。同じ神は、私たちも同じことができるはずですよ。

最終的に、私たちを鼓舞し、力づけることができるのは、ただ一人です。イエスには、人生のあるべき姿の完璧なモデル、そんな生き方を望める完璧な力の両方があります。私たちは、イエスの模範と教えによって強められ、信仰生活のためにイエスから力を与えられる

と同時に、周囲の人々に与える潜在的な影響について考える必要があります。

パウロはエペソ4章で、イエスが教会を祝福し、御国の目的に役立つさまざまな賜物を与えたと教えます。使徒、牧師、教師（または牧師教師）、預言者と並んで伝道者が挙げられ、これらの召しを果たすための賜物を持つ人々は、奉仕の業のために教会を整え、キリストのからだを築き上げる、と述べます。

...どこかで、ある考えが生まれ、キリスト教界で大流行した...

それは、教会の宣教は、有給で、専門的で、神学的な訓練を受けた聖職者が行うものだというものです。この見解によると、信徒の目的は、説教、カウンセリング、慰め、その他教会で提供される、宣教の恩恵を受けることです。しかし、リーダーシップのために特定の賜物が与えられている理由は、信者を働きのために装備するためです。教会は動員された軍隊であるべきです。

R.C. スプロール

エペソ4章に書かれた役割分担を見て、教会にいる特定の特別な人たちのことだと単純に結論づけるのは間違いです。パウロの手紙は、それよりもはるかに重要なことを明らかにします。これらの働きが存在するのは、教会が特別な存在で、普通の人々を通して、教会が一つの体として成熟する神の働きがあるからです。私たちは、教会のコミュニティの中にいる人たちを大切にしながら、その外にいる人たちに手を差し伸べるのです。それぞれが役割を果たすべきです。

私たちは自分の賜物をうまく使う責任があり、それは意図的にインスピレーションを与えることを意味します。これまでのセッションで学んだ謙遜と聖性によって、分裂をもたらす賜物の誤用から教会を守るために、先頭に立つことでもあります。プライド、エゴ、

妬み、権力の乱用は、どれも分裂への近道です。

話し合う：あなたの教会では、誰が最もインスピレーションのある人物だと思われていますか？牧師やユースワーカー、礼拝指導者、聖書教師などを目指している人もいるでしょう。逆になにも目指していない人は、なぜですか？

ここで、伝道者であるなしにかかわらず、他の人に福音を忠実に伝えることを促す5つの方法を紹介いたします：

1. 福音を宣べ伝える

福音を伝えるように人々を鼓舞する最良の方法の一つは、私たちの集まりで定期的に福音を伝えることです。もう一つの方法は、クリスチャンの兄弟姉妹を、私たちが宣教するイベントに招待することです（最低限祈りによる支援、それ以上に、人々が初めてイエスに出会い働く力を見て、彼らの信仰が高められるため）。または、誰かと福音を語る機会があるとわかっているときに、一緒に来てもらいます。公私において福音を伝えるとき、伝道はすべての信者の特権であり喜びだと常に確認できます。

2. 証しの準備

自分の証と、神に初めて出会ってから現在に至るまで、神が自分の人生に与えた影響について、人々が考えるのを助ける。どのようにして神に信頼を置くようになったのか、また、最近、神は自分の人生に何をしてくださっているのか。個人の証しを意識的に準備するのは、伝道のために互いを鼓舞し、備えるための素晴らしい方法と同時に、神が私たちの人生にしてくれたことに感謝を捧げる礼拝の行為でもあるのです。

セッション12

リトリート

アドバンス・グループ1年目のクライマックスは、リトリートで過ごす時間です。やり方はあなた次第ですが、ここで、アドバンス・グループの根本的な理念に沿った、1年目を首尾よく終わらせる方法を提案します。

アドバンス・グループ・リトリートのやり方

大まかなアイデアは、非日常の場で普段より時間をとりアドバンス・グループのセッションをします。午前、午後、夕方しか時間が取れない場合は、時間の許す限りでよいですが、丸一日リトリートはとても効果的です。

ここでは、リトリートに組み込むアイデアを挙げます。

鍵となるみことば

リトリート中、一緒に過ごす時間で、特定のことにフォーカスしたいなら、コロサイ書の聖句は鍵のみことばに有益です：

たゆみなく祈りなさい。感謝をもって祈りつつ、目を覚ましていなさい。同時に、私たちのためにも祈ってください。神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。この奥義のために、私は牢につながれています。また、私がこの奥義を、語るべき語り方で明らかに示すことができるように、祈ってください。外部の人たちに対しては、機会を十分に活かし、知恵をもって行動しなさい。あなたがたのことが、いつも親切で、塩味の効いたものであるようにしなさい。そうすれば、一人ひとりにどのように答えたらよいか分かります。

コロサイ4:2-6

この短い箇所でパウロが提示する12の事柄は、伝道について吟味し、確認します：

1. 献身的に（祈りに専念する）
2. 霊的交わりを促す（私たちのためにも祈ってもらう）
3. 神に依り頼む（神が扉を開いてくれるかも）
4. 宣教に心を注ぐ（キリストの奥義を宣べ伝える）

5. 明確さを願い求める（分かりやすく宣べ伝えることができるように）
6. 福音への犠牲を受け入れる（そのために捕らえられている）
7. 天の知恵に頼る（賢くある）
8. チャンスを掴み取る（あらゆる好機を活かす）
9. 話す・聞く（会話）
10. 丁寧に、謙虚に（いつも恵み深く）
11. 個性的であること（地の塩として）
12. 準備する（誰にでも答えられるように）

この箇所からどのように一緒に、または一人で（下記参照）学び、これらのポイントを引き出し、議論するかは、あなたがリトリートの時間をどのように運営するかによって、全く自由です。しかし、以下に提案する活動を見て、この箇所とこれらのポイントを心に留めておいてください。

みことば

アドバンスグループの主な目的は、神のみことばに献身する伝道者として互いに成長するのを助けることです。リトリートの時間は、神のみことばをより深く知る絶好の機会です。

延長して聖書を読む（ひとりで読む）

神のことばとゆっくり過ごす時間は、決して無駄な時間ではありません。マルコの福音書や新約聖書の手紙の一冊を一度に読み通すことは、その本の内容を十分に理解するための素晴らしい方法です。短い本なら、何度も読み直し、その都度祈り、振り返り、メモをとり、また読み直すというのはどうですか。全員が同じものを読む、または異なる選択肢を

用意し、それぞれの感想を分かち合うこともできます。

バイブルスタディ [グループで読む]

リトリートで一緒に聖書の勉強を進める方法はいくつもあります。アドバンス・グループ・セッションで学んだ重要な箇所をもう一度学びたいと思うかもしれません。あるいは、修養会の基調となる特定の箇所やテーマに導かれるかもしれません。ただし、これまでと同様、お互いを伝道者として成長させることに重点を置いてください。

祈り

リトリート期間中、祈りのために特別に時間を確保する。特定のことに焦点を当てた祈り、聖書を通しての祈り、自発的な祈りの時間を計画する。次の3つに焦点を当てるのがお奨めです。

互いのために祈る

一緒に過ごす時間の優先順位として、互いのために祈ることを忘れないようにします。神に感謝していること、神の備えや突破口を必要としていることを1つずつ話してもらいましょう。具体的で正直に祈り求めるよう促し、急かさず、お互いのために心から時間を捧げます。この時間に生じた言葉や励ましを必ずメモに残しておくこと。

地域と世界のために祈る

自分の住んでいる地域と、世界的な福音の広がりのために、時間をかけて祈りましょう。地元や世界の状況特定のことに関心があれば、そのために祈ります。個人、教会、ミニストリー、宣教師、ニュースから得た情報を取り上げます。

2年目

セッション1

伝道の挑戦と結実

このセッションでは、アドバンスの2年目を設定し、伝道における課題と、私たちが運ぶメッセージの実を学びます。

セッションのまとめ

実りある福音のメッセンジャーになりたいと世界に出て行きますが、そこで困難に直面します。

セッションの背景

ギリシャ神話に登場するゼウスの息子ヘラクレスは、一見不可能に思える12の試練を課されます。半人半神の彼は、最終的に難題を成し遂げ、ギリシャ文学の中で最も有名な英雄の地位を確立します。あまりにも有名で尊敬されたので、ローマ人は最終的に彼を自分たちと同類だと主張し、「ヘラクレス」と改名しました。彼の名は、きわめて困難な仕事に挑み、成功する意味の「a herculean effort (至難の業)」単語が生まれ今日も使われています。

古代の神話は、娯楽や道徳的な価値観の伝達など、さまざまな理由で語られてきました。そして、ヘラクレスのような人物像は、その偉業を聞いた人にインスピレーションを与えます。

クリスチャンは、敵対的で暗い世界に神のメッセージを忠実に届ける「至難の業」を耐え抜くのに、欠点の多い神話の人物にインスピレーション求める必要はありません。私たちは、イエス・キリストの生涯、宣教、死、そして復活という現実を目を向けます。イエスは、困難や迫害、苦しみの中で忍耐し続けるように励ますだけでなく、私たちが直面するどんな困難の中にもいつも共にいると教えます(マタイ28:20)。主は忍耐強い信仰の模範であると同時に、私たちの旅を支え、力を与えてくださる方です。

詩篇1篇は、シンプルで深い真理を提示します。いのちに至る道と破滅に至る道がある。どんな嵐に見舞われても、神に堅く身を置く者は、真の人生を知り、そこから良い実を結ぶ。このような人生の収穫は、刻々と変化する世の中の状況 - 風に翻弄され、滅びに至ることもある - に左右されず、神ご自身の不変の真実に拠(よ)ります。私たちは生きた水の流れに根付くことができ、この水こそ、単に嵐を生き延びるだけでなく、そこから実を結ばせるものです。

挑戦と実り(葛藤と進歩)は、しばしば手を取り合います。神の最大の苦しみ - 十字架上のイエス - が、神の最大の成功 - 私たちが神との関係を回復し、真のいのちを知る - をもたらしました。クリスチャンとして人生の様々な状況への応え方は、直面する苦難の現実

を認識しながらも、神を喜ぶこと。そうすれば、たとえ人生が苦しく、伝道が圧倒的に困難に感じて、枯れることはありません。この挑戦は、至難の業とも言えるアイデンティティクライシス、苦しみ、偶像崇拜、そして死という難題に直面する世界で、単なる神話上の人物ではなく、歴史的にも現在も実在するイエス・キリストを世界の救世主だと宣べ伝え、忍耐することです。

- こういうわけで、あなたがたは彼らを実によって見分けることになるのです。
- マタイ7:18-20

最初の年は、神がご自分の民、特に福音の大使となる人々にどのような品性を身につけさせようとしているかに焦点を当てました。今年は、私たちが世に届ける福音の実と、結実への過程で直面し得る課題に目を向けます。

ジョン・ウェスレーは生涯で4万回以上の説教を行い、年間4,000マイル以上の距離を馬で移動した！ウェスレーの日記を少し見ただけでも、18世紀の英国で縦横無尽に福音を伝えた彼が直面した挑戦、障害、迫害の大きさがわかります。これらの挑戦は、福音が人々の生活をどのように変えるかという現実がなければ、ただの苦行です。しかし、福音のためなら、その苦労は報われます。

ジョン・ウェスレーのような人生は、伝道の最前線で神に仕える喜びと挑戦の両方を思い出させてくれます。しかし、あなた自身の体験はどんなものですか？

話し合う：あなたが伝道する際に直面した具体的な課題は何ですか？

時に挑戦 - 日々、信仰のために時間とエネルギーを費やし、自己鍛錬を行い、偶像や気晴らしよりも神への礼拝を優先させ、他の信者と交流し、人を励まし、仕え、備えること等 - は良いことです。

しかし、それ自体良いと思えない経験 - 世間からの迫害、人間への恐れ、敵からの誘惑や非難、業績や他者との比較による偶像崇拜等 - もあります。これらの試練は、従順な信仰の道を忍耐強く歩む私たちの成長のために、神の恵みの中で用いられることがあります。

どのように困難に立ち向かい、くじけず神の召しに仕え、一貫した霊的忍耐力を身につけることができますか。簡単すぎるように聞こえるかもしれませんが、その答えは、イエスに従うことです。

ヨハネの福音書の最初と最後の章の両方で、イエスは弟子たちに「私に従いなさい」と呼びかけています。この2つの呼びかけの間に、弟子たちは身体的な危険、失敗、失望、迫害、意見の相違、その他さまざまな困難に直面します。そしてイエスが天に昇られた後も、弟子たちは福音を伝え、教会を誕生させ、イエスに従うことに尽力しながら、以前と同じような困難に直面します！同じ困難に会うにも2つの大きな違いがありました。ひとつは、イエスの復活を目撃した彼らは、イエスをただの伝え聞いていた救世主像としてではなく、主なる神だと知っていました。2つ目は、イエスによって全てが変えられるという贈り物を得ていました。

イエスに従うとは、イエスを知ることです。弟子になる前のナタナエルは、ナザレのイエスのことを初めて聞いて、あざけります：ナザレ？ナザレ？あそこから何か良いものが生まれるのか？しかし、ナタナエルは、イエスに直接会い、イエスの預言の力を直接体験することで、侮辱が注目へと急速に変化します（ヨハネ1：43-50）。ナタナエルは、イエスとの出会いで、イエスを見下していたのが、イエスに従うようになりました。

すべての旅には出発点があり、すべての関係に「はじめまして」があります。やがてナタナエルとその仲間たちは、イエスの本当の姿を目の当たりにし、戸惑いが自信に変わり、最初に言った言葉も「ナザレ？ナザレ？そこからどんな良いものが生まれたか、教えてあげよう！」に変わりました。

話し合う：イエスに従う中で、イエスがあなたをどのように変えましたか？どのような実を見ることができましたか？

イエスに従うとは、たとえ世界のすべてが私たちに敵対していると思えるときでも、イエスとの関係の中で真の喜びを見出すことができることです。私たちは、単に困難な状況生き抜くだけでなく、成長します。それは、イエスが与える贈り物、すなわち聖霊の賜物と、そこから生まれる実を受け取ることで実現します。

- しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、
- 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。
- ガラテヤ5:22-23

これは、私たちの生活の中にある神の働きの効果で、私たちが神の存在と力に完全に身を委ねたときに流れ出る人格と美徳の証拠です。

伝道の挑戦は、目の前の奉仕で起こる個々の問題、障害、迫害、困難の中ではなく、日々イエスを知り、従うことを実行する中にあります。

御霊の「実」（複数形）という言葉をよく耳にしますが、原語（ギリシャ語）で「実」という言葉は単数形です（英訳の聖書でも単数形）。この区別は重要ですか？おそらくパウロは、9つの識別可能な特徴（気品、美徳とも表現される）を持つ1つの霊的な実（1つの人生）について語っていると理解してほしいでしょう。これが、パウロが表現するキリスト者のあるべき姿です。

今セッションからの2年目は、御霊の実の全体を理解するのに、9つの実を数セッションに分けて、より深く学びますが、生活の中に

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いの近況を報告し合い、体験談、機会に関する振り返りなど、グループの励みになることを共有します。アドバンス・グループを立ち上げた人がいるか、互いに確認し合う。今年、自分たちのグループを立ち上げることを考え続けるよう、他の人たちを励まします。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い点、困難な状況について祈ります。

学び [30-40分]

次の教材をそのまま読むか、自分なりにアレンジして教えます。

- 良い木が悪い実を結ぶことはできず、また、悪い木が良い実を結ぶこともできません。
- 良い実を結ばない木はみな切り倒されて、火に投げ込まれます。



セッション2

神からの挑戦

-礼拝と従順

このセッションでは、**霊と真理をもって神を礼拝するとはどういうことか、また、どのように礼拝が伝道につながるかを学びます。**

セッションのまとめ

神は、**霊と真理をもって礼拝する者**、- イエスに従うことの代償を背負い、すべてにおいて従順な聖なる民、なにより、イエスの希望を世界に宣べ伝える者を求めています。

セッションの背景

すべての人間は、人生を通して、礼拝の根本的な問いに答えます。誰もが何かを崇拜しているの、「あなたは拝みますか」が問いではありません。問題は、「何を、誰を拝むか」です。

フランスの哲学者ブレイズ・パスカルは、神の形の穴という考えを考案したことで有名です：

- この渴望とこの無力さは、人間の中にか
- つて真の幸福があったが、今残っている
- のはかすれた筆跡だけで、他に何と宣言
- しているのだろうか。この無限の深淵を
- 満たすことができるのは、無限かつ不変
- の存在、つまり神自身だけなのだから。

● パスカル

私たちは礼拝するために造られました。もし、私たちの人生の本来礼拝がある空白を適切な対象である神ご自身で埋めないなら、いつまでも満たされないままでしょう。まるで、運転したことのない車、味わったことのない食事、蹴ったことのないサッカーボール、聴いたことのない交響曲のようなものです。存在していても、その目的は達成されません。

- この世のどんなものでも満たされない欲
- 望を自分の中に見出したら、納得できる
- 説明は、自分は別の世界のために造られた
- ということ。

● C.S.ルイス

私たちは、王への礼拝が人生、愛、充足の究極の現実である神の王国に住むのに造られました。礼拝は、神への反抗を神との関係へと変える、神への正しく適切な反応です。

礼拝とはどんなものですか。新約聖書で最も頻繁に使われる礼拝の単語はプロスクネオ、「ふさわしい人の前で敬虔に頭を下げ、敬意を表す」という意味です。次に多い訳は、ラトルオ、「仕える」という意味です。

聖書を読んで「礼拝」の単語が出てくるとき、教会のリーダーが、集会で「礼拝」と言う時、先に述べた意味が含まれていることを考えてみてください。

礼拝という言葉に出会うたび、神だけが私たちの完全な服従、従順、奉仕、才能にふさわしい方だと思い出してください。神ご自身の犠牲にあって、自分を捧げ、神の前に頭を下げて言います。「主よ、私はここにいます、あなたは賛美されるべき方、どんな犠牲があってもあなた栄光のために仕える私の人生にあなたの御心が成りますように。」

神は私たちが霊と真理をもって神を礼拝することを望んでいます(ヨハネ4:24)。神は、イエス・キリストにおいて私たちに真理を与え、その霊によって、私たちが神の聖なる民として神を礼拝する力を与えてくれました。

これこそ、神が望む礼拝です。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、体験談や機会に関する振り返り等、グループを励ますことを共有します。御霊の実に関する祈りや、祈りのジャーナル(1課-応用)に、どのように取り組んできたかを聞く。続けて、励まし合う。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況、困難な状況について祈ります。

学び [35-45分]

以下の教材をそのまま、または、自分なりに工夫して教えます。

- ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる

- 生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

- この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

● **ローマ12:1-2**

話し合う:生活や教会の中で、礼拝はどのようなものですか？

日々の献身を怠り、家族を愛することを怠り、周囲の人々の必要を満たすことを怠り、伝道活動を行うことは、表面的には良く見えても、その裏では欠落しているものを神に捧げるといふ畏にはまることとなります。

神様は伝道者以前に、礼拝者を探しています。

- 「教会の優先任務は伝道」とよく言われます。しかし、実際はそうではありません。礼拝が伝道より優先されるのは、神への愛が第一の戒めで、隣人への愛が第二の戒めであること、教会の伝道の任務が完了した後も、神の民は永遠に神を礼拝し続けること、そして伝道自体が礼拝の一側面、改宗者が「神に受け入れられる供物となる」ための「祭司の奉仕」だからです。

● **ジョン・ストット**

伝道者の核となるメッセージは、その価値のある方だけを礼拝するよう人々に呼びかけること。神を拝むか、他のものを拝むか、礼拝は分けることができません。神だけが私たちの礼拝にふさわしく、神を礼拝することによってのみ、私たちは真の生命と充足感を得ることができます。

伝道者としての挑戦は、自分の働きよりも、才能よりも、何よりも、まず神を礼拝することを確かにすることです。

礼拝とは、単に神に向かって歌を歌うことだと考える畏にはまりがちです。音楽は神への礼拝を表現するための素晴らしいツールですが、それはあくまでツールです。礼拝の本質は、忠実であること、言い換えれば、**従順**であることです。

新約聖書で最も頻繁に使われる「礼拝」という言葉、プロスクネオは、服従や従順という意味を持ちます。神の前に顔を伏せて、「主よ、あなただけが礼拝に値します。私はあなたを慕い、尊敬します。私の人生をあなたに捧げます。私の人生をあなたへの礼拝の供え物としてください」。このような礼拝は、神の存在そのものを敬い、神の権威に従順に従うものです。

話し合う:礼拝の捉え方を深める具体的な5つの方法を紹介します。これらはどのように伝道の照準を合わせますか？

1. 時にかなう

よく、教会の集まりで「これから礼拝の時を持つ」という表現を使いますが、これは一緒に賛美することを意味します。これは、歌うことが礼拝の完全な表現だという考えを助長するので、あまり有益ではありません。もし、神への応答の他の側面を「礼拝の時間」と呼んだらどうですか。今週末、教会でグループを作り、街頭に出て、人々のために祈り、イエスへの信仰を分かち合う「礼拝の時間」を持つのはどうですか？伝道と礼拝が密接になればなるほど、神を喜ばせ応答する私たちの生活が礼拝だと体験します。

2. 褒めまくる

神がどんな方で、何をしたのかを祝うのだから、神への賛美は私たちを感嘆させるはずで。しかし、私たちが歌う歌は、あまりにも馴染みやすく、一般的なものになりがちではないですか。もし、私たちが具体的な賛美-神が人々の生活の中で行っておられること-の証を優先し人々が驚かされるならどうなるでしょう。もし神が私たちの間で行っている具体的なことを歌い、教会でしか聞けないような曲を作ったら、私たちの礼拝はどうなるだろうか？伝道の実は、私たちの間で働く神の救いの力に驚き続け、神が誰かを祝う素晴らしい照準になります。

3. 参加するために見る

礼拝参加の定義は、信条を唱え、賛美、証しなどです。しかし、実際参加する前には、まず見学する必要があることが多いです。新しい歌のメロディーを覚えてから、合唱に参加します。もし、私たちが人々に伝道の現場を見るように勧めたら、どうなるでしょうか？より自信を持つことができ、「成功」と「失敗」を見ることができるよう？観察者から始めるのは、礼拝-特に伝道-に参加するための素晴らしい方法です。

4. 聖さを追い求める

福音も礼拝も、中心は聖さです。神の願いは、神が聖いように私たちも聖い者となり、神とその聖なる栄光を礼拝する聖い民となることです。福音や礼拝に関連して、どれくらいの頻度で聖さについて話していますか。礼拝のために「聖別した」時間を捧げるのは慣れています-伝道にも同じようにできますか？

5. 快適さに立ち向かう

礼拝を、単に娯楽の一環とするのは簡単ですが、真の礼拝の中心には犠牲が伴います。私たちが神を礼拝できるのは、イエスの犠牲によって、神との関係が回復され、礼拝が可能になったからです。私たちは、神への礼拝

の代償をどのように換算しますか。生活のどの領域で、居心地の良さから離れ、神への礼拝の捧げ物として従順に仕えるよう呼び掛けていますか？

真に聖書的な礼拝は、人生のあらゆる瞬間に代償と喜びに根ざした神への応答で、天国の側面ともいえる応答の一部には、常に失われたものを探し、救うことが伴います。

- 最高の礼拝は、無私のキリスト者の奉仕です。最も偉大な賛美は、失われた無力な人々を探し求める聖別された足音です。
- ビリー・グラハム

ディスカッション [15分]

4. 礼拝とは何ですか？
5. なぜ聖性が礼拝の中心になるのですか？
6. 礼拝と伝道はどのような関連がありますか？

適用 [5分]

セッションで得た5つの実践的な提案を考慮し、自分の生活と教会にどう活かせるか考える。1年目8課（伝道者の品格）を再読し、なぜ聖さが福音とその応答である礼拝の中心なのかを考えてください。

祈り

「天の父よ、私たちが霊と真理をもって礼拝できるようにしてください。私たちが捧げる礼拝が、あなたの愛と犠牲を反映するものがありますように。生き方があなたへの捧げものになるとき、この礼拝が神の真実の希望を

周りの世界に明らかにし、賛美の音色が、あなたの霊の力によって福音に生き、語る教会の響きとなりますように。アーメン」

アカウントビリティ [15分]

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、お互いのために祈りましょう。

セッション3

弟子訓練の実

-誠実と自制

このセッションでは、誠実と自制の霊的な実を学びます。神に誠実であるとはどういうことですか。自制は、生活の中でどのように発揮されますか？

セッションのまとめ

イエスは、すべての人が自分の十字架を背負い、完全に忠実に従うようにチャレンジします。それには、不都合なときでも福音の真理を宣べ伝えることに忠実であることも含まれます。

セッションの背景

結婚は、誠実さの約束として最も普遍的に認識されています。歴史や文化の違いを超え、人々は相手への愛から完全な貞操を誓います。誠実さは結婚の重要な側面で、誠実さの実現には、各パートナーの自制が欠かせません。

新約聖書には、教会を花嫁、キリストを花婿とする箇所がいくつかあり（IIコリント11:2-3、エペソ5:22-31、黙示録19:7-8、21:2-14）、これらはすべて、旧約聖書に見られる、イスラエルが神の花嫁（エレミア2:2、ホセア2-3）と同じイメージです。結婚が夫婦間の独占的な忠誠の約束なのと同じく、神の民は、神が完全に誠実なように、神に誠実であるべきという意味です。

修道女になってキリストに人生を捧げる人たちは、イエスと「結婚」していると同喩されることがあります。他の誰かと結婚する可能性を捨て、神への完全で二心ない忠誠を優先します。このような召命はとても尊いですが、修道生活に召された人が、他の誰よりも忠実なことを求められていると考えるのはやめましょう。

ペテロが信者にどのような神への応答を促しているか見てみます：

- 私たちをご自身の栄光と栄誉によって召してくださった神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。

- その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。

- だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

● IIペテロ1:3-7

私たちは、神に対して完璧に誠実であることはできませんが、生活の中で神の霊が働いて、日々神に應えて誠実に生きるために必要なものを備えさせます。キリストを敬う生き方には、**信頼**と**宝**の2つが必要です。

私たちは、神が力を与えてくれることを**信頼**し、その力を生活の中で発揮して**大切に**します。ペテロが提示した、神への応答のリストをもう一度見て、それぞれの項目を考えてみてください。

これらは、神を信頼し、自分の生活の中で実践するために十分な宝物です：

- 善さ
- 知識（神様の真理とご性質について）
- セルフコントロール
- 忍耐
- 神性（神聖）
- 相互の愛情
- 愛

これらはどれも神の力によって与えられ、それぞれが日々の生活の中で発揮されるべきものです。

この実践は、私たちの人生への神の完全な誠実さと備えに出会う場所です。神を愛し、神に忠誠を捧げるとき、神の備えを日々体験しながら実行します。

神の力により、神が望む全き誠実な花嫁になれるのです。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、体験談や機会に関する振り返り、その他グループの励ましになることをシェアします。前セッションで紹介された礼拝の5つの具体

的な提案を、生活や教会で実践し始めた人がいるかを聞く（2課-応用）。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [30-40分]

以下の教材を、そのまま、または自分なりに工夫して教えます。

- 次のことばは真実です。「私たちが、キリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きるようになる。耐え忍んでいるのなら、キリストとともに王となる。キリストを否むなら、キリストもまた、私たちを否まれる。私たちが真実でなくても、キリストは常に真実である。ご自分を否むことができないからである。」

|| テモテ2:11-13

前回は、神様に従うとは、霊と真理をもって神様を礼拝するとはどういうことかを学びました。従順の実は、誠実です。

しかし、パウロはテモテに、全人類が直面する問題、つまり、神への不誠実さと、その不誠実が、創造の平和に混乱をもたらす破滅的な問題だと思い起こさせます。しかし、良い知らせがあります。神は完全に誠実で、その誠実さは、私たちに基づきません！神の一貫した誠実さの平和が破滅に勝利します。

神は常に誠実で、神が誰であるかの根本的事実です。詩篇の中で、神の誠実さを述べたものを見てみましょう。

- しかし主よ あなたはあわれみ深く情け深い神。怒るのに遅く**恵み**と**まこと**に富んでおられます。

詩篇86:15 (NLT)

- 私は言います。「**御恵み**はとこしえに打ち立てられ **あなたはその真実**を天に堅く立てておられます。」

詩篇89:2 (NLT)

- 主はいつくしみ深く **その恵み**はとこしえまで **その真実**は代々に至る。

詩篇100:5 (NLT)

神の愛と誠実さがリンクしていることに気づきましたか。もっとすごいものもあります...

- 律法はモーセによって与えられ、**恵み**と**まこと**はイエス・キリストによって実現したからである。

ヨハネ1:17

イエスは、神の愛と誠実さを身をもって体現し、不誠実な状態の私たちを誠実な状態に移すため、私たちに与えられた方です。

イエスは、世界が見たこともない、愛と誠実を余すことなく果たした存在です。

今日の心理学によると、結婚は、世界的に認知されている愛と貞節の約束で、二人がその関係を**公に、公的に、永続させる**過程です。イエスが十字架で死なれたとき、神は世界への忠誠を**公に、公式に、そして永久に**されました。私たちが不誠実な配偶者として行動したとしても、彼との関係に戻ることができるように、神は完全な夫として私たちに自らを誓約したのです。イエスが墓からよみがえったとき、神はその誠実を、新しい命の贈り物として、永遠に私たちの内に住まわせました。

私たちがチャレンジを受け、神の私たちへの誠実さを疑うとき、悪魔や世間、あるいは私たち自身の肉の思いから、「神があなたを愛し、誠実だと本当に確信できますか」と問われたら、神のゆるぎない愛と誠実さのしるしである十字架を指して、言い続けることができます：

「はい、確信できます」と。

祈る：少し時間をとって祈り、神様の誠実さに感謝し、グループのメンバーが直面している課題があれば、それを主に委ねます。試練の中で主に信頼することができるように、主の助けを求めます。

誠実さに神に應えるとは、どういうことですか。

誠実でありたいという決心は私たちの感情と密接にリンクして、日々揺れ動きます。しかし、神は私たちのすべてを常に望んでいます。神が求めるのは、十字架の希望にしっかりつながり、良い時も悪い時も、徹底した覚悟、とことんの従順、完全な誠実さです。

誠実とは、**敬虔に、一貫して生きること**と言い表すことができます。誠実さは、信仰に意図的に取り組み、正しい方法、誠実な方法 - たとえ苦痛や犠牲が伴っても - を選択することです。誠実に生きるとは、偽善から遠ざかり、個人的な代償が大きくても、それより大きなもののために生きる覚悟があることを世に示すことにつながります。

霊的な訓練とは、単にいろんなことをあきらめることではありません。神は、私たちと関係を築き、助け、導き、私たちが人生に対する目的を明らかにするのを望んでいます。祈り、みことばを学び、礼拝し、黙想し、断食し、献金しようと決心するとき、霊的鍛錬が私たちと神との関係を助けます。この訓練を通し、キリストにある自分のアイデンティティをより完全に見出し、神への従順が変化をもたらします。

話し合う:クリスチャンの生活は慎ましく規律正しいことが求められているようですが、イエスは、私たちが豊かで満足できる人生を与えるために来た、と言います。この2つはどのように区別され、誠実と自制はどのように私たちを助けますか？

自制が御霊の実の一つなのには、とても良い理由があります。神は、生活の中で、神を賛美しないもの、特に私たちを罪に導くものについて、注意するよう求めます。イエスは、この点についてははっきりと述べます：

- ...もしあなたの右手があなたに罪を犯させるなら、それを切り落として捨てなさい
-
-
-
-
- **マタイ5:30 (ESV)**

のこぎりを手に取る前に、生活の中で、イエスから離れている部分を特定し、それを自分から切り離すのを求めていると理解してください。

自分の人生を振り返り、もっと規律が必要な部分はないですか。食べる物、目に映る画像といった明白な領域がないかもしれません。SNSのようにコメントするか、祈りや聖書を学ぶなど思考を養う時間を作る、過剰な約束と過小な手間をしない、時間を守る、相手の最善を考え選択する、などなど、もっと自分を律する必要があることに気づくかもしれません。

神からの挑戦は、生活の中で神に誠実だけでなく、伝道において神の福音に誠実なことです。神のために誠実に生きると、誠実に神のことを語るようになります。神に対して真に忠実になるとは、神が私たちのために持つ人生を十分に生きることで、揺るぎなく愛してくれる方への愛の捧げ物として、信仰を鍛え、生き、語ることです。

ディスカッション [20分]

1. あなたの人生に、神はどのようにその誠実さを示しましたか？
2. 「規律」「自制心」と聞いて、何を思い浮かべますか？
3. 人生の中で、神に誠実であるのに苦心している部分はどこですか？
4. 自制心のある生活を送ることは、伝道にどんな影響を与えますか？

アカウントビリティ [20分]

アカウントビリティ用紙に記入すると共に、生活の中で重要な4つの領域に関する質問をし合い、誠実さと自制心について考えます。

時間

私たちは忙しい世の中で生きています。最も貴重な財産である時間をめぐっての小競り合いがいつも繰り広げられています。2つの重要な問いに向き合わなければなりません。第一に、本当に重要なことに時間を使っていますか？第二に、忙しいことが良いことだと思っていないですか（誰が言いましたか）？

人間関係

あなたの人間関係で、どれだけ規律正しい生活を送っていますか？家族や友人と過ごす時間は関係の一部ですが、交流の質はどうですか。ただそこに居ると、実際に彼らと一緒に居るのはまったく別のことです。

思考

私たちは一日中、様々なイメージ、情報、思い、考えに晒されます。頭の中も破裂寸前。それも健全で成長を促すものより、くだらない、毒にもなるジャンクでお腹（頭）いっぱいにしていませんか。観るもの、目にするもの、読むもの、言うこと、考えに気を配ること

は、とても大切です。あなたの心を健康に保つため、生活の中で削る必要のあるものは何ですか？

霊性

どのように霊的鍛錬をしますか。私たちの霊を神の聖霊に服従させることです。シンプルに自問自答して：私にとって、自分の霊を毎日、神の霊に本当に服従させるとはどんなことか？

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈る。

祈り

「誠実な神様、あなたの揺るぎない愛を感謝します。時に忠実に生きられなくてごめんなさい。もっと自制心を持てるように助けてください。あなたをもっと知り、毎日あなたと一緒に過ごす時間を増やしたいです。罪を犯した時に赦してください。自制するのに苦労している分野をあなたに委ねます。私を失望させず、いつも共にいてくれて感謝します。あなたを敬い、人を励ます生き方ができるように、助けてください。アーメン」

適用 [5分]

最も信頼できる友人に、あなたの人生の中で、支えてほしい領域、ほっとしてほしい領域を知らせて、説明責任をはたすことができるようにします。数週間経ったら、次の3つの質問をするように頼みます：

1. これまでの経過はどうですか？
2. その中で、神様の働きが見えていますか？
3. これまでで学んだこと、発見したことは何ですか？



セッション4

自分自身からの挑戦 -自己実現と比較

このセッションでは、自分自身の中にある課題、つまり、神からの恵みと愛よりも、他人と比べた自分の業績から価値を見出す問題を学びます。

セッションのまとめ

他人と比較することが、簡単に私たちの召命や可能性を鈍らせ殺します。しかし、すべてを満たすキリストに信頼するのを学ぶことで、私たちの限界や才能を超え、キリストの召命に従う自由を経験します。

セッションの背景

時に、大きすぎる期待をかけているのは自分自身かもしれません。不合理な期待ではなく、家族、地域、文化、社会の影響を受けて植付けられた期待です。私たちはだれよりも自分に一番厳しいのです。

イスラエルには、比較の問題がありました。何世代にも渡り、神が何度も何度も奴隷の彼らを救い出し、次々の戦いに勝利を与え、約束の地へと導いたのに、まだ何か足りないと考えました。そして、王を欲しがりました。

現代より古代世界の王権は、はるかに重要でした。君主は神の代理人として、具体的かつ重要な方法で国を導く存在。例えば、エジプトのファラオは、統治によって神性と人間のギャップを埋め、宇宙の存在秩序をもたら

すことが期待されました。古代の王の役割として共通して期待されたのは、国土を守り、必要な場合には国を率いて戦いに赴くことでした。

イスラエルは、周りの国々を見て、自分たちには王がないことに気づきます。彼らの神が王の王なのにもかかわらず、他国の王と互角に渡り合える地上の人物を切望しました。彼らは預言者サムエルを通して、自分たちも地上の王を持てるかを神に尋ねました（1サムエル記8章）。

比較することは、しばしば神をないがしろにすることにつながります。そして、それがどんな影響を及ぼすかに気づいていません。自分に都合よく量るなら、エゴと自己充足が優り、神がいなくても自分は大丈夫と思込みます。不必要に自己卑下するなら、神は取るに足らない私たちに十分な力も愛もないと信じて、神の権威を無にします。神に代わる王を求めたイスラエルは、知らずに、しかし必然的に、主への信頼を低下させ、人へ過度に依存することになりました。

イスラエルの事例は、パフォーマンスについても教えてくれます。彼らは、自分たちのアイデンティティを愛と誠実の神に置くより、世間の目にどう映るかで自分たちの価値を示そうとしました。

私たちも簡単に同じ罫にはまり、パフォーマンスで自分の価値を測ろうとします：

- ミニストーリーパフォーマンス：働きがどれだけ成功しているか
- リーダーシップのパフォーマンス：どれだけ尊敬されているか
- 仕事のパフォーマンス、ワークパフォーマンス：どれだけ忙しくしているか
- 犠牲的パフォーマンス：どれほど尽くしているか
- 霊的パフォーマンス：どれだけ規律正しいか
- 道徳的パフォーマンス：どれだけ聖なる存在か
- ファミリー・パフォーマンス：どのように関係を築いているか
- 知的パフォーマンス：どれだけ教養があるか
- 賜物パフォーマンス：どれだけ熟練しているか

これらの分野で勤勉に、最善を尽くすべきですが、そこから私たちの価値やアイデンティティを見出しはけません。私たちのアイデンティティと価値は、神にあります。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、体験談や機会に関する振り返り等、グループの励ましになることを共有します。前回のセッション (3課-応

用) で決めたアカウントビリティにどのように取り組んだかをグループ内で話してもらいます。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い、または困難な状況について祈ります。

学び [40-50分]

以下の題材をそのまま読むか、自分なりに工夫して教えます。

- さて、一行が進んで行くうちに、イエスはある村に入られた。すると、マルタという女の人がイエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座って、主のことばに聞き入っていた。ところが、マルタはいろいろなもののために心が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いませんか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」主は答えられた。

「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」

ルカ10:38-42

マルタは、イエスに仕えるのに一生懸命になり、イエスの存在によって祝福されることを忘れてしまいます。そればかりか、自分の努力を妹のマリアと比較して、マリアがキツイ仕事をを全部自分に丸投げして感じて苛立ちを覚えます。この物語では、業績と比較が神の臨在を阻むものと明らかにしています。しかし、自分の努力や他人への努力に対する評価にも、イエスはシンプルで深い気づき (評価) をくれます。「私の存在だけで十分だ」と。

だれもが、生活のプレッシャーの中で、一定の基準を満たすのに一生懸命になっていることに気づくでしょう。多くの人にとってのパフォーマンスの結果、家族の食卓に食べ物が並びます。パフォーマンスは必要なものです。

また、パフォーマンスとは、同僚や仲間、ライバルよりも出世し、より多くの成果を上げることだと考える人もいます。パフォーマンスとは成功のことです。パフォーマンスとは、願望を達成することです。パフォーマンスとは、しばしばエゴや自己実現のことです。

話し合う：自分の人生の、「業績」をどのように評価していますか？伝道においてはどうですか？

比較は、高い確率であなたの人格を台無しにします。比較して都合よく捉えると、不必要に自尊心とプライドを高くします。比較して否定的に捉えると、精神的にダメージを受け、気力を失います。あなたよりカリスマな説教者、神学博士、話し上手、熱心な祈り手、見栄えのする人など、いつも上には上があるものです。

比較が常に否定的なものとは限りません。時に、他人がどのように学び、成長しているかを観察することは有益です。他人を観察し、その成功や失敗から学ぶことは、人間の経験として自然なことです。しかし、肯定的な観察と否定的な比較の違いは、**感性と非難**の役割にあります。

うまくいっている人を見て**感化**され、自分もがんばろうと思いませんか？苦勞している人を見て**共感**し、できる限り助けようと思いませんか？それとも、うまくいっている人を見て、できない自分を**責め**ますか。苦勞している人を見て、自業自得だと**非難**しますか。

主に忠実に仕え、比較や成果主義のプレッシャーといった落とし穴を避けるために気をつける6つのことを紹介します。

話し合う：グループ内でそれぞれこの分野で悩んでいることがあれば、それをメモしておき、後でアカウントビリティの時間に、お互いのために祈る機会を持ちます。

落胆に気をつける

比較の最初の問題は落胆です。周りの人と比べて劣っていると感じたら、すぐに落胆して、意欲 (やる気) を失います。ないものねだりの比較によって、神からの実りを確約された証しの召命の喜びを奪われることがあってはなりません。他人の成功に落胆するのではなく、その一つひとつを神の国の勝利として祝うべきです。自分の挫折や限界を嘆く代わりに、他の人の王国の勝利に感謝することを選ばなければなりません。このような心の姿勢で主を敬うなら、パフォーマンスを超えた喜びを発見することができます。

激励に気をつける

励ましの問題は、落胆の問題と密接に関連しています。通常、励ましが問題だと思いませんが、他人との比較の中での励ましが、優越感に浸らせたり、思い上がったりします。自分の成功によって、他より「優れている」と思い込みます。自画自賛に陥らないようにしましょう。自分の時間、技術、才能、資源を、同じような召命を持ち、その才能を伸ばそうとする人たちに惜しみなく与えなければなりません。

賜物に気をつける

比較することで、才能や賜物を過信してしまうことがあります。神を賛美するために才能が用いられることがあります。才能だけで

良い伝道ができることと錯覚してはいけません。才能に基づくパフォーマンスは、すぐに神の力の過小評価につながります。それだけでなく、説得力やコミュニケーション能力の高い人が偉大な伝道者と高評価されることがあります。しかし、神は才能より人格を重視します。あなたが持つ才能がすべて神の栄光のために使われることを感謝し、神からの賜物を忠実に扱うことができるように、天の知恵と恵みで豊かに祝福してくださいと祈り願いましょう。

間違った謙遜に気をつける

伝道において謙遜は不可欠ですが、誤った謙遜は有害です。他人と自分を比較し、自分の働きを評価するとき、謙遜を装いながら一方で、褒められたい欲求を抱くことは、あまりにも簡単です。自問自答してみてください：成功したとき、どのように謙虚さを示すことができますか？褒められたとき、どう反応するかを考えてみるのも一つの方法です。「ありがとうございます」と言い、主に栄光を帰しますか？真の謙遜は、称賛を受けないことではなく、潔く受け取り、愛をもって共に神に向くことです。

成果に気をつける

伝道の成功をどう評価しますか？フルタイムの伝道者なら、自分の召命を正当化するのに「結果」（応答の数）を増やさなければプレッシャーを感じるかもしれません。もし伝道の成功を数字で測るなら、権利のない手柄を主張してしまう危険性があります。救いの力があるのは神だけです。自分の召命やミニストリーを正当化しようとする誘惑に駆られ、「手を挙げたのは10人だが、心の中で応答したのは12人いただろう」と、数の「誇張伝道者」になりやすいですが、この欺きのゲームをしてはいけません。神に数の成果で偉大さを証明する必要はありません。その数字は、私たちのものではないし、神の偉大さを示す報告になりますか？伝道の成功は、人々をキリストに勝ち取るのではなく、私たち

の周りの世界にキリストを明らかにするという任務に忠実なことに基づきます。残りの部分は神がすることです。

人からの称賛に気をつける

時に、神よりも人から喜ばれたい願望が根っこなことがあります。しかし、天の父以上に外の誰かを喜ばせるために、世界への証しの義務を負っているわけではありません。100m走のスプリンターでキリスト教の宣教師でもあったエリック・リデルが、1924年のパリオリンピックで400mの金メダルを獲得したのは有名な話です。日曜日の種目出場を避け礼拝を優先するため、いつもの種目ではなくその種目を選択したからです。彼の人生において最も重要なのは神で、彼はキリスト教の戒めを守るため、オリンピックでの金メダルのチャンスを犠牲にする覚悟がありました。走ることは彼の人生の重要な一部でしたが、それは彼や他の誰かを喜ばせるためではありませんでした。彼は、「走るとき、私は神の存在を感じる」と言いました。なによりも神を私たちの喜びとしましょう。そうすれば、神は私たちの喜びや情熱を、ただの趣味や活動でなく、天国の永遠の礼拝に共鳴するものに高めてくれます。

キリストのようになる私たちの目標は、自分とキリストを比較することではなく、キリストに留まることで彼を現すことです（ヨハネ15：5-8）。これは、キリストの臨在-日々、彼の足元に座り、「主よ、あなたで十分です」と言うことです。もし奉仕がただのパフォーマンスになってしまったら、プレッシャーに自分自身を晒すことになり-しばしば、不健康な方法で蓄積されいつかは爆発します。しかし、神の臨在からの奉仕なら、神の情熱を見せられ、神への情熱に燃え、世界で情熱的に奉仕できます。

イエスは常に偉大な方ですが、不安定な私たちの判断能力の比較からでなく、私たちの内に働くイエスの霊によって、正確なイエスの偉大さを理解します。恵みと力によって、変

えられつつも、まだ未完成な私たちの人生を通して、イエスの完全な存在を知らせます。

ディスカッション [20分]

1. ミニストーリーの成功をどのように評価しますか？
2. ある一定の基準で「パフォーマンス」する必要性を感じる原因は何ですか？
3. 自分と一番比較しやすいのは誰で、なぜですか？
4. どうすれば「非難」から自分を守り、代わりに「ひらめき」を得ることができますか？

アカウントビリティ [20分]

学びセクションの6つの弱点に戻り、どれが一番困難か正直に振り返り、2人または3人で話し合う。

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈る。

祈り

「父なる神よ、あなたが見るように自分自身を見ることができるよう助けてください。私たちのアイデンティティは、名声や業績、SNSでの「いいね!」やフォローの数、地上での成功ではなく、あなたの子供であるという事実に基づいています。あなた（神）からのアイデンティティで、あなた（神）を現すことで、世界の祝福となるように。あなたを喜び、あなたの存在を何よりも望むことができるように助けてください。私たちのありのままの姿と、あなたが創造した自分の姿になるまで、完璧に愛してくれて感謝します。アーメン」

適用 [5分]

これから数週間、毎日、次の一節を読み、神が言うあなたを思い出します。神のアイデンティティが自分の足場となるように。自分のアイデンティティについて発見したことを毎日誰かと共有します。あなたの証しで、相手が、神との関係の中で自分を知り、新しいアイデンティティを発見する機会になります。

- 創世記1:27
- ローマ8:37
- 1コリント3：16
- 2コリント 5:17
- エペソ2:10
- 1ペテロ 2:9
- 1ヨハネ3:1-2



セッション5

福音の内にある実

-善意と平安

このセッションでは、善意と平安の霊的な実を探求し、これがいかに福音のメッセージの核心に位置するかを理解します。

セッションのまとめ

福音の中心は、完全な平安に至る神の完全な善の真理で、混沌と不安で苦しむ世界に希望をもたらします。

セッションの背景

エンタメ業界では、様々な授賞式があります。映画、テレビ、音楽の世界では、毎年、国際的な賞の授賞式が開催され、各業界で最も優秀な人たちにスポットが当てられます。同業者から評価され、認められ、受け入れられることは、特別な気持ちになるに違いありません。

受賞スピーチは、繊細な芸術です。うまくいけば、機知に富み、謙虚で誠実な印象を与えることができます。間違えば、エゴや傲慢さ、価値観の違いから酸っぱい味を残すこととなります。1985年、女優のサリー・フィールズが2度目にアカデミー賞を受賞したときのスピーチが、最も嘲笑されたスピーチのひとつです：

私は伝統的なキャリアを積んでこなかったので、皆さんに尊敬されることを何よりも望

んできました。一度目はそれを感じなかったが、今回はそれを感じることができたし、今、あなたが私を好きだという事実を否定することはできない！

サリー・フィールズの受賞スピーチが嘲笑されたのは、仲間を受け入れてもらうことを望んでいたと、あまりにも率直に認めてしまったからです。しかし実際は、ほとんどの人がフィールズの表現したように、好かれない、受け入れられたいという欲求を持っています。そして、もし、「十分に良い人」になれば、受け入れられると考えます。

受け入れられたい欲求は、アイデンティティーが探し求める一部で、人間の最も根本的な問題です：「私は誰なのか」。

天国の授賞式はどんなものだと思いますか？おそらく、最も正しい人、最も親切な人、最も謙虚な人、最も愛情深い人などの賞があるのでしょうか。どの部門にもノミネートされるには、聖人のような生活を送る必要があるでしょうし、もっと言えば、毎年表彰台を独占するのはイエスかもしれません。しかし、驚くべきことに、神はすでにそのような授賞式を開いています。究極の賞が1つ用意されていて、その結果発表は大きな驚きでした。私たち全員、賞を獲得したのです。

この道徳哲学の無限ループから抜け出す方法はただ一つ、神の（良い）言葉を信じることです。

「神は善である」と信じたい人でも、神の善と、被造物に見られる苦しみや悪が同居する事実で苦悩します。もし神がそれほど良い方ならなぜ苦しみがあるのか？神が平和であるならなぜ混沌があるのか？この疑問は、人類が共通して経験する「人は皆、痛みを経験する」という問題を解決する、力強く深く重要な質問です。だれもが皆、痛みを経験し、苦しみます。

苦しみの問題へのアプローチには多くの有用な方法がありますが、ここでは内省のための4つのポイントを紹介します：

1. この世は苦しむためにあるのではない
神が世界を創造したとき、それを見て「良い」と言いました。しかし人が、神の完全さに反抗したことで、神の創造した平和に混沌をもたらしました。苦しみが世界に入り込んだのです。これほどまでに痛むのは私たちが苦しむために造られていないからです。

信じない人にとって、苦しみの疑問は解決するのがさらに難しい問題です。なぜなら、苦しみが間違っていると、悪いものだとの仮定する客観的な理由がないからです（ただ、悪いと感じるということだけです）。ランダムな宇宙では、苦しみはランダムなプロセスの避けられない現実です。私たちが苦しんでも、本当の希望はありません。創造された宇宙では、私たちが苦しんでいても、完璧な希望があります。

2. イエスのおかげで希望がある

神は私たちを愛し、私たちの苦しみを気にかけてくれます。神は、苦しむ私たちを見捨てず、苦しむことを選んで、苦しみの中いる私たちに会ってくれます。イエスの十字架上の救いの御業を通して、私たちの苦しみを理解して

一過性で混沌とした世界で、儚く不安定なものから、予測不可能で偶発的なものから、平安を見つけるといふ不可能な問題に直面しています。

しかし、世界は本来あるべき姿ではありません。世界は、神が創造の業を終えて「非常に良い」と宣言した創造主の目に映る姿であるはずで

この1週間で、何度、神が「良き、善き」と言うのを聞きましたか。私たちは、祈りや賛美歌、信条、そして他者への肯定において、定期的にこの言葉を口にします。聖書は、神が善であるという考えを、神のアイデンティティと現実の中核として、定期的かつ一貫して提示しています。善は神の属性ではなく、神は善そのものです。

神がいなければ、客観的な道徳的価値観は存在し得ません。殺人のような行為は常に間違っていると断言する絶対的な法律家がいなければ、ある場合には、それが問題ないと主張できます。神は宇宙の王ですから、ご自身の人格に基づいて枠組みを設定します。神が「良い」と宣言すると、それは良く、神が「悪」と言うとき、神の完全な善に反するのでそれは悪です。

この点を誤解して、神に従わない人は何一つ良いことがないと思込んでいる人が時々います。そうではありません。私たちは皆、善である神に似せて作られています。重要なのは、神が実在する場合にのみ、善が意味を持つことです。神が実在しないなら、善悪の判断はすべて主観的で、個々が勝手に作り上げるものです。しかし、私たちは、直感と心の中で、そうではないことを知っています。そればかりか、神がいなければ、私たちの善悪の判断は何の根拠もありません。私がしていることは良いのか悪いのか？それは私を良い人間にするのか、悪い人間にするのか。それを決めるのは誰ですか？

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いの話を聞いたり、機会に関する振り返りを共有したり、グループの励しになる時間に行います。毎日、詩篇からのアイデンティティを読む取り組み（4課-応用）を、メンバーがどう感じたか聞いてください。励みになりましたか？発見したアイデンティティを他の人と分かち合うことで、福音的な会話につながった人はいましたか？

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [35-45分]

以下の教材を、そのまま読むか、自分なりに工夫して教えます。

● 良い木が悪い実を結ぶことはなく、悪い木が良い実を結ぶこともありません。木はそれぞれ、その実によって分かります。● 茨からいちじくを採ることはなく、野ばらからぶどうを摘むこともありません。● 良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。● 人の口は、心に満ちていることを話すからです。

● ルカ6: 43-45

生活の中には、不安を感じる事がたくさんあります。毎日、私たちが不安にするニュースを目にします。世界は不安定です。経済的に安定した仕事も入れ替わり、政権交代、良かった人間関係が疎遠になったり、世界的名医でも救命できない死の必然など。

しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。それは、キリスト・イエスにあって私たちに与えられた慈愛によって、この限りなく豊かな恵みを、来たるべき世々に示すためでした。

● エペソ2:4-7

イエスが私たちの賞品で、イエスを通して私たちは神の愛に永遠に受け入れられています。永遠に神の平和の中に保たれます。この賞は、私たちが「良い人」だから手に入れたものではありません。この賞は、人間の力や努力では十分な力を発揮できないからこそ、私たちに与えられたのです。

● この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。● 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。

● エペソ2:8-9

イエスの良い知らせは、平安と確信、そして、私たちがイエスに受け入れられ、イエスの恵みによって完全ないのちへと前進できる安心感をもたらします。かつて問題の一部であったこの世界で、解決策の一部となることができるのです。

イエスの存在は、私たちの善ではなく、神の善を明らかにする賞品です。それは、かつて神との戦争を選んだ人類に、神の平和を回復させる賞品です。

セッション6

この世からの挑戦

-恐れと迫害

このセッションでは、私たちが世界に証しする際に受ける挑戦、特に私たちが掴んで鈍らせる人への恐れ、さまざまな形で傷つけ落胆させる迫害を踏まえ、どのように持ちこたえるかを考えます。

セッションのまとめ

すべてのクリスチャンが、自分の信仰に対する迫害や反対勢力に直面しますが、聖書は、どんな試練にも耐え抜く方法の明確な指示を与えています。迫害に遭わないようではなく、迫害を認識し、具体的に対処します。

セッションの背景

今日、世界では、歴史上のどの時点よりも多くのキリスト教殉教者がいると推定されます。キリスト教の迫害を擁護する団体「オープン・ドアーズ」は、世界中の少なくとも10人に1人のキリスト教徒が、信仰のために深刻な迫害に直面していると指摘します。今、世界のどこかで、イエスの信者が投獄、拷問、あるいは死に至るまで苦しんでいるのです。

迫害にはさまざまな形があります。迫害とは、信仰のために、他の人から残酷、あるいは敵対的な扱いを受ける経験です。多くのクリスチャンが経験する迫害は、職場でのいじめ、クリスチャンの信仰に否定的な人々からの不愉快な扱いといった、限定的なもの

でしょう。しかし、世界にはもっと深刻な迫害を受けているクリスチャンが大勢いる事実を、冷静に受け止めなければなりません。信仰に対する敵意は過酷なものです。キリストにある勝利者であるクリスチャンは、被害者面しないように気をつけなければなりません。

イエスは、自分に従う者は迫害に直面すると明言します(ヨハネ15:19-20)。これは、快適な信仰生活を送ろうとする多くのクリスチャンにとって、意外な概念かもしれません。しかし、地上で生きる真の信仰には、福音の唯一無二さと非の打ち所のない主張のゆえにいつでもどこにでも敵が現れます。

アンティオキア司教イグナチオは、ローマで迫害に遭い、殉教に臨む法廷に立たされたキリスト教徒に向けて次のような手紙を書きました：

- 他の人類のためにも絶えず祈りなさい、
- 彼らが神を見出すように、彼らの中にも悔い改めの希望があるのだから。ですから、少なくともあなたの行いによって、彼らが導かれるようにしなさい。彼らの怒りには優しく、彼らの高慢には謙虚に、彼らの中傷には祈りを捧げ、彼らの誤りには信仰を堅持し、彼らの残酷さには礼儀正しく、彼らの真似をしようと躍起になってはなりません。私たちが主に倣うことを

- 熱望し、彼らの兄弟姉妹であることを、
- 寛容さによって示そう。

イグナチオが同胞の信者に呼びかけたのは、真逆の精神だと気づきましたか？

怒りに直面するとき、やさしく

自慢に直面するとき、謙虚に

誹謗中傷に直面するとき、祈りを捧げ

誤りに直面するとき、信仰に堅く立ち

残酷な行為に直面するとき、気高くあるように

このように対応することは、痛みや苦しみの恐怖、恥や屈辱への恐怖、不公平や敗北への恐怖、喪失や死への恐怖、つまり人間への恐怖に打ち勝つということです。

イグナチオは、キリストに忠実であるために直面する迫害に対して、恐れではなく、忍耐を示すよう信者に促します。辞書によると、寛容とは「忍耐強い自制心、抑制、寛大」と定義されています。イエスへの信仰の結果、生活に葛藤が生じたとき、忍耐強い自己抑制、自制心、寛容さを示すことができるでしょうか。

自分の力ではありません。しかし、毎日自分に死ぬことで、新しく力、愛、慎みの霊、つまり恐れではなく健全な心で生まれ変わる希望を持つことができます。聖霊は私たちの寛容を力づけ、キリストが十字架上でしたように、私たちを迫害する人々に赦しを与えることができるようにしてくれます：「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分のしていることを知らないのですから。」

信仰に基づく忍耐が、迫害に耐え、恐怖に打ち勝つだけでなく、盲人の目を開かせる助けとなりますように。

セッションガイド

近況報告 [10分]

互いを知る時間をとり、体験談や機会に関する振り返りど、グループの励みになることを共有する。この1ヶ月でどのように人々のニーズに応えたか、エピソードを共有する（5課-応用）。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学びとディスカッション [60+分]

このセッションでは、迫害を耐え忍ぶ10の方法を探り、それぞれのポイントについて話し合う時間を設けることで、学びとディスカッションを結びつけます。迫害や試練に直面したとき、どのように忍耐し続けることが奨励されているか、たくさん話し合ってください。このセッションを2度に分けて、今月は2回開催することもできます。

- 私の兄弟たち。様々な試練にあうときは
- いつでも、この上もない喜びと思いなさい。あなたがたが知っているとおりの、信仰が試されると忍耐が生まれます。その
- 忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

● ヤコブの手紙 1:2-4

ヤコブは、試練や苦しみを忍耐するよう、信者に呼びかけます。忍耐は、神が私たちに用意した人生に、何も欠けていない者にまで成熟させると教えます。

試練が訪れたときに、純粹に喜べとまで言います！ヤコブは、そのための10の具体的な方法を提示します。

1. 喜んで忍耐する

- わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上もない喜びと思いなさい。信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。

● ヤコブの手紙 1:2-3 新共同訳

主を喜ぶことは私たちの力で、迫害に直面しているときほど必要なもの！喜びは、魂の錨のような役割を果たします。嵐が船を安全な岸辺から遠ざけるように、試練が私たちを神から遠ざけるかもしれません。しかし、どんな状況でも救いの喜びを思い出すことで、最も重要なもの、すなわち神の力、存在、平安に根ざすことができます。

話し合う：「様々な試練」に直面しても、喜びをもって耐え忍ぶとは、どういうことですか？

2. 我慢して耐え忍ぶ

- その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

● ヤコブの手紙 1:4

私たちの多くは、忍耐を受け身に捉えます。困難が訪れるとただじっと座って、過ぎ去るのを待とうとします。しかし、聖書の忍耐は、御霊の実の忍耐で、積極的な忍耐です。自発的に忍耐することは、自発的に神を信頼することです。

話し合う：受動的な忍耐と能動的な忍耐の違いは何ですか？

3. 知恵をしぼる

- あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。

● ヤコブの手紙 1:5

私たちに最も必要なものの一つは天の知恵で、特に迫害に直面しているときはそうです。ソロモン王は、長寿や富、他のどんなものより優先して神に知恵を求めたので、神から大きな祝福を受けました（1列王3:4-15）。試練に直面したとき、天の視点を保つことは難しいかもしれませんが、だからこそ、導きとなる主の知恵を求めることが不可欠で、主は喜んで私たちの求めに応え祝福します。

話し合う：人生のある時期に、天の知恵があなたを助けるのをどのように見てきましたか？

4. 信仰を働かせて忍耐する

- いささかも疑わず、信仰をもって願いなさい。疑う者は、風に吹かれて揺れ動く海の波に似ています。そういう人は、主から何かいただけたらと思っただけで満足してはなりません。心が定まらず、生き方全体に安定を欠く人です。

● ヤコブ 1:6-8 新共同訳

迫害の嵐を乗り切るのに、神への信頼が不可欠です。火のついた矢が飛んできて、私たちは信仰の盾でそれを消し去ります（エペソ6:16）。肉体的な傷を負いやすいかもしれませんが、主に信頼する者を打ち負かせる霊的な迫害の業は存在しません。私たちの

信仰は恵みの上に成り立っています。今ある信仰を耐え忍ぶだけでなく、受けた恵みを、特に私たちを迫害する人たちに広げる力があるのが信仰です。

話し合う: 直面する迫害に対して、どのように信仰の盾を取り、恵みをもって応戦しますか？

5. 献身によって忍耐する

わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。人の怒りは神の義を実現しないからです。

ヤコブ 1: 19-20 新共同訳

私たちと神との関係がすべてです。世界が私たちに敵対するとき、神が私たちのためにいてくれることを思い出さなければなりません。これは、秘密の場所で、神を慕い求め、神に助け請い、神の似姿に形成されるため、神の前で時間を過ごすことから始まります。他人が私たちをあざ笑う声に耳を傾けますか。それとも神に耳を傾けますか。私たちが迫害する人たちに、すぐに怒りの言葉を発しますか。それとも愛を持って父に帰すでしょうか。神の臨在の中で、独善的ではなく、神の聖なる恵み深い義によって、世に対応する準備ができます。

話し合う: 試練や迫害が来るとき、どれほど速やかに、解毒剤としての献身を優先させることができますか？

6. 真理をもって耐える

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことば

を素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません。しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめて、それから離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。

ヤコブ 1: 21-22、25

人生の困難な状況に陥るとき、容易に快適なものに逃げて、気持ちを落ち着かせようとし、食べて、見て、遊んで、消費してなど、直面する試練の中で経験する不快感を和らげ、喜びをもたらす解毒剤の役割を果たします。しかしこれらを過剰に求め、不健全になりがちです。聖書が私たちのナビ、日々の糧、状況が砂のように刻一刻と変わっても揺るがない土台を築く真理の岩盤です。慰めと導きを得ようと、どれだけ早く神の言葉に向かいますか。

話し合う: 不安や焦りで信仰が歪められたとき、どこから確信と展望を見出しますか？

7. 聖さで耐え抜く

だれでも誘惑されているとき、神に誘惑されていると言っただけではいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれかを誘惑することもあります。人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われるからです。

ヤコブの手紙 1: 13-14

悪魔は誘惑し、神は試練を与える。あなたを誘惑する悪魔の望みは、あなたの失敗と、信仰の崩壊です。あなたを試す神の願いは、あなたが成功と信仰の成長です。誘惑や試練

に直面しても、私たちの祈りは同じです。「主よ、御子を通して私たちに救い、あなたの霊によって力を与える聖さで、耐え忍ぶことができるようにしてください。」

話し合う: 迫害に直面しながら聖性を貫くとは、どんなことですか？

8. 仕えながら忍耐する

父である神の御前でよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。

ヤコブの手紙 1: 27

迫害は、私たちに足止めします。恐れさせ、無気力にし、怒らせます。それに立ち向かう最善の対応は、積極的に行動することで、敵に直面しても、無私の心で、思いやりをもって、潔く奉仕し続けることです。

話し合う: 嘲笑されたり、罵倒されながら、粘り強く使える力は何ですか？

9. 希望を持って耐え抜く

試練に耐える人は幸いです。耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、いのちの冠を受けるからです。

ヤコブの手紙 1: 12

パウロは、「私たちの現在の苦しみは、私たちのうちに現われる栄光と比べるに値しません」(ローマ8:18)と信者を励まします。さらに、この希望は私たちだけのものではなく、希望を持って忍耐することで、同じ希望を必要とする世界に現すことができると述べます。希望は、しばしば最大の苦しみを前にして最も明確に示される強力な力です。

苦しみはキリスト教の信仰の恥ではありません。それは、キリストの名が私たちの人生に縫い込まれる糸です。

レベッカ・マクラフリン

話し合う: クリスチャンの苦しみの中で、希望はどのように明らかになりますか？

10. 交わりの中で耐える

ヤコブの手紙は、孤立した個々ではなく、教会共同体に向けて書かれたものです。交わりは不可欠です。迫害は、交流の結び付きを強めるはずですが、外の厳しい世界から身を隠すのではなく、自分自身をリフレッシュさせ、互いに励まし合い、祝福し合いながら、共に社会に出て、試練に立ち向かい、勝利するためのです。

話し合う: あなたの教会は、人生の試練や世界へのキリストの証しについて話す場を作っていますか？この領域で互いに祈り、励まし、支え合っていますか？そうでないなら、どうしたらいいですか？

適用 [5分]

opendoors.orgのワールド・ウォッチ・リストをご覧ください。

信仰のために迫害に直面している世界中の兄弟姉妹のために祈ることで、決して一人で苦しまなくてよいと励まされます。神は、霊の力と教会の祈りと行動によって、私たちと共にいます。

祈り

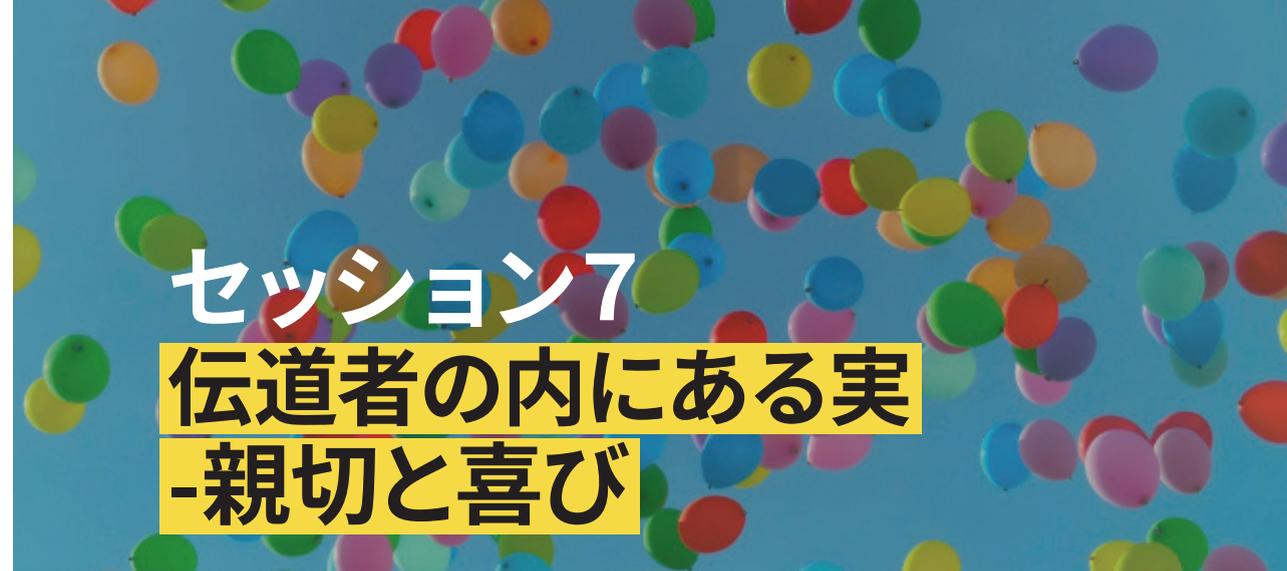
次の3つ迫害に焦点を当て十分な時間をとって祈る：

1. グループ内の個人が経験している具体的な迫害について祈る。
2. あなたの置かれた状況で、福音の普及を妨げる一般的な迫害について祈る。
3. 世界の迫害されている教会のために祈る。

アカウントビリティ [15分]

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈る。

メモ



セッション7

伝道者の内にある実

-親切と喜び

このセッションでは、福音の使者である私たちが、救いの喜びに生き、神の親切さを世に現す必要を学びます。言動が心優しく、主の喜びで力強い伝道とは、果たしてどんなものですか。

セッションのまとめ

神の優しさは、絶望的に反抗的な人類を、希望に満ちた神との関係に戻すのに十分な力があります。同じ優しさが、すべての信者を喜びで満たし、世界で神の僕としての潜在能力を解放してくれます。

セッションの背景

聖書に、神が『人間を地上に造ったことを後悔し、その心を深く悩ました』（創世記6:6）と記されています。

神は地上にどれほどの悪があるかを見て「人類が誕生しなかったほうがよかった」と口にするほど、心を痛めました。神の反応に驚く必要はありません。

人類の邪悪さと悔い改めの欠如は、神の本質に完全に相反するものでした。

創世記6:6は、神が「後悔」とはどのようなことか、という問いを投げかけます。答えを見つける一つの方法は、神について語るに

は人間の言葉に限界があると思出すことです。

神について語る時、ここで説明されたことの複雑さを完全に理解できないかもしれませんが、神の後悔とは、神が目目の悪にどれほど悩み、不愉快に思ったかを表す人間の表現方法だと理解し始めることができるでしょう。

神が悔しがったその瞬間に世界は終わるはずなのに、終わらなかった。なぜか？それは、神は人間の罪深さに心を痛めながらも、永遠の視点を持っておられたからです。その圧倒的で言い尽くせない愛の優しさによって定義されます。

私たちが墮落しているのに、神は私たちが当然受けるべき破滅に追いやることはしません。私たち一人一人が、神の基準に達しませんでした（ローマ3:23）。しかし、神は、その愛の優しさにおいて、私たちに分不相応の、2度目のチャンスを与えてくれます。創世記6章は、世界が一瞬にして滅びなかったのは、ノアという人が神への恵みを見出したからだを教えています。

聖書には、ノアが神の恵みを得たとは書かれていません。神の恵みがノアに降り注いだのは、神が恵み深い方だからです。ノアの義は、神の恵みに応えたからで、その逆ではあ

りません。神がノアに与えた恵みは、決して無駄になりません。私たちは決して神の恵みを獲得できません。神の優しさのゆえに、無償で自由に提供されるのです。

ノアが神の優しさの中に潜在的な希望を見出したのではなく、神の優しさがノアの中に潜在的な希望を見出したのです。

私たちは、神の物語を携えて世に出るとき、神の優しさという希望を抽象的な考えとして提供するものではありません。神の優しさは、神に忠実に仕える私たちの可能性の中で、すでに働いているのです。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いの話を聞いたり、機会に関する振り返りをしたり、グループを励ます時間をとります。前回のセッション（6課-応用）で、世界中で開催されているアドバンス・グループの中から、あなたが知っている他のグループを確認しましたか？その人たちのために一緒に祈ります。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [45-50分]

以下の教材を、そのまま読むか、自分なりに工夫して教えます。

- ですから、あなたがたは神に選ばれた
- 者、聖なる者、愛されている者として、深

- い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を
- 着なさい。

● **コロサイ3:12 (NLT)**

シンプルな親切の行動には、それを受けた人に変化をもたらす力があります。近年、キリスト教の社会貢献活動は、しばしば「親切の時間」を提供することにに基づきます。個人主義がますます強まる社会では、親切は最も強力な資源のひとつです。親切な行為は、閉ざされていた扉を開き、冷たい心を温め、頑なな態度を和らげ、人生を変えることができます。

しかし、神の優しさを真に世界に示すには、私たちの優しさが、個々の行動を超えて、神の国の使者の生き方が根底にあるべきです。イエスが私たちの生活の中心にふさわしい位置を占めるとき、私たちは霊的な優しさにおいて成長します。

イエスを人生の中心に置くのは、イエスを「心の中に」招く以上のことです。それは、イエスの支配に従うことを選択し、イエスが私たちの人格を形成することを許可することです。この2つの方法は、福音に応答するための招待であることを考えましょう：

1. あなたはイエスを心に受け入れることができますか？
2. あなたは自分の人生をイエスに捧げますか？

話し合う：神が私たちに求めていることをよりよく説明しているのはどちらですか？なぜですか？

絶望の中で生きている人たちは、遠くまで探さなくても見つかります。これは人間存在の最大の悲劇の1つです。イエスが十字架で私たちの罪を背負ったとき、世の中の絶望を自

ら背負いました。そのおかげで、私たちは二度と絶望を感じる必要がありません。すごいことだと思いませんか？それでも私たちは絶望感を感じます。もしかしたら、あなたも今日、絶望を経験しているかもしれません。イエスの犠牲による神の優しさが、その絶望を永遠に拭い去り、単なる幸福を超えて喜びという確固たる希望に置き換えてくれることを思い出してください。

幸せは、人にとって大切です。アメリカ合衆国の独立宣言で、人間の主権「生命、自由、幸福の追求」に挙げるほど重要なことです。周りの人に、人生で一番欲しいものは何かと聞いてみると、その答えの中に幸福が含まれている可能性は高いでしょう。

しかし、幸せとは何か、そして人生の中でその基準は何ですか。ある人の幸せは他の人の不幸です。

決定戦の試合終了のホイッスルが鳴った後のサッカースタジアムの様子。優勝したチームの高揚感と、負けたチームの落胆は対照的です。誰もがいつも幸せでいられるような世界は来るのでしょうか。

話し合う：自分の人生における幸福をどう評価しますか？あなたの幸せの捉え方と、まだイエスを知らない人たちの幸せの捉え方に違いはありますか？

幸せは一時的な感情です。伝道で、クリスチャンになれば幸せな生活が送れると約束できたら魅力的です。しかし、それは虚偽広告で、真実ではありません。そして、人を欺くことには何の優しさもありません。福音の優しさは、いかにきれいに包装するのではなく、その真実と希望の力にあります。

イエスは、楽な生活や永遠の幸福を与えるために死んだわけではありません。イエスが死んだのは、私たちが死の代わりに命を持つこ

とができるようにするためです。いつか、私たちが選んだ人生は、悲しみも痛みもない永遠の世界で完成されます（ヨハネ10:10、黙示録21:4）。しかし、私たちが死ぬか、イエスが戻ってくるまで、人々が神を拒否することを選択した不完全な世界に住んでいる現実に直面します。悲しみは、人生の一部です。良い知らせは、イエスが私たちに深い希望を与えてくれることです：

- あなたがたも今は悲しんでいます。しかし、わたしは再びあなたがたに会いま
- す。そして、あなたがたの心は喜びに満た
- されます。その喜びをあなたがたから奪
- い去る者はありません。

● **ヨハネ 16:22**

イエスの死と復活によって、完全な永遠の命の喜びを持つことができるようになりました。誰も私たちが御霊の喜びを奪うことはできません。喜びは幸福とは違います。喜びは霊的なもので、永遠のものです。パウロはこのことを私たちに説明します：

- こうして、私たちは信仰によって義と認め
- られたので、私たちの主イエス・キリスト
- によって、神との平和を持っています。
- このキリストによって私たちは、信仰に
- よって、今立っているこの恵みに導き入れ
- られました。そして、神の栄光にあずかる
- 望みを喜んでいます。

● **ローマ 5:1-2**

パウロの指摘は、信仰をしっかりと身につけるとは、どれだけ信頼を置くに尽きるということです。日常生活で、神への信頼が感情よりも大きくなると、人生への反応が変わります。どんなに困難な状況でも、神の未来への約束に希望を持つことができます。それは、人生が楽になったり、自分や他の人が経験するかもしれない苦痛を実際に減らしません。しかし、最も困難な時でさえ、希望

があるということです。パウロはさらにこう言います：

- それだけではなく、苦難さえも喜んでい
- ます。それは、苦難が忍耐を生み出し、
- 忍耐が練られた品性を生み出し、練られ
- た品性が希望を生み出すと、私たちは
- 知っているからです。
- この希望は失望に終わることがありませ
- ン。なぜなら、私たちに与えられた聖霊
- によって、神の愛が私たちの心に注がれ
- ているからです。

ローマ 5:3-5

これは、単なるポジティブシンキングではありません。あらゆる状況で神に信頼するのを学ぶことです。特に最初は神が不在、または無関心だと思えるかもしれません。神は確実に常に私たちと共にいて、経験するあらゆる状況で、私たち以上に深く関わってくれます！

どんな状況でも喜びを感じられるローマ5章の考え方を維持するためのアウトラインを紹介します：

- 悪いことは起こるし、困難な時期もある。
- 神の助けを借りて嵐に耐え、そこから学ぶ。
- 人格的に成長し、イエスのようになる。
- 完璧な天国への確信を高める。
- 天国を他の人々と分かち合い、彼らも永遠の喜びを知れるために生きている。
- かつて問題の一部だった私たちが、痛みを解決する一員になる。

話し合う：ローマ5章の概要を、あなたの人生での体験と関連づけることができますか？

希望と喜びは、私たちの状況ではなく、イエスにあります。すべてはイエスに始まり、イエスに終わるのです。これに気づくと、それが人生を変え、ひいては、私たち自身の心、気持ち、態度の変化を目にする周りの人々にも影響を与えます。

喜びは、神の優しさとイエスにある希望の良い知らせを、私たちの唇と生活で宣べ伝えるときに働きます。人生と同じく、伝道にも困難がありますが、福音の喜びは、進み続けるための十分な力となります。

ディスカッション [15分]

1. どうすれば、世の中に恵みと優しさを現すことができますか？
2. 今日、天国を地上にもたらすとはどういうことだと思いますか？
3. イエスと一緒に生活がいかに優れているかを説明するとき、証しの中で喜びはどんな役割を果たしますか？

- ここに、クリスチャンの行動に遠大な影響を与える重要な違いがあります。現代のクリスチャンの行いは、それがどんな
- 取るに足らないものに見えても、この世の成功を重んじる人々には「むなし
- い」ものに見えても、すでに神の進む王国の中に組み込まれている。

フラミング・ラットレッジ

適用 [5分]

自分の個人的な証しを見返します。神があなたの中で働いていることを示す物語の中核として、主の喜びをどのように語り、表現しているかを考えます。証の中で、救われる前と後のあなたの様子がそれぞれ、どのくらい説明されていますか？証の中で、最も栄光を受

けるのは誰ですか？過去のあなた、あなた自身、それともあなたの王ですか？

祈り

「父なる神様、あなたから受けた恵みに、とても謙虚にさせられます。今まであなたの恵みを当然だと思っていたなら、今、私たちを赦してください。周りの世界にあなたの恵みを現すことができるように、あなたの霊に求めます。主イエス様、あなたの死と復活によって、未来への希望と、今日、心の中に永遠の喜びを持つことができることを感謝します。あなたの喜びが私たちの力となり、私たちの存在と行動の全てに影響を与えますように。アーメン」

アカウントビリティ [25分]

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈る。

メモ



セッション8

敵からの挑戦

-誘惑と非難

このセッションでは、世間や敵からの誘惑と、信仰をくじき、信頼を失い、破壊しようと敵が投げかける非難の挑戦を学びます。聖なる使者として福音を世界に伝えるため、どのように忠実に誘惑を乗り越え、非難を退けることができるでしょうか。

セッションのまとめ

悪魔は信仰を破壊し、証人としての確信を失墜させようとしています。しかし、敵からの挑戦と自分の弱さに打ち勝つ天の力を得ている私たちは神にあって、すでに勝利者です。

セッションの背景

サタンという名前は、ヘブライ語で告発者または敵対者を意味する単語の音訳です。サタンの告発には、主に2つの形があります。人を操る嘘と非難(断罪)する真実です。

サタンは、嘘を通して、私たちの真理に対する理解を操作しようとしています。サタンは、しばしば私たちの感情を攻撃し、神を知っている安心感を、疑いや不信感という不安定な土台にすり替えようとしています。祈りがすぐに、あるいは明白に答えられなかった時のことを考えてみてください：サタンは、耳元で、「あなたの祈りが答えられないのは、神が信頼できないからだ」「神は本当はそこにいないよ」とささやきます。

サタンはまた、私たちの失敗の真実を突きつけ有罪(有責)にしようとしています。サタンは、私たちが神の完全な基準に達していないことを指摘し、非難します。私たちの視界を恥で曇らせ、失敗の中にある神の恵みを見えなくすることで、私たちを操ります。サタンは、キリスト・イエスにある者は非難されないことを忘れさせようとしています(ローマ8:1)。

「赦しのプロジェクト」の著者、マリーナ・カンタクジーノは、何百もの赦しの物語に接し、赦しが正確にはどんなものか特定するのは難しいと指摘し、こう書いています、

- ...私が確実に知っている唯一のことは、
- 許すという行為が流動的で能動的で、
- 朝起きたときの気分や、日中に遭遇する
- きっかけで、日ごと、時間ごとに変化する
- ものです。

● マリーナ・カンタクジーノ「赦しのプロジェクト」

サタンは、複雑な人間の許しの経験を弄ぶのが好きです。サタンは私たちに、神の赦しも人間の許しと同じように流動的で突発的で、揺れ動く感情に左右されると信じ込ませたいのです。しかし、これは真実ではありません。神は、恵みを心から求めるすべての人を誠実に赦します(1ヨハネ1:9)。私たちの赦しは、神の完全な赦しから流れ出るものです。

- 赦しは魂を解放し、恐怖を取り除く。だからこそ、強力な武器です。

● ネルソン・マンデラ

赦しには力があります。その最大の力は、まず最初に神から受けた赦しと恵みを現すことです。イエスは、もし私たちが人を赦さないなら、自分も赦されていないことに気づくと明言します(マタイ18:21-35)。赦された人は人を赦します。

信仰を盗み、破壊しようとする強力な敵に直面しています。ありがたいことに、私たちは、愛の中に留まらせようとする全能の創造王に仕えていて、サタンの非難や策略に立ち向かうために必要なものをすべて与えられています。

私たちは、神のみことばの力強く不変の真理を通して、サタンの嘘をはねつけます。神様の赦しの誠実さによって、サタンの恥ずべき企みをはねのけます。そして、私たちの内におられる方が、この世を君臨する者よりも偉大なことを喜びます(1ヨハネ4:4)。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間を取り、出来事や機会に関する振り返りなど、グループの励ましになることを共有します。小グループの場合は、前ミーティング以降の勝利と苦難を1人ずつ共有してもらいます。大きなグループの場合は、4~5人に前ミーティング以降の具体的な証しを話してもらいます。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学びとディスカッション [60分]

今回の学びは、全体的にディスカッションの時間があります。以下の教材をそのまま読むか、自分なりに工夫して教えます。

- あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。

● 1コリント10:13

神は誘惑しません。誘惑は悪魔の遊び場です(ヤコブ1:13-15)。神は私たちを試されません。それは、神がまだ知らない私たちのことを知るためではなく、その過程を通して私たちが成長し、学ぶためです。悪魔が誘惑を仕掛けてくるとき、悪魔の望みは私たちが必ず失敗することですが、神が私たちを試すとき、神の望みは私たちが必ず成功することです。やり方も動機も違うのです。戦いの半分は、自分が戦いの中にいると自覚すること。もう半分は、どう対応するかです。パウロはコリント人への手紙の中で、誘惑に対する対処法と克服する希望は、神ご自身に根ざすことだと思ひ起こさせます。

人生における3つの主要な誘惑、つまり、世、肉、敵との戦いがあります。神は、それらすべてに打ち勝つことができるように、私たちを整え、力を与えてくれます。

世界：対外的な戦い

世界は魅力的な場所であり得ます。世の中には、信仰に反しない、多くの宝物や喜びがあります。同時に、キリストを私たちの生活における正当な地位から引きずりおろそうとするものも多く存在します。その多くは深刻で、私たちを罪深いものへと導きます。しかし、神は私たちが、神が与える生ける水を

たっぷり飲み、イエスを現すよう招きます(ヨハネ4:14)。

肉：内なる戦い

墮落した世界では、墮落した自分の肉との戦いがあります。パウロは、私たちの肉の行いは、不道德、不純、官能、偶像崇拜、魔術、敵意、争い、嫉妬、怒りの爆発、論争、不和、派閥、妬み、泥酔、放蕩などだと言います(ガラテヤ5:19-21)。かなり衝撃的なリストです!

このリストは、今年、私たちが学ぶ御霊の実と対極のものです。パウロは、御霊によって歩むことが、私たち自身の墮落という本物の課題を克服する方法だと教えます。神の霊が私たちの人生を支配するとき、私たちは代わりに愛、喜び、平和、忍耐、親切、善意、誠実、優しさ、自制心を身につけます(ガラテヤ5:22-23)。

話し合う：世からの誘惑、自分の肉からの誘惑の、どんな分野で苦しんでいますか?その領域で、どのように成長したり、勝利したことがありますか?

敵：霊的な戦い

この課では誘惑について、項目ごとに話し合うか、全部読んでから、最後に質問を使ってじっくり話し合うか、どちらかにします。

サタンは私たちの信仰を憎みます。私たちの信仰が、サタンではなく神への礼拝に導くのを憎んでいます。彼は、私たちの信仰を手に入れるためなら、どんなことでもするので。サタンは、私たちの経済、健康、家族、キャリアなど、私たちにに関するもの何でも構わず、自分の本当の望みである私たちの破滅のために、それらすべてを操り、利用します(ヨハネ10:10)。サタンが私たちを攻撃する方法と、私たちが対応できる方法をいくつか紹介します:

サタンは嘘を語りかける - 真理を蓄えよう

悪魔は嘘つきです。悪魔の嘘は、私たちを混乱させ、墮落させ、神が私たちのために持っている人生から引き離し、死へと導くために使います。私たちは、神の言葉という堅固な土台の上に、信仰を築かなければなりません。賢い人は岩の上に家を建てるが、愚かな人は砂の上に家を建てる(マタイ7:24-27)。敵からのすべての非難は、私たちの家をその堅固な土台から不安定な地面に移そうとするもので、襲いかかる嵐が私たちと神との関係を破壊するように仕向けます。

サタンの嘘を見抜き、それに対抗するには、神の言葉の真理を心に蓄える必要があります。聖書を読むことは重要ですが、聖句を暗記することを勧めます。神の真理を心に蓄える選択は、サタンが嘘で私たちを混乱させようとするときに抵抗する強力な方法です(詩篇119:11)。

サタンは孤立につけこむ - 親交を優先させる

イエスが40日間荒野に一人でのを待ってから、サタンがイエスに近づいたのは偶然ではありません(マタイ4:1-11)。私たちが孤立しているときこそ、サタンは最強の攻撃を仕掛けます。イエスは、神のみことばの真理に堅く立つことでサタンを撃退しましたが、私たちも同じようにすることができます。しかし、私たちも孤立しているときには、強く警戒する必要があります。ミニストリーの後に一人にならない方法を見つけ、ただ友人を呼んでおしゃべりする簡単なことでも、敵の孤立攻撃から身を守ることができます。

サタンは恥を煽る - 説明責任を果たし、神の恵みに信頼せよ

悪魔は嘘つきですが、戦略的に混在する真実も用います。悪魔は、私たちを敗北と絶望に陥れるために、私たちの罪と失敗の真実を思い出させます。悪魔は、真実と嘘を組み合わせます。私たちがしてしまったことと、今度こそ私たちには赦しがないという嘘です。彼は罪の真実を手に取り、嘘と操作で私

たちを恥の影に引きずり込み、非難で私たちに衰弱させます。

サタンは、私たちを決して抜け出すことのできない呪いの下に置こうとしますが、罪と恥と死の呪いは、すでにイエスによって処理されました。キリストの血は私たちを洗い清め、命を与えます（ローマ5:9）。非難はもうありません（ローマ8:1）。キリストにある者は、聖霊の賜物を持っています。サタンとは異なり、聖霊が私たちの罪を思い起こさせるのは、私たちに恥をかかせるためではなく、悔い改めを促すためです。私たちは、信頼できる友人を通して、神の御霊従うアカウントビリティを持つべきです。悪魔の言いなりになって、私たちの失敗を暗闇の中に隠すのではなく、希望と癒しをもたらすことができる光の中に、私たちの失敗を入れなければなりません。

サタンは疑いで操る- 福音の恵みを中心とした交わりを求めよ

ユダは信者に、疑う者に憐れみを与えるようにと教えます（ユダ22）。これは、3つのことを教えています：

1. 人生には、時に疑心暗鬼がつきまとう。
2. 疑心暗鬼は最終的に良いものを生まないし、恵みを必要としていない。
3. 愛と謙虚さと恵みをもって、互いを支え、励ますことができる。

サタンが人間が避けられない疑いを使って操ろうとすると、その疑問を一緒に考え、福音の真理に根ざし、祈りを通して愛し合える兄弟姉妹とつながるべきです。疑いそのものは避けられませんが、神の恵みが神の民に働いて、疑いが信仰を押しつぶすことは絶対にありません。

サタンは宝をちらつかせる- 主を喜ばせること

この世と肉の外的・内的な誘惑は、サタンの得意分野です。サタンは、私たちがもっと持つ価値があるのに、なぜそれが無いのかとささやきます。それに耳を傾ければ傾けるほど、キリストでは満たされなくなり、辛く憤り、他人を妬み、利己的で独善的になります。

私たちは何のために生きているのでしょうか。主の御前にいること、主の御前で自分を喜ばせること以外を求めると、サタンが持ちかける世界や肉における幸運や成功に心を奪われる危険性があります。私たちは皆、このような誘惑に直面します。隣の芝生は青く見えるのはよくあることです。神の永遠の王国の完璧な土壌に深く根を張るなら、正しい側に留まるでしょう。深い献身をもって信仰に投資し、キリストが本当に十分だと実感しなければなりません（詩篇1篇）。

サタンは恐れを利用する- 私たちの内に住む方は、この世のものよりも偉大だと知る

私たちは恐れに満ちた世界に生きています。サタンは恐れを利用するのが大好きで、神への不信感を抱かせ、証しが効かなくなるようにします。サタンは、恐れに語りかけるたびに、神の愛を脇に追いやろうとします。愛の反対は憎しみではなく、恐れです。

恐れは平和を奪い、信頼を台無しにし、利己主義を生み、無気力をもたらし、喜びを墮落させ、真実を隠し、死をもたらします。

聖書が「愛には恐れがない。しかし、完全な愛は恐れを追い出す.....」語るの、絶対に永遠に重要です（1ヨハネ4:18）。神は、私たちに恐れる必要はないと言います。恐れのために愛を選ぶことができます。

愛は平和を与え、信頼を築き、無私を生み、情熱に導き、喜びを力づけ、真実を明らかにし、いのちをもたらします。

世界は厄介で複雑です。人間の弱さの中で、間違いなく恐れを経験しますが、恐れに負ける必要はありません。サタンの恐れของเกมをはねのけ、より偉大な方、御霊によって私たちの内に住む方、十字架上で恐れを一身に背負い、いつか私たちが再び恐れることがないようにしてくれた方を信頼することができます。

話し合う：どの分野の非難や誘惑に対処する意図的な準備が必要ですか？

すべての領域において、ペテロが書いた警告に耳を傾けましょう：

- 身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたい獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。
- 1ペテロ 5:8

意識は、敵の攻撃を認識させます。神は、勝利のために立ち向かう力を与えます。

祈りと説明責任 [30分]

このセッションでは、説明責任を果たすための時間を多めにとり、自分が直面している誘惑について正直に話し、互いのために祈ることができます。

霊的な戦いの対処について、以下の記述を祈りながら一緒に考えてみてください：

- 敵が『お前はダメだ』とささやくとき、『イエスにあって私は大丈夫!』と言う。

- 悪魔が、神が私たちに失望させたと思いついて、私たちの信仰は父の変わらぬ揺るぎない誠実さの内にあると答えることができる。

- 敵が過去の失敗を糾弾するとき、イエスが罪を取り去ってくれたと言うことができる。

- 今日の罪を指摘されても、『神様の恵みで十分です』と答えることができる。

- 敵が嘘をつくとき、神の真理の言葉で対応することができる。

- 敵の非難に耐えられなくなったとき、聖霊に助けを求め、クリスチャン・ファミリーとの交わりをめることで、敵に対抗することができる。

- 敵のどんな非難にも、十字架の上ですべてに勝利と力を宣言したイエスに信頼し、私たちの内に永遠の変革をもたらしたイエスの勝利と平和のことは『完了した』と言うことができる。

霊的戦いは、勝利を得ようと頑張ることではなく、神からすでに与えられたものに固く立つことです。

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈る。

適用 [5分]

生活の中のアカウントビリティの役割について、もう一度考えてみてください。あなたは自分の人生を正直に、透明に、そして脆ささえも信頼できる人たちと共有していますか？自分の罪を、主にある他の兄弟姉妹に告白していますか？罪の領域で改善が見えますか？そうでないなら、信頼できる友人数人で説明責任を負い合い、支え合えるか提案してみてください。

- 人生における聖霊の働きによって、現在の**罪の力**から救われています。
- 父なる神の永遠の統治によって、未来の**罪の存在**から救われています。

人生には、神に赦しを求め、新たに恵みを受けるのが必要なときがあります。マルティン・ルターは、「信仰生活全体が悔い改めの一つであるべき」と書きました。悔い改めは、イエスとの関係に入るだけでなく、日々、その関係に留まることを意味します。神は、私たちの罪に心痛めながらも、優しく、忍耐強く接します(IIペテロ3:9)。その慈しみは素晴らしいものです。聖霊が私たちの内に働き(癒しと解放の業)、(誘惑に感情は揺れても)誠実に自分の分を果たすことで、信仰が深まるにつれ、生活の中の罪の領域を根絶したいという願いも大きくなります。

イエスの死と復活に見られる神の恵みは、罪深い性質を覆い、修正し、不完全な被造物である私たちが完全な創造主との真の関係に住むようにするものです。神は、恵みによって、画一的な生き方を強制するのではなく、最初に創造された人生、すなわち真の人生を生きることを可能にします。

もうひとつの恵みの乱用は、自分が受けた同じ恵みを他の人に提供しないことです。これは確かな恵みの乱用です。無償で受けた私たちは無償で与えるべきです(マタイ10:8)。人に恵みを与えられないのは、神に赦され、受け入れられた真理が腑に落ちていないからです。忘れないでください:神は御子の死によって私たちを赦すことを望んでいます。私たちは皆、キリストを十字架にかけた罪の負い目がありますが、神はそれを私たちに負わせず、私たちのために負ってくれます。神に求めれば、神が赦さない、あるいは赦さない罪、反抗、失敗はありません。

神の恵みは私たちに十分です(IIコリント12:9)。それを乱用することなく、自分が受けたのと全く同じ恵みを世に届ける

ことで、謙虚に、喜びをもって生きるべきです--神の慈しみによって、人々が祝福されるように。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、体験談や機会に関する振り返り、その他グループを励ましになることを共有する。グループの誰かに、他のメンバーを励ますためにアカウンタビリティ(説明責任8課-応用)の経験をシェアしてもらえないか尋ねる。

祈り

この時間を主に委ね、この1ヶ月間、グループが福音を伝える機会を得たことを感謝する。機会を通して、イエスに信頼するようになった人々のために祈る。

学び [30-40分]

以下の教材を、そのまま読む、または自分なりに工夫して教えます。

- 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。
- **エペソ4:2-3**

生きていく中で、さまざまなものに信頼を寄せます。

例えば、病気になったときに治療してくれて、健康のためのアドバイスや適切な薬をくれるお医者さん、35,000フィート上空で飛行機に

乗っているときに物理法則やエンジニアの技量に信頼を寄せます。秘密を守ってくれる友人など、より個人的な信頼もあります。

誰でも、自分の信頼が崩れるのは嫌です。しかし、私たち皆、信頼していた人に何らかの形で失望させられたことがあります。

神に全幅の信頼を置くことができます。神は決して私たちに失望させません。すべてを創造した素晴らしい神が、私たち個人に関心を持っているのは、本当に驚くべきことです。私たち一人ひとりを完璧に愛しています。

不安な時、苦しい時、忍耐は真っ先に雲隠れすることがあります。そうなら、あなたの神への信頼はどんなものですか。全能の神への完全に信頼し、みこころに心から従おうとするとき、霊的な忍耐を育てます。イエスとの歩みの中で忍耐する意志を示すとき、真の誠実さ、真の信頼を表現します。

心配、不安、不信、恐怖、イライラ、怒り、これらはすべて完全に忍耐に反するものです。これらが、人生にどれほどダメージを与えるかわかりますか?神のみことばは、一貫してそれらに異議を唱えます。

グループ内で次の聖句を調べ、お互いに読み上げる時間を取ってください。

- ルカ12:22-26 (心配)
- ピリピ4:6-7(不安)
- 箴言3:5 (不信感)
- ヘブル13:6 (恐れ)
- 箴言12:16 (迷惑行為)
- ヤコブ1:19-20 (怒り)

話し合う:どの聖句から、一番チャレンジを受けましたか?この世の問題のどれほどが、この中に分類されますか?

ヨブは、聖書の中で最も誤解されている書物です。ヨブは、誠実な神の礼拝者だったのに、信じられないほどの損失と個人的な苦難に見舞われます。ヨブは試練の間、災難を神に呪うことを拒みますが、大きな疑問を持ちます。みんなも苦しみのときにしたことのある質問です:

「なぜですか?」「なんで?」「どうして?」

神は簡単には答えず、むしろヨブに問いかけます。空に星が散りばめられたとき、世界が誕生したとき、あなたはそこにいたのか?と。神はヨブに、人間は創造されたもので、自身が創造主だと思いきこさせます。ヨブは、世界がどんな困難に直面しても、星を散りばめた神が支配している真理を再確認したとたん、明白になりました。神は善であり、その民を愛していると(ヨブ記38-41)。

人生の浮き沈みを忍耐強く乗り越えようとするならば、この現実を受け入れなければなりません。ヨブへの神の答えは、美しく穏やかな叱責です。神は、ヨブに考えを改める機会を与えただけです。

ヨブ記は苦難の物語ではなく、忠実と服従の物語です。ヨブは、困難の中で、難題と格闘しながらも、神への明け渡しの地点を見出しました。

問いに、解答はありませんでしたが、明け渡したヨブは平安を取り戻しました。自分が求めるすべての答えを得なくても、満足しようとするのがどれほどありますか。

ヨブは、たとえ心が痛むような困難な時期が訪れても、神への信頼と神の権威への従順が、忍耐を可能にし、備えることを教えます。私たちは耐えることができます。人生が思い通りにならなくても、すぐに怒らず、すぐに神を拒絶しない、霊的に忍耐強い人間になれる。神様の視野は私たちのよりも大きいと認識できる人間になれる。結局のところ

ろ、空に星が散りばめられたとき、神はそこにいて、私たちはいませんでした。

このような観点から、ヨブは、ローマ12:12でパウロが教えるように、「確信に満ちた希望に喜び、困難にも耐え忍ぶ」ことができました。

同じ節でパウロは、祈り続けるように教えます。この祈りは、神の穏やかで慈愛に満ちた視点をリセットして世界に伝える方向に進むために欠かせない忍耐のピースです。祈りはしばしば展望をもたらします。それは、自分の考えや感情を順序立てて明確にし、神に語りかけることで起こることもあります。それ以上に、神が祈りの中で私たちと出会うことでもたらされることが多いのです。神が私たちの声に耳を傾け、その応答が常に正しいと確信することができます。

また、祈りが自分だけに向けられるものではないことも重要です。ヨブの物語は、見落としがちな些細なことで終わります。神はヨブに友のために祈るように言いました。ヨブは素直に友人たちのために祈り、その結果、ヨブの運命は回復したと聖書は伝えています。

なんと驚くべき内容でしょう。神はヨブに（そして私たちにも）、忍耐と従順が両立すること、つまり、心が壊れても、他人に失望されても、人生の明瞭化を待つにも、他人へのおもいやりを選ぶことが、神からの豊かな祝福をもたらすと明らかにしています。

神の新しい家族の祝福は、最初の家族を失ったヨブの苦しみをすべて取り除いたでしょうか。そうではありません。ヨブは一生悲しみを背負い続けたことでしょう。人生は、しばしば私たちが養えさせます。しかし、希望がないわけではありません。ヨブには、何が奪われても、神は新しいものをもたらしてくださいと希望が与えられている。ある日、私たちの経験の痛みは永遠に癒され、善良さは完全に回復します。天国では、足を引きずることはありません。

霊的な忍耐が人生を変えるのを経験すると、私たちは世界が切実に必要としている思いやりのある優しい教会になることができます。忍耐強く神を信頼することで、壁が打ち破られるのを待ちながら、世に出て行き、他の人々に突破口を与える神を伝えることができます。

話し合う:なぜ忍耐の霊的な実が、神の優しさと慈愛を世に明らかにすることと密接な関係がありますか？

イエスの「善きサマリア人」のたとえで、ユダヤ人が盗賊に殴られ、道端に放置され瀕死でした。ユダヤ人とサマリア人は敵対していたにもかかわらず、サマリア人はユダヤ人を助けようとして、なぜサマリア人はユダヤ人を助けたのでしょうか？

● ところが、旅をしていた一人のサマリア人は、その人のところに来ると、見てかわいそうに思った。

● ルカ10:33 (NLT)

霊的な思いやりは、どんな障壁も乗り越えることができるほど強いものです。もし、明らかに困窮する人たちに対して行う慈善行為が思いやりだと捉えているなら、真の霊的な優しさが人生に根付くことはないでしょう。しかし、人生のあらゆる場面で、個人的に出会った人たちや、遠くから影響を与えることのできる人たちに対して、思いやりと憐れみをもって「いる」ことが、イエスの真の信者の真の基準です。

御霊の力によって、神は私たちがこの世にいる限り、優しさ、慈しみ、憐れみを示すのに必要な道具を与えたいと願っています。忍耐強く耐えるとき、隣人を愛し、神の恵みの優しさを世に明らかにする力が与えられます。

召命は明確です。

● 「この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか？」
● 彼は言った。「その人にあわれみ深い行いをした人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」

● ルカ10:36-37 (NLT)

ディスカッション [15分]

1. 忍耐する鍵は、神に信頼することなら、どうすればもっと神を信頼できるようになりますか？
2. 人生のどんなことで忍耐を失いますか？
3. 伝道における思いやり（優しさ）とはどのようなものですか？

● では、問題に対してどうすればいいですか。神が問題から解放してくれるまで、問題と共に生きることを学ばなければなりません。つぶやくことなく耐えることができるように恵みを祈り求めなければなりません。忍耐強く耐え忍ぶ問題は、私たちの霊的完成のために働きます。問題は、私たちがそれに抵抗したり、不本意に耐えたりするときのみ、私たちを害するのです。

● A.W. トゥーザー

適用 [5分]

セッションの背景にある「罰、力、存在」の3点を、今後1ヶ月間の祈りの焦点にします。今後数週間の福音の会話の中で、この3点をどのように表現するか考慮します。

- 私たちは、イエスの十字架の業によって、過去の**罪の罰**から救われています。

- 私たちは、私たちの人生にある聖霊の働きによって、現在の**罪の力**から救われています。

- 私たちは、父なる神の永遠の支配と来るべき王国によって、未来の**罪の存在**から救われています。

祈り

「父なる神様、あなたに全幅の信頼を置くことができるように助けてください。あなたは決して私たちに失望させないことを感謝します。私たちが忍耐の模範を示し、あなたが信頼できる希望だと明らかにすることで、世界に変化をもたらすことができるように助けてください。人生の最も困難な時に、耐え忍び、イエスに目を向けるようにあなたの霊が助けてください。私たちの生活が父なる神の優しさを反映させることで、人々がその慈愛を知りますように。アーメン」

アカウントビリティ [15分]

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、互いのために祈る。



セッション10

家族からの挑戦

-交わりと煩わしさ

このセッションでは、教会から直面し得る伝道への挑戦について考えます。多様なコミュニティの中で、すべての人が伝道への情熱を共有できるわけではありません。そんなときどうしたらいいですか。どうすれば兄弟姉妹を励まし、たとえ巡回伝道をしていても、地域社会との交わりを維持できますか。

セッションのまとめ

教会家族が伝道への情熱を共有できないとき、交わりを断つのを選ばず、福音を世に伝えるため、愛をもって互いに備え、肯定し合い、教会家族を励ますべきです。

セッションの背景

独房は、世界中の刑務所で起用されている、特に不快な刑罰です。

このような隔離の影響は広範囲に渡って研究されていて、その過酷さが証明されています。短期間の孤独でも、不安、ストレス、抑うつ、怒り、パニック発作、暴発、精神病、パラノイア、幻覚、記憶障害、自傷行為、自殺の危険性が高まります。

この調査結果に驚いてはいけません。独房は、人間関係、共同体、交わりのために創られた人間のあり方を否定するものです。こ

れらから孤立して、良い結果は決してありません。

人類の歴史上、コミュニティは常に生存に不可欠なものでした。部族社会では、狩猟や脅威との戦い、採食や調理、教育、医療、リーダーシップなど、誰もが明確な役割を担っています。しかし、先進国に住む私たちにとってのコミュニティは、個のアイデンティティを探すものになりました：私はどこに属していて、ありのままの自分が受け入れられる場所はどこか？

インターネットは、人々が自分の所属を見つけることを可能にしました。ポップスターやテレビ番組のファングループ、性的指向、趣味や能力、政治的、道徳的、宗教的世界観、ナマケモノファンのためのオンラインコミュニティなど、よく探せば仲間を見つけることができます。しかし、こうしたコミュニティには固有の問題があります。それは、コミュニティを商品として扱う文化が形成され、私たちがコミュニティで活躍するのではなく、コミュニティの消費者となる可能性があることです。コミュニティが自分に与えてくれる価値に基づいてコミュニティを選び、それが嫌になったら別のコミュニティを探しに去っていくなら、コミュニティは独りよがりになってしまいます。

孤立し、孤独で、過小評価されていると感じているので、価値を見出せるコミュニティを

探す人がたくさんいます。私たちは、創造主との関係を通してそれらすべてを知ることができるように創造されたので、アイデンティティ、意味、目的の探求は強力です。神の共同体から離れると、私たちは断絶を経験し、独房に入れられた囚人と同じ問題に直面することになります。

教会は、究極の共同体、すなわち、父、子、霊である神ご自身の完全で永遠の共同体を表しています。しかし、人間で構成されている教会は完璧ではありません。私たちは間違いを犯し、時には教会の共同体は、この世の他の壊れた共同体と同じように孤立し、痛みを伴うことがあります。しかし、不完全さの中にも希望があります。教会とは、単に共通の関心事に集う人々の集団ではなく、神が世にご自身を現すための計画だと思いつくとき、希望が生まれます。それを私たちがなく、神のこととするなら、私たちの不完全さを通してさえ、神の完全さが明らかにされるという希望があります。

- 孤独は絶望とさらなる孤立を生むが、一体感は楽観と創造性を高める。人々が互いに属していると感じるとき、その生活はより強く、より豊かで、より喜びに満ちたものになるのです。
- ヴィヴェック・ムルシー、米国外科医長

これは、どのような共同体においても強力な現実ですが、神の共同体において最も真の姿と希望を見出すことができます。私たちは互いに属しているだけでなく、イエスに属しています。私たちの共同体は、私たちがなくイエスのものなので、より強く、より豊かで、より喜びに満ちています。

真に教会となると、真にキリストにあることを意味します。神の家族の一員となる洗礼を受け、一つの体、多くの部分を持つ一つの共同体となります(1コリント12:12-13)。イエスに従うということは、全体(神の栄光全体)の利益のためにそれぞれが奉仕し、役割を果たす多様な共同体に加わるというこ

とです。クリスチャンは一人の時間を過ごすべきですが(例えば、ディボーションのために独りになる)、孤立して生きることはできません。教会という共同体から、父、子、聖霊という完全な共同体を垣間見ることができます。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、出来事や機会に関する振り返りなど、グループの励みになることを共有する。前回のセッションを踏まえて、この1ヶ月の間に生じた機会や、そこから得た励みや課題などを共有する。

祈り

この時間を主に委ね、この1ヶ月にグループが福音を伝える機会を得たことを感謝する。機会を通して、イエスに信頼を置くようになった人々のために祈る。

学び [45-50分]

以下の教材をそのまま読むか、自分なりに工夫して教えます。

- 約束してくださった方は真実な方ですか、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。
- また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。
- ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。
- **ヘブル10:23-25**

伝道者、あるいは伝道熱心な人は、教会のコミュニティで時に一匹狼にみられます。

教会の中のことよりも、教会の外で起こることに関心がある、コミュニティの異端児かもしれない。ある伝道者は地域教会の交わりから完全に遠ざかって、良く言えば、多忙(理想的ではない)、悪く言えば、教会に対する継続的な不満から自己追放の(許容されない)状態です。どちらも健全ではなく、伝道者の召命の主な目的の、伝道のため教会を舵取りし、備えること(エペソ4:11-12)を果たしません。

ヘブル人への手紙の著者は、共に会うことをあきらめないようにと信仰を促します。この言葉は、会うことを放棄するなどということだと強く読み取れます。どんな不満があっても、日常的な務めが負担になっても、私たちが励まされ、教会家族を励ますように、交わりの場を確保しなければなりません。どんな理由でも、教会を見限ってはなりません。

話し合う:フルタイムの伝道者としての召しを感じているか、日々の生活で忠実に福音の証しをしたいかにかかわらず、あなたと地域教会との関係、個人的な関わり方はどうですか?

ヘブル人への手紙の著者は、互いに神の愛を実行し、生きる助けができる方法を考えるように、つまり関心を持つように求めています。神の福音に植えられ、世界に福音を植える者となるべきです。地域の教会コミュニティに深く関り、説明責任を果たす弟子のモデルとなるべきです。

時に私たちが直面する問題は、教会から切り離されることより、教会の中で意気消沈することです。使徒の働き1章で、イエスが弟子たちに最後の指示を与えたとき、つまりペンテコステで聖霊が臨んで教会が誕生する前に、弟子たちは大きな2つのことで、注意が散漫でした。

これから、使徒の働き1章を開き、1~11節と一緒に見ていきます。

- そこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」

使徒 1:6

弟子たちは自分たちが知らないことに気が取られています。イエスは、神だけが知っていることに気が取られてはいけなと、返答しました。

- そしてこう言った。「ガリラヤの人たち、どうして天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。」

使徒 1:11

弟子たちは、起こったこととまだ起こっていないことに気が取られています。イエスが昇天した後、彼らは2人の天使に、何をしているのかと問われます。

あなたや教会は、知らないことに気が取られていることがよくありますか?それぞれ置かれた場所で、今、神にするようにと召されたことに集中しないで、起こったことや、起こるかもしれないことにどのくらい気が取られていますか?

あなたやあなたの教会の家族が、キリストの証人になるのを邪魔するものは何ですか? おそらく

- 良い知らせを伝えるのに、自分は十分な知識がないと思っている
- 神が他の誰かを遣わすのを待っている
- 過去の失敗に気が取られている

- 将来の予定に気を取られている
- 他の情熱やプレッシャーに振り回されている

話し合う: あなたの生活や教会の中で、福音の証しに集中できなくなるものは何ですか？

これらの割り込みは、神が提供する豊かな人生から私たちを引き離すので、邪魔なものです。これらの雑念は、私たちが恐れ、無気力、脱力、無感動へと導き、救いの人生より、逃げに走る存在へ近づける危険性をはらみます。

これらの邪魔な気晴らしを定着させるのではなく、私たちは、物事を揺り動かし、神が私たちに与え、私たちに力を与えてくださる人生へと進むことによって、人生の気晴らしを邪魔する必要があるので。これらの雑念を振り払う鍵は、弟子たちの2つの雑念の間に挟まれています。

- 聖霊があなた方に臨むとき力を受け、あなた方は私の証人となる...
- 使徒 1:8

この章の最初の8節の中で、イエスは4回、聖霊に言及しています。この4つの言及は、神に任されたことから気を逸らすのを防ぎ、教会全体が共に奉仕するための励ましとなる、強力なモデルとして機能します。

1. 指示を受けている

- ...聖霊を通して使徒たちに指示を与えた後、...
- 使徒の働き 1:2

賜物や特別な召命、あるいは他の人がやってくれるのを待つことで足止めされてはいけま

せん！神はすでに、すべての信者が福音の呼びかけに応じるのを待っています。

- 待っている人生を受け入れるために、計画した人生を手放さなければならない。
- ジョゼフ・キャンベル

待つのはやめましょう。行って、人々にイエスのことを伝えなさい！あなたが今いる人生、ミニストリー、状況のどのような分野でも、イエスの証人となりなさい。彼はすでにあなたを召しています（マタイ28:16-20）。聖霊があなたを導き、神の国の大使となる壮大な召命に忠実になるように指示するので、聖霊に耳を傾けてください。

2. 贈り物により恵まれている

- ...父が約束した贈り物を待ちます...
- 使徒の働き1:4

贈り物をもらったら、どんな反応をしますか。「ありがとう」と言います。私たちは聖霊という最高の贈り物を持っています。贈り物を受け取る時、感謝の姿勢をとります。個人としてだけでなく、家族として、神が教会を祝福してくれていることを一緒に祝います。

人生の雑念をかき消すには、感謝することが不可欠です。もし感謝の姿勢で生活するならば、救われた人生や、神が私たちの中で働いてくださる方法に集中することを見失うことはありません。聖書は繰り返し私たちに「思い出せ」と命じています。マタイによるイエスの弟子たちへの最後の忠告でも、この教えが取り上げられています：

- わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。
- マタイ28:20 (NRSV)

3. 私たちは霊によるバプテスマを受ける

- ...聖霊のバプテスマを受けることになり...
- 使徒 1:5

聖霊のバプテスマを受けるということは、神の臨在に服従することを意味します。神の臨在の中に身を置くことで、私たちは変えられるのです。福音書そのものが、「臨在」の究極の物語なのです。

エデンで父の臨在の中を歩き、反逆によって父の臨在を拒否し、命を知るために父の臨在を必要とし、イエスが私たちと共に臨在し、父を現すために来られ、十字架によって父の臨在に入る能力を回復され、聖霊の賜物は、私たちが神の国が到来するときに、すべての時間にわたって完全に神の臨在に入るまで生きられるよう、聖霊が内に臨んでくれます。

私たちは、神の臨在、交わり、愛のうちに私たちが結びつけるキリスト教の共同体の中で、互いに存在します。私たちは、神の存在を知らせることができるように、世の中に存在します。

4. 私たちは力づけられる

- 聖霊があなた方に臨むとき、あなた方は力を受けます...
- 使徒 1:8

他人の賜物、カリスマ、召命に気を取られてはいけません。神は、今いる場所で奉仕するよう私たちをそこに置き、イエスを死者の中からよみがえらせたのと同じ霊が私たちの中に生きています（ローマ8:11）。私たちは、神がキリストにある兄弟姉妹に与えてくださった多様な賜物に気を取られるのではなく、神に感謝すべきです。すべての信者が持っている究極の賜物である聖霊によって、普通の人々が神の並外れた使命のために用いられることを、互いに励まし合ひましょう。

教会は私たちの家族です。私たちは、教会から自分を切り離したり、見放したりせず、また、教会の中で証しする気が削がれないようにしましょう。むしろ、忠実な交わりを通して、互いに祝福し合い、世を愛することを励まし合ひましょう。御父の愛によって神の家族のもとに帰れることを世界の人々が知ることができるように、御霊の力によって私たちのうちに福音が生き、宣べ伝えられるようにしましょう。

そして、働きは急務だと偉大な宣教師エイミー・カーマイケルが思い起こさせます：

- 私たちは勝利を祝うための時間は永遠にあるが、勝利を得るためにはわずかな短い時間しかない。

ディスカッション [15分]

1. なぜ、信者にとって地域教会との関わりは必須なのですか？
2. 健全かつ積極的に教会家族を伝道に、励ますにはどうしたらよいですか？
3. 教会は世界に向けた福音発信に、どんな位置を占めていますか？

適用 [5分]

今度の日曜日は教会に行くこと。指導者に対して自分の責任を果たす。賜物を超えて仕えてみる - 説教者は、駐車場当番を手伝う、賛美奉仕者も軽食を提供する等。できる限りの方法で伝道を励ます。重荷ではなく、祝福になるように努力する。教会生活の中で謙虚になり、兄弟姉妹との交わりを大切にしましょう。

まだアドバンス・グループを立ち上げていない方は、教会の指導者に相談し、教会の伝道活動を励ます方法として、教会内でグループ立ち上げができないか確認してみてください。

たにします - 神の愛は、私たちをもっとイエスのようにします。

ヨハネ15章で、イエスの愛が2つ大きな特徴ではっきり認識できます。

第一に、イエスの父への愛は、父への従順さに現れています。イエスのように愛するとは、天の父の臨在に宿り、父を知ること、忠実に、従順に愛することです。

第二に、イエスの私たちへの愛は、私たちの身代わりとなったことで明らかにされています。イエスは、「友のために命を捨てること以上に大きな愛はない」と言います。イエスのように愛するとは、感情で愛する以上に、行動で愛することです。私たちは、復活の真の喜びを知りながら、犠牲を払い愛します。

イエスが愛について語る時、より良い人生を送るための良いアドバイスを提供するものではありません。イエスは、神の愛によって実現される人生を手に入れる方法を告げ、ご自分が愛することでその方法を実現します。

この愛の告知で、イエスは伝道の動機を思い出させます。

伝道は、神の偉大な使命に従うことだけを指すものではありません。神からの好意を勝ち取るためでも、他の人々の前で見栄を張るためでもありません。伝道は私たちができる最も愛に満ちたことだからです。

人々が神との愛の関係に入れられるように、どのようにこの愛を世界に届けますか。神がどんな方で、何をされたのかを人々が明確にするには、私たちの言葉が重要だと知っています（ローマ10:14、17）。また、行動で愛するのをイエスが求めているのも知っています（1ヨハネ3:16-18）。この二つの現実を念頭に、第1ヨハネにある神の愛の説明の要約と、伝道の意味について考えてみます（1ヨハネ4:7-21）：

- 愛は神から来ます、神は愛だから。
- 神の愛を得るために私たちは何もしていない。
- 神の愛は、イエス・キリストを通して世界に明らかにされる。
- 愛さない者は、神を知らない。
- 私たちは互いに愛し合わなければならない、神はこの愛を通して啓示される。
- 御霊は私たちに愛する力を与え、御霊が私たちと共にいるという確信を与えてくれる。
- 神が最初に私たちを愛したからこそ、私たちは愛する。

話し合う：これらの事柄は、あなたの伝道をどのように形成しますか？

「愛が世界を動かす」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。愛は良い力で、冷たく残酷な世界で私たちを進歩させ、繁栄させるものだ、という感覚です。しかし、実際は感覚よりも優れています。愛が世界を動かすのは、世界を動かした方が愛だからです。その愛の中に、私たちは意味とアイデンティティと希望を見出します。その愛の中で、真の愛を世界に届けます。愛は伝道に力を与えます。なぜなら、伝道は、私たちの唇と生活で愛のメッセージを伝える愛の行為だからです。

愛があるからこそ、福音が世界中に伝わる。

ディスカッション [15分]

1. 真の愛をどう表現しますか？
2. なぜ、福音を伝えることが、世界で最も愛に満ちたことなのか？
3. なぜ、愛が私たちの伝道の動機になるのでしょうか？

- 二つにことが私たちに神ご自身を愛させる：これより意義あるものはない、これより有益なものはない。

● クレルヴォーの聖ベルナルド

適用 [5分]

今月は、詩篇136篇を思い巡らしてみてください。詩篇の作者は、神への感謝を表し、神が誰で、何をするかを宣言しています。自分のデボーションで、これと同じようにするにはどうしたらよいですか。これはあなたの証しにどう反映されますか？

祈り

「父なる神様、私たちの罪のために息子イエスを遣わして死なせたほど、私たちを愛してくれたことを感謝します。あなたの愛が私の人生を変え、他の人々が私を通してあなたを見ることできるようにしてください。あなたの愛を世に示し、彼らが真理を知りますように。アーメン」

アカウントビリティ [15分]

アカウントビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、お互いのために祈りましょう。

忘れないで

もしあなたが、自分の人生の1年間を、福音への理解とそれを世界に伝える能力の成長のために捧げたいと思うなら、メッセージ伝道学校への応募を検討してください。メッセージ・トラストは、The Global Network of Evangelistsと共同で、英国マンチェスターを拠点に、伝道の理論と実践に関する10ヶ月間のコースを提供しています。詳細は、message.org.uk/MSEでご確認ください。



セッション12

リトリート

アドバンスの各年度のクライマックスは、リトリートです。どのようにするかはあなた次第ですが、ここでは、アドバンスグループミーティングの一般的な原則に沿った過ごし方とアドバンスをより良くし、集中して2年目を終わらせるための提案を紹介します。

アドバンス・グループ・リトリートのやり方

大まかなアイデアは、非日常の場でいつもより時間をとりアドバンス・グループセッションをします。午前、午後、夕方のどれかしか時間が取れない場合は、時間の許す限りでよいですが、丸一日リトリートはとても効果的です。

ここでは、リトリートに組み込むアイデアを挙げます。

鍵となるみことば

リトリート中、一緒に過ごす時間で、特定のことにフォーカスしたいなら、II テモテの聖句は鍵のみことばに有効です：

● 神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。

II テモテ4:1-5

この箇所では、伝道で直面する課題に忍耐するための12のヒントを提示します：

1. 伝道は神の臨在と権威の中で達成される（「神、キリスト・イエスの御前で」）。
2. 神が審判、世間ではない（「生きている人と死んだ人を裁くのは誰か」）。
3. 働きは急務である（「現われとその御国」）。
4. 遣わされている（「命じます」）。

5. 自分の考えではなく、みこばを宣べ伝える（「みこばを宣べ伝えなさい」）。
6. 日々の奉仕のために準備する（「時が良くても悪くても」）。
7. 励ましと挑戦のバランスをとる（「責め、戒め、勧め」）。
8. 謙遜は必須（「忍耐の限りを尽くし」）。
9. 神の言葉を知り、信頼する（「人々は健全な教えに耐えられなくなり」）。
10. しきたりや流行に迎合しない（「作り話にそれて行く」）。
11. 視野を広く、献身を優先する（「どんな場合にも謹んで」）。
12. あきらめずに続ける（「苦難に耐える」）。

この箇所からどのように一緒に、または一人で（下記参照）学び、これらのポイントを引き出し、議論するかは、あなたがリトリートの時間をどのように運営するかによって、全く自由です。しかし、以下に提案する活動を見て、この箇所とこれらのポイントを心に留めておいてください。

みこば

アドバンスグループの主な目的は、神のみこばに献身する伝道者として互いの成長を助けることです。リトリートの時間は、神のみこばをより深く知る絶好の機会です。

延長して聖書を読む（ひとりで読む）

神のことばとゆっくり過ごす時間は、決して無駄にはなりません。IIテモテ2章は、上記のIIテモテ4章の学び以外で、一緒の時間の焦点になるかもしれません。この手紙は、パウロからテモテへの伝道者の仕事と挑戦に関する指示が書かれています。ジョン・ストットは、この書物の4つの部分からなる概観を

提案し、これは良い議論や学習の焦点となるでしょう：

- 第1章 伝道者、福音を守る（1:14）
- 第2章 伝道者、福音のために苦しむ(2:3,8,9)
- 第3章 伝道者、福音を続ける（3:13-14）
- 第4章 伝道者、福音を伝える（4:1-2）

また、マルコの福音書や新約聖書の手紙の一冊を一人でじっくりと読むのも、その本の内容を十分に理解するのに良い方法です。短い本なら、何度も読み直し、その都度祈り、振り返り、メモをとり、また読み直すのはどうですか。全員が同じものを読んでも良いし、いくつかの異なる選択肢を用意し、読書と黙想の時間について人々が共有することもできます。

バイブルスタディ（グループで読む）

リトリートと一緒に聖書の勉強を進める方法はいくつもあります。アドバンス・グループ・セッションで学んだ重要な箇所をもう一度学びたいと思うかもしれません。あるいは、リトリートの特定の箇所やテーマに導かれるかもしれません。ただし、これまでと同様、お互いを伝道者として成長させることに重点を置いてください。

祈り

リトリート期間中、祈りのために特別に時間を確保する。特定のことに焦点を当てた祈り、聖書を通しての祈り、自発的な祈りの時間を計画する。次の3つに焦点を当てるのがお奨めです。

互いのために祈る

一緒に過ごす時間の優先順位として、互いのために祈ることを忘れないようにします。神に感謝していること、神の備えや突破口を必要としていることを1つずつ話してもらいましょう。具体的に正直に祈り求めるように促し、急かさず、お互いのために心から時間を捧げるようにします。この時間に生じた言葉や励ましを必ずメモに残しておくこと。

地域と世界のために祈る

自分の住んでいる地域と、世界的な福音の広がりのために、時間をかけて祈りましょう。地元や世界の状況特定のことに関心があれば、そのために祈ります。個人、教会、ミニストリー、宣教師、ニュースから得た情報を取り上げます。

アドバンスの旅路のために

このグループでの旅を感謝し、個人的な成長、実りや救いの物語を振り返る。主が始めたあなたの中の働きの継続と、栄光が増し主の姿に変えられるよう、祈り求めます（IIコリント3:17-18を通して祈ることもできます）。

ワーシップ（礼拝）

神のみこばに触れる時間、祈り、交わりはすべて礼拝の一部です。会衆として、歌やその他のクリエイティブな表現方法で神を慕い求め、献身を現すことも礼拝です。

特別賛美集会

音楽の賜物がある人を招いて、賛美礼拝のリードをしてもらいましょう。ネット上に素晴らしい会衆賛美のアプリや動画があり、多くは無料で利用できます。お気に入りのワーシップソングをYouTubeで検索すると、歌詞付きバージョンが表示されるので、それを再生して皆と一緒に歌うとよいでしょう。神の民が一つになって歌い、神の栄光を宣言することは力があります。

証と賛美

今年、神があなたの人生にどのように働かれたか、成長、突破口、伝道の機会、実りの物語を分かち合う時間を持つ。それぞれの証の後、祈りや歌など、グループに合った方法で神を賛美し、神がどんな方で、何をしてくださったか、何をしているかを感謝する時間を持つ。

任命式

もう一つの方法は、神に召され、力を与えられた伝道の仕事を、神の前で互いに委託し合うことです。アドバンスグループの2年目の節目にこれを再認識することで励みと確認になります。神の救いを世に知らせ、神の栄光を現わせることに感謝し、互いに祈り合います。

1年間の振り返り

192ページにある用紙を使い、質問事項を振り返り、用紙に記入し、与えられた答えを祈る時間を作ります。自分の成長を振り返るのに、昨年の用紙を見返してもよいでしょう。これは、個人でもグループでも可能です。

フェロシップ

共に集うことで、互いへの友情と信頼を深めます。アドバンス・グループでの交流が、個々の祝福であったことを願います。リトリートでは、続けて責任と楽しみを抱負し合います。

アカウントビリティー

説明責任は、これまでの全セッションの中核をなしてきました。今年最後のこのセッションでも、聖く謙虚に生きようと皆で再確認してください。

断食・絶食

リトリートの一環に断食の期間を設ける、食事中心の時間を設ける、みんなで話し合う場を設ける、正解、不正解はありません。重要なのは、リトリートと一緒に良い時間を過ごすという目標の達成です。

アクティビティ

自然が豊かな場所なら一緒に散歩をし、先に挙げた霊的アクティビティを行うのもよいでしょう。都会にいるなら、一緒にアート

ギャラリーを訪れ、鑑賞し、内省と献身の刺激にすることもできます。

また、レクリエーションやスポーツなど、単純に一緒に楽しむのも良いでしょう。娯楽でも、献身を促すための交わりでも、楽しく交流を深めるものでも、質の高い時間投資にしてください。

次のステップ

アドバンス2年目が終了しました。この1年（とリトリート）を締めくくる前に、現グループの次のステップについて考えます。

現行グループ

アドバンスグループで経験したことをシェアし合う場を設けます。どう成長し、発展してきたか振り返り、この1年で最も大きな学びは何だったかを考えます。将来のために、お互いに励まし合います。

アドバンス・グループ・メンターリング・ガイド3年目を見て、次年度のこのグループの必要と本当に意義のあるものにする方法について考え始めるようにお互い励まし合います。来年度、人々が最も楽しみにしていることは何か、一緒に考えてみます。まだの方は、アドバンスの2年目を感謝し、これからのことを主に委ね祈ります。

この機会に、3年目を始める日程を一緒に決めます。

新しいグループ

今年中に発足した新しいグループの発展について話す時間を作る。拡張は、アドバンス・グループの旅の重要な要素です。新しいグループの立ち上げにサポートが必要な場合は、アドバンスのウェブサイトからご連絡ください。担当のアドバンスアンバサダーが、可能な限りサポートするためご連絡します。

自分が始めたグループについて、みんなの現状を尋ね、その人たちのために祈る。

リトリートの時間をどう過ごすにしても、アドバンスのコアバリューに焦点を当て、グループの歩みを振り返り、これからのことを祈ります。これまでの成長と実りを神に感謝し、これからの人生を神に委ねましょう。

3年目



セッション1 伝道の実践-会話

このセッションでは、企画された宣教イベント、ステージから良い知らせを伝えるだけでなく、あらゆる機会を捉え、実行する重要性を探ります。

セッションのまとめ

伝道の大半は会話の中で起こるので、教会の宣教やイベント、壇上からの伝道だけでなく、神が与えるあらゆる機会に福音を明確に伝える準備をしておく。

セッションの背景

毎日、いろいろな人と会話をします。多くは対面での会話ですが、テクノロジーの進歩により、世界中の人々と多様な方法でリアルタイムで会話できるようになりました。デジタルベースの会話は、同じ部屋で顔を合わせたときのような個人的なつながりはありませんが、友人や見知らぬ人とつながるための当たり前（普通）の、そしてかけがえのない方法となっています。

壇上からの説教で、対話はほぼ不可能です。聞き手の心の中にメッセージが根付くのを望みながら語るだけです。会話には、質問したり、関係構築、そして最も重要なことに相手の話を聞く余地があります。一方、個人発信コンテンツでは、聞き手の関心事をより具体的に、より直接的に語るができます。

福音書では、イエスが大衆に説教するよりも、個人に語りかける場面が多くあります。「何をしてほしいのか」（マルコ10:51）と、イエスがバルティマイに尋ねます。「目が見えるように」というシンプルな答えが、彼のニーズと、イエスに癒しの力があるという彼の信仰を明らかにしています。この対一の出会いの場面には、福音の明確な説明はなく、イエスが求道者の必要を満たし、彼は盲人からイエスへの信者になりました。

聖書の中で唯一「伝道者」の称号を持つピリポでさえ、主の天使から、群衆への伝道の合間にエチオピアの宦官と対一で伝道するように指示されています（使徒8:26-40）。

イエスと最初の伝道者たちは、大勢の人々と個人に良い知らせを伝える準備ができていました。私たちはどうですか？

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間をとり、出来事や機会に関する振り返りなど、グループの励みになることを共有する。少人数のグループの場合は、各

自、前回学んだ葛藤からの1つの勝利と1つの成功をシェアしてもらいます。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [20-30分]

以下の教材を、そのまま読むか、自分なりに工夫して教えます。

そのとき、弟子たちが戻って来て、イエスが女の人と話しておられるのを見て驚いた。だが、「何を求めますか」「なぜ彼女と話しておられるのですか」と言う人はだれもいなかった。彼女は、自分の水がめを置いたまま町へ行き、人々に言った。「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのでしょうか。」そこで、人々は町を出て、イエスのもとにやって来た。

ヨハネ4:27-30

まだクリスチャンではない友人に、自分の信仰について最後に話したのはいつですか？見ず知らずの人はどうですか？多くの説教伝道者は、個人的な証しに苦手意識があります。壇上でマイクを持てば、一日中説教できるので、御霊に促されて喫茶店で見知らぬ人に話すのは、また別の話です。

話し合う:なぜ、ステージから大胆に語れる人が、一対一での伝道に困難を覚えるのでしょうか？あなたは、1対1の対話伝道が得意ですか、それとも苦手ですか？

イエスは一人一人の人生に関心を持っていません。新約聖書では、イエスが群衆に説教するのに時間を費やしただけでなく、伝道の旅先で出会った人々や、意図的に救い主を探し求めた人々と一対一の対話が頻繁にあったと記されています。イエスは、メッセージを聞くように集まって来た群衆にも、イエスを目の敵にした宗教家たちにも、金持ちにも貧しい人も、男性も女性も、病気の人にも健康な人にも、宗教家も無宗教の人も、力と確信を持って同じメッセージを伝えました。

ヨハネ4章に登場するイエスとサマリア人の女性との出会いから、いくつかの重要な教訓を学ぶことができます。

1. 出合いに備える

サマリア人の女性にとって、この出合いは全く予想外の - そして常識外れとも言える - ものでしたが、イエスは彼女と話を準備ができていて、身体的な必要の水を求める会話を始めました。何か些細な必要から、どれだけの会話を始めることができますか。シャワーを直しに来てくれた配管工にどのように話しかけますか。コーヒーを出してくれるバリスタとどう話しますか。難しい病名を宣告するお医者さん？その出合いは「求道者」を驚かせるかもしれませんが、私たちは常に、イエスにある希望を伝える準備しておくべきです。たとえ疲れ果てていても。

2. 個人的かつ積極的に関わる

イエスは、サマリア人の女性に優しさで配慮と思いやりをもって接しました。預言者としての洞察と、基本的な観察と状況認識を通して、彼女の人生の個人的な関心事を見つけ、真摯に会話に参加しました。思いやりをもって真実を明らかにするイエスの会話は、私たちが出会う人々とどのように積極的に対話できるかを示します。

3. よく聴く

私たちが何を信じていて、それが生活にどんな違いをもたらすか、これは矛盾や偽善ではないか？等、人々は常に疑問を抱いています。このような質問を後回しにせず、時間をかけてよく聞き、誠実に答えるべきです。そのためには、イエスがサマリア人の女性にしたように、自分から質問することも必要です。質問は、伝えたいことを受け入れさせるためではなく、語ったことについて考えるように（彼ら自身が何を考えているか）人々を誘います。イエスは伝道において質問を使う名人で、人々に現在の世界観の脆弱性を優しく示しながら、その代わりに真理を提供しました。

4. 誤認識から啓示へ

最初、女はイエスが自分に言ったことを誤解していました（11節）。イエスは、彼女が啓示（言われたことを悟る）の瞬間を経験するまで、辛抱強く待ちました。間違ったり解釈するのは、人間の対話につきものです。慌てず、辛抱強く、自分の伝えたいことが相手に明確になるまで、橋を架け続けなければなりません。私たち皆、この責任があります。頭で理解したことを霊性で認識する真の啓示に変えるのは、神の霊（聖霊）です。

5. 主要なことを主要にする

水を求めたイエスに、女性が常識か懸念を示したとき、イエスが政治や文化の説明をして話が横道にそれてしまうのは簡単なことでした。しかし、イエスは、福音の会話を進めるために、大事なことを大事にしました。会話での伝道では、横道にそれてしまうことが多々ありますが、私たちの目的は（たとえあちこち回り道をしたとしても）、キリストの十字架を会話の中心に据えることです。

6. 話し相手の可能性に気づく

...福音を受け取ると、その証人になります。信仰を持って間もない人たちは、しばしば

最も説得力のある伝道者になります。これは、救われた喜びを決して失ってはならないという挑戦と、私たちが証しする人はすぐにキリストの証人になれるという励ましの両面があります。

全ての人に壇上から説教する機会が与えられているわけではありませんが、私たちは皆、伝道に携わるように召されています。ほとんどの伝道は会話 - 個々の信者が個々の求道者と会話をする - が含まれます。イエスと弟子たちはこのような伝道に力を注ぎました。私たちもそうあるべきです。

ディスカッション [20分]

1. 信仰について人に話すとき、なぜ聴くことが大切なのでしょうか？
2. 相手が友人か初対面かで、会話による伝道はどのように変わりますか？
3. 会話による伝道の機会をより意図的に求めるにはどうしたらよいですか？
4. 会話による伝道が難しいと感じている人を、どのように励まし、サポートすればいいですか？

伝道での私たちの主な苦悩は、方法論ではなく、成熟度です。神への心があるのか、そして神が気にかけている（失われた人々）ことを気にかけているか。もし神の心があるなら、信者でない友人とのすべての会話で、神の王国の目的の前進のためにできる限りのことをしましょう。

ノーマン&デイヴィッド・ガイスラー

適用 [5分]

今週は、日常的な会話の中で、自分の信仰について誰かに話してみましよう。あなたの信

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間を取り、出来事や機会に関する振り返りなど、グループの励みになることを共有します。小グループの場合は、前回のミーティング以降の勝利と苦難を1人ずつ共有してもらいます。大きなグループの場合は、4~5人に前回のミーティング以降の具体的な証しを話してもらいます。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [20-30分]

以下の教材をそのまま読むか、自分なりにアレンジして教えます。

- むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい。

● 1ペテロ3:15

ペテロは、なぜ希望があるのか尋ねるすべての人に答える準備をするようにと言います。まず、福音を明確に説明することができるのはもちろん、さらに質問されたときは、時間をかけて、思慮深く、有意義に答えなければなりません。

通常は、基礎となる哲学的な質問 - 「なぜ私たちはここににいるのか」「私たちはどこから来たのか」「人生の意味は何か」が、最も答えにくいものです。福音はこれら一つひとつ

に解答を持っていますが、直接答えることはあまりありません。それ以上に尋ねられるのは、セクシュアリティやジェンダー、中絶といった問題にキリスト教がどう対応するかの見解です。また、現代の科学的理解に対して、伝統的な信仰の立場を守るよう求められることもあります。例えば、進化論に照らして創世記の創造を擁護するような場合です。また、「善良な神はなぜ苦しみを許すのか」など、神の性質に関する主張を問うものもあります。

話し合う: これまで、どのような難しい信仰の質問をされたことがありますか？ それに答えるための準備はどの程度できていましたか？

弁証論自体はだれも救えないのは良いことです。そうでなければ、救いの責任は私たちの説得力にかかります！ 弁証論理学は、人々が間違った考えから正しい考えへと移行するのを助けることができますが、私たちの証を通して神の呼びかけを聞き、それに応えることで、その人を生かすのは神ご自身です。

まるで目撃証人たちと一緒に通りに立っているようなもので、道の反対側には、キリストの空の十字架があります。道路には甌穴、閉塞、壁、瓦礫、鋭利物等々。十字架は、濃い霧でほとんど見えません。弁証論理学は、道行く人が旅をしやすくするために、瓦礫を掃き、穴を埋め、壁を壊し、障害物を取り除き、霧を晴らしながら、道を進むのを助けることです。私たちは、その人が十字架に近づくのを助けたいと願っています。なぜなら、そこで復活したイエスと出会い、イエスを自分の人生の主と告白することができるからです。弁証論理学は、まだ信じていない人がイエスと出会い、信じるようになるために存在します。

ここでは、弁証論を上手く用いるために考え、取り組むべき4つの事柄を紹介します：

1. 準備の力に身を置く

一部の人たちには弁証論が伝道の中核に成り得るので - 神学、哲学、科学、歴史、時事問題、世界宗教、その他のトピックを勉強し、養われる必要があります。特に語る相手がいかにこれらに関心があると知っているなら、学んでおくのが賢明です。

これは、神と神が世界に啓示した真理への理解を深めることに打ち込む以上に私たちが喜ばせるものはないとも言えます。この意味での準備は、単に世に神について語る準備ではなく、日々効果的に神を礼拝するための準備です。弁証法は、単なる伝道でなく、弟子訓練です。

2. 祈りの力に委ねる

すべての伝道において、祈りは不可欠です。弁証に関しては、語る相手に神がご自身を現して下さるように祈ると同時に、ペテロが教えるように、やさしく、敬意をもって質問に答えることができるように神に祈り求めるべきです。目の前の人には優しく、神には敬意をもって話すのです。

3. 謙虚さの力を知る

傲慢さや好戦的な態度は、ほとんど役に立たず、魅力的な資質ではありません。確信を持って質問に答えることは、謙虚さを窓から投げ捨てることを意味しません。話す相手に対して謙虚であることは、政治的な正しさや礼儀正しい会話の祭壇に自分の信念を犠牲にすることでもありません。謙虚さは、自分がすべてを知っているわけではないことを受け入れる用意があることです。神の道は私たちの道よりも高く（イザヤ55:8-9）、現在の私たちは、鏡の中でぼんやりとしか見ていません（1コリント13:12）と言うだけで、最善の答えが得られることもあります。しかし、神がご自身について明らかにされたことを通して、神の啓示を探求し、その真理について結論を出し、それに従って生き、語ることで、自分の存在を理解することができます。

4. 質問力を生かす

まず、質問は大歓迎と相手に伝えます。嫌がらず喜んで質問に答えることで、特に、彼らにとって意味のあることを質問するのを躊躇したり、恐れたりする人たちと、素晴らしい対話の機会を生み出します。第二に、私たちは自分から質問することを恐れてはいけません。巧みな質問で相手を追い込むのではなく、相手の先入観や考え方の弱点をそっと浮き彫りにします。イエスは、仕えながら質問をする名人で、答えるより質問するのが圧倒的に多かった！

論破されて、神の国に入ったり、イエスに従うようになった人はいません。しかし、穏やかで尊敬に満ちた弁証の対話は、人々が十字架に向かう道を少し先に進むのに役立ちます。

ディスカッション [20分]

1. なぜ、質問を真摯に受け止めることが大事ですか？
2. 弁証論の限界とは？
3. 伝道する際、質問されたことに答える備えができていないと感じますか？
4. 弁証論を学ぶのは、どのように礼拝に成り得ますか？

- 弁証論は資源；現代世界の人々の現実の生活と結びつくかどうかは弁証論次第。
- このつながりがなければ、理論は理論のまま、漠然としたアイデアが宙に浮かぶだけで、人生の現実には根ざない。

● アリスター・マクグラス

適用 [5分]

キリスト教信仰に関する一般的な質問について考える時間をもち、だれかの疑問がキリストの十字架へ導かれる歩みを手助けする方法を探ります。

誰もが大胆に、恐れずにありたい。そうなれたら、誰も逃げないし、皆が走って来るだろう。それなのに、彼らはキリスト自身が言うのを聞かない。「最も小さい一人にしたのは、私にしたのです」と。キリストは最大の戒めについて、「もう一つの戒めは、これと同じように、自分のように隣人を愛しなさい」と述べています。このように、隣人を愛するという戒めは

神を愛するという最大の戒めに等しく、隣人のためにすること、しないことは、神に対しても同じことをするということです。もしあなたがキリストに仕え、キリストを待ち望んでいるのなら、よく考えてみてください、あなたの身近に病気の隣人がいるのです。彼のところに行き、彼に仕えれば、あなたは必ず彼の中にキリストを見出すことができるだろう。

マルティン・ルター

牧師で神学者のディートリッヒ・ボンヘッファーは、1939年6月、ナチス党の危険から逃れるために友人の勧めで祖国ドイツを離れた。

私は、ドイツのキリスト教徒とともに、この国史の困難な時期を生き抜かなければならない。この時代の試練を国民と共有しなければ、戦後のドイツにおけるキリスト教生活の再建に参加する資格はないでしょう。

ディートリッヒ・ボンフェッファー

ボンヘッファーは、危機の最中にしっかりと立ち向かわなければ、危機の後に自分のキリスト教の証しと誠実さが損なわれることを知っていました。しかし、その決断は、彼の命を奪うことになった。ボンヘッファーは、自分が説いた希望を完全に信頼し、イエスに従うことの代償を数え続けながら生きた人物として、歴史的な精査を受けることができる。

歴史上最大の危機である人類の神への反逆に直面し、罪と死の混沌の中に真っ先に飛び込み、その真理を信じるすべての人に平和の希望をもたらした救い主の導きに、歴史上のキリスト教徒は従ってきました(ヨハネ16:33)。そして、イエスは私たちと共に今日の危機の中を走り、私たちはイエスの福音の永遠の平和を世界に提供するために、イエスの力を借りて行くのです(マタイ28:18-20)。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間を取り、出来事や機会に関する振り返りなど、グループを励ますことを共有します。小グループなら、前回のミーティング以降の勝利と苦難を1人ずつ共有します。大きなグループなら、4~5人に前回のミーティング以降の具体的な証しを話してもらいます。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [40-50分]

以下の教材をそのまま読むか、自分なりにアレンジして教えます。

- サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のためにたいへん悲しんだ。
- サウロは家から家に押し入って、教会を荒らし、男も女も引きずり出して、牢に入

- れた。散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。

使徒 8:1-4

危機はいつ訪れるかわからない。自然災害、病気、財政破綻、個人的な悲劇.....起こり得る苦難のリストは枚挙にいとまがありません。危機が訪れると、人々はパニックに陥り、恐怖に支配され、瞬間に希望が失われることがあります。福音が真の希望と平和の源であると信じるなら、危機の時に、どのように対応すれば、その状況を福音の機会とすることができますか。

危機を活用するという発想は、嫌な感じや不適切な印象を与えるかもしれません。しかし、私たちは個人的な利得を得ようと言っているではありません。教会として、王国の利益、神の栄光を得ようとしています。

私たちの生活と行動の中で神が栄光をもたらすとき、世界は完全な現実に近いになります。

私たちが創造され、いつか永遠の王国で完全に知ることになる平和のために(黙示録21:1-7)。私たちは、自分の利益のために日和見主義になるのではなく、神の王国の利益のために機会を求めるのです。言葉と行動の伝道は、希望があることを現すので、あらゆる危機での最も適切な対応です。

ルカが使徒8章に記した大迫害がエルサレムで発生したとき、初代教会は散り散りになって危機に陥った。ルカは、彼らが自己憐憫に浸ったり、隠遁せず、行く先々で福音を宣べ伝えたと記しています。使徒言行録には、使徒たちやステファノ、フィリポのような指導者たちの伝道活動について書かれていますが、この見逃しがちな詳細こそ、危機の時代に対する教会全体の反応を最もよく表していると言えるのではないのでしょうか。季節の変わり目であろうと、季節外れであろうと、教会は

福音の真理への信頼を示すために、福音を宣べ伝えることを優先しなければなりません

歴史上、危機におけるクリスチャンの対応が、イエス・キリストへの信仰を世界がどう受け止めるかに直接影響したことが何度もあります。疫病、飢饉、迫害、戦争、経済危機などを通して、歴史は明確な絵を描いています。クリスチャンが、天国の永遠の希望と聖霊の現在の力に従って、無私の行動をとるのが見られると、イエスへの信仰は急速に広がり、教会は成長しました。

危機の時代に真の福音の希望を提供するには、私たちの品性と行動の両方において意図的であることが必要です。ここでは、危機的な状況の中で、私たちが伝道者の5つの中核的な特徴を具体的に反映させる方法を5つ紹介します。

1. 祈りながらコミットする(祈りの伝道師)
祈りの伝道者であることは、神が信頼に足る方で(詩篇100:5)、私たちの祈りを聞き(1ペテロ3:12)、私たちの苦しみに無関心ではなく(IIコリント1:3-4)、神の栄光のために善を行う力を与えてくれる(エペソ2:10)ことを知ることです。私たちの伝道は、常に祈りのある生活を通して、その力によって行われるべきものです。

私たちは神に語りかけなければなりません。彼の正体を認め、彼が何者であるかを礼拝し、あらゆることで彼に感謝し、彼がどんなときでも善であるという確信を深めるべきです。自分の失敗や恐れを告白することによって、神の赦しを受け、弱さを克服する恵みを受けます。危機の混乱に平和をもたらしてくださいよう願うことで、困っている人々に奉仕し、神はご自身の栄光のために私たちを用いてくれます。

私たちは神の声に耳を傾け、神の知恵と導きとインスピレーションに頼る時間を持ちなが

ら、困難で複雑な状況に取り組み、神の福音をもたらす必要があります。

私たちは、神の使者として、祈りを活動の基盤とし、関わる人々への活動を捧げ物として、**神様とともに動かなければなりません。**

話し合う：現在、どんな危機を自覚していますか？その状況に、また影響を受けている人たちに、どのように祈ればいいですか？(このセッションの後の祈りの時間に、これらの状況について祈ります。)

2. 助け舟を出す(実践型伝道師)

神を信じていない人でも、祈りの申し出を愛と親切の行為として受け取ることができますが、実際の助けがなければ、見せかけに感じます。危機的な状況で、人々は現実的な助けを必要としています。伝道は、福音を言葉で伝えることに依存しますが、私たちの広範な証しは、変えられた生活を送り、キリストの愛と憐れみを周囲の人々に表現することに依存します。愛をもって、イエス自身の必要を満たすようにだれかの必要を満たす、実践的であることを意味します(マタイ25:40)。人々は食料品や薬局で買うものを必要としていますか？家の掃除や庭の手入れ、食事の支度が必要ですか？一緒にいてくれたり、会話をしたり、あるいは、どこかへ同行するのはありがたいことですか？

人々の必要が何かを知る最良の方法は？それは、人々に尋ねることです！自分の思い込みや福音を説明する前に、人々の話を聞く行為そのものが、その先のイエスについての対話のあり方を大きく変えることがあります。聞くことに専念し、目の前のニーズを満たすことに専念すれば、イエスの物語を説明する機会は頻繁に訪れるでしょう。

3. 希望を告げる(聖書を教える伝道師)

困っている人たちを実際に助けると同時に、福音の物語を説明する機会を探すべきです。私たちの行動と同時に、福音の力強い真理は、人間の最も深いレベルの必要性、つまり肉体的ではなく霊的な必要に癒しと希望を与えます(マタイ10:28、マタイ16:26)。

危機の中で福音の真理を伝えるとき、思慮深く、謙虚で、思いやりのある態度を保つことが極めて重要です。これは、真実に水を差すということではありませんが、良い知らせが良い知らせであるために、現実世界の懸念や疑問と有意義に関わる準備をすることを意味します。危機的状況にあるとき、人々の心は開かれていますので、混乱に直面したときに明瞭さを提供し、危機に囲まれていても、どんな嵐をも乗り切ることができる確固たる土台があることを人々が理解できるように準備しなければなりません(マタイ7:24-27)。

話し合う：危機の時代にイエスについて語る時、どんな課題に備えるべきですか？

4. つながりを大事にする(説明責任を果たす伝道者)

アドバンスを通じて、アカウントビリティを持ち、的確な質問をし、意図して人生を共に歩む習慣を身に付けました。危機の時代には、コミュニティの中で、周りの人々の必要を無視し孤立しないことがいかに重要かを思い知らされます。

クリスチアンの生活、ひいては伝道の中核-伝道は、神を愛し、隣人を愛するという二重の命令に基づく-の、他者の必要を優先させることでも、互いに責任を果たし合ひましょう。

アカウントビリティは、誘惑の経験や献身的な生活に関するものだけではありません。

正義、困っている人への配慮、環境への取り組み、その他、隣人の愛し方に直接影響を与える問題を振り返る場面でも適用されるべきです。

5. 実践的に励ます(感動を与える伝道者)

伝道者の仕事は、良い知らせの証人となるために、教会を絶えず鼓舞することです。

危機の時代には、私たちは率先して、キリストにある兄弟姉妹が、福音が世界に提供する希望を思い出すように、教会に福音を継続的に再確認する必要があります。教会の中には、危機の時に福音を宣べ伝えるのは不適切で日和見主義的だと考える人もいるかもしれませんが。私たちの仕事は、必要に応じてこの考えを改め、教会が常に混沌とした世界に福音の平和を祈りながら提供するよう奨励することです。

話し合う：どのように教会を舵取りし、危機の時代に伝道を優先することができますか？

● サタンは、恐怖で支配し、無力にし、希望の伝達者としての目的を鈍らせるのが大好きです。マルティン・ルターは、ヨハン・ヘスに宛てた有名な手紙の中で、クリスチアンは危機(ヘスにとってはペスト)から逃げるべきか、それとも留まって助けるべきかについて、サタンの策略に対する叱責と神の優位性を強く確信する祈りを捧げました：悪魔よ、恐怖もろともいなくなれ！お前がどんなに嫌がっても、私は即座に病気の隣人を助けに行き、お前への嫌悪を示す。キリストが私のために血を流し、死んでくださったから、キリストのために小さな危険に身をさらし、たかが疫病に怯える必要もない。もしお前が恐怖を与えるなら、キリストは私を強くする。もしお前が殺すなら、キリストは命を与える。お前の牙に毒があ

● っても、キリストははるかに偉大な薬を持つ。尊厳と優しさで励ましを持つ親愛なるキリストは私の精神にとって重要な存在ではないのか？神が許可する！悪魔よ、去れ。ここにキリストが、キリストの僕として務めを果たす私があります。キリストに勝利あれ！アーメン

● マーチン・ルーサー

恐怖と混乱では勝てない。行って、すでに得た方の名前を世界に伝えよう。

ディスカッション [出来れば十分な時間を使う]

1. 難局で人々のニーズに応える責任がどれほどありますか？
2. 危機的な状況下で、どのように自分の恐怖と戦えばよいですか？
3. 危機的状況の中で、あなたの伝道がより効果的になった例がありますか？

● 人の問題を知るためには人と生き、問題を解決するためには神と生きなければならぬ。

● P.T. フォルスイス

祈り

「主よ、困難の時に助けてください。必要を認識し、思いやりをもって対応し、そして何よりも、不確実な中であなたを信頼できるように助けてください。あなたを信頼できない私たちを赦し、あなたが望むように、恐れに打ち勝って生きられるように助けてください。混沌とする世界に、希望と平和の民となる力を与えてください。どんな状況でもあなたの福

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間を設け、出来事や機会に関する振り返りなど、グループの励みになることを共有します。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [20-30分]

以下の教材を、そのまま読むか、自分なりに工夫して教えます。

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるように、祈ってください。

- 私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。

エペソ6:18-20

軽視された伝道のツールのリストに祈りが最初に来るのは奇妙に思えるかもしれませんが。実際、私たちの祈りの生活が一般的に盛んでも、福音を伝えるために立ち上がることに熱中すると、霊的に福音を蒔く必要性を軽視してしまうことがあります。

- 伝道には祈りが不可欠です：神に反抗している人の心を変えられるのは神だけで

- す。どんなに論理的に主張しても、どんなに熱心に訴えても、神の霊が道を用意しなければ、私たちの言葉は何も成し遂げられません。

ビリー・グラハム

祈りは、伝道の準備と、伝道の参加に、重要な役割を果たします。

準備力

祈るとき、力のあるところ-救う力を持つ唯一の方である神の手に力を注ぎます（ローマ1:16）。神が、私たちの限界を超え、心を柔らかくし、証しの中でご自身を現し、奇跡的に動き、救ってくれるよう願います。祈りによって、私たちは力を与えられた民として出発することができます。

罪の告白

私たちは聖なるメッセージを伝える聖なる民であるべきですが、完璧ではありません。ウィリアム・セッカーの言葉を借りれば、犯した罪よりも告白を恥じる罫に陥ってはならないのです。間違いを犯し、神の基準に達しないとき、主に告白し、主の赦しと回復を知ることができます。祈りによって、不完全なメッセンジャーが、最も神聖なメッセージの運び手として遣わされます。

変えられる

イエスが人生に何の変化ももたらさないなら、私たちが宣べ伝える福音に威厳はありません。確かに私たちは間違いを犯しますが、何度も同じ間違いを繰り返したくはありません。福音を伝えるのに、完璧である必要はありませんが、福音が真理だと明らかにされるには、私たちの生活の中で、福音がもたらす変革の効果を体験する必要があります。D.L.ムーディーは、「聖書が与えられたのは情報のためではなく、変容のため」と言

いました。伝道は、情報を共有することではなく、私たちが経験しているのと同じ変容の中に他の人々を招くことです。祈りによって、私たちは変容した民として出発することができます。

備え

伝道に関しての祈りは多岐にわたりますが、なによりも、「神様、今日、信仰を伝える機会を与えてください」と機会を求める祈りが必要です。これらの機会に一步、足を踏み込むとき、大胆さ、思いやり、明瞭さ、知恵などが与えられるように祈ることができます。祈りによって、あらゆる機会に備えられた民として臨むことができます。

話し合う：あなたの祈りの生活には、このような特徴がありますか？

伝道のための祈りの準備を怠ることは、伝道で失敗する準備をすることです。祈ったからといって、伝道がすぐにイエスに従う決断につながる保証はありませんが、絶えずイエスの真理を誠実に証しすることに身を置くことを意味します。

参加する

伝道の実践的な要素として祈りを用いる方法はたくさんありますが、次の2つは手始めに良いものです。

祈りのウォーキング

最低、月に一度、近所を祈りの散歩をしたら何が起こり得ますか。自分の家の周りの通りに住んでいる人々の間に神が動いてくれるようにと祈り、自分がその祈りの答えのために用いられようとするので、祈りの散歩の間に機会が訪れることがよくあります。人々が挨拶し、会話が弾み、私たちが何を、なぜし

ているのか説明でき、そこから自然に信仰を伝える機会が訪れます。

祈りの会話

人との会話で、私たちが持つ最高のツールの1つは、その人のために祈ることを申し出ることです。その場で祈ることもできれば、相手が嫌がるようなら、後日、私たちだけで祈ることもできます。祈りそのものが、福音の心（愛に満ちた優しさ）と神の福音の力（祈りに応えて神が動く）を示す機会になります。

話し合う：あなたは、祈りの行進（散歩）や、祈りを証しの道具として使った経験がありますか？何が起こりましたか？あまりうまくいかなかった出来事を共有することは、「成功」した話を共有するのと同じくらい役に立つことがあります。

私たちの多くは、伝道において祈りを軽視しているとは思わないかもしれませんが、祈りの力を十分に発揮していないことに思い至ると驚くかもしれません。獄中のパウロがエペソの人々に祈るよう求めたのは、解放ではなく、目の前の機会に福音を宣べ伝える大胆さでした（エペソ6:18-20）。同様に、私たちが話すとき、福音の神秘を恐れずに知らせるための必要な言葉と力を受け取ることができるように祈りましょう。

ディスカッション [20分]

- あなたの個人的な祈りの生活は、伝道に健全に焦点をあてていますか？
- あなたは他の人のために祈ってあげることには抵抗がありますか？もしそうなら、何が障壁ですか？
- 詩篇17篇の聖句を一緒に考えてみましょう。特に伝道の道具として、私たちの祈りにどのような指示を与えていますか？

実につなげようとする伝道の希望を見るのです。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間を設け、出来事や機会に関する振り返りなど、グループの励みになることを共有します。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [30-40分]

以下の教材を、そのまま読むか、自分なりに工夫して教えます。

- よく聞かないで返事をする者は、愚かであり、恥を見る。

箴言 18:13

誰かと会話をしていて、一言も発せられないという経験はありますか？対話相手ではなく、独り言の受け手であることに、深いいらだちを感じる場合があります。多くの人にとって、話を聞いてもらえないのは、誤解されるよりもつらいことです。まるで、透明人間になったみたい、大事にされていないとを感じるからです。

残念ながら、伝道は一方通行のコミュニケーションになりがちです。しかし、ほとんどのクリスチャンが日常的に行う個人伝道では、一方的なコミュニケーションでは不十分です。それは、相手が伝道の対象ではなく、神が回

復された関係を提供する実在の人物だからです。神の信仰者がまず愛を示さず、相手が神の愛を受け取るのは困難です。

聞くことの価値は、単にその人の情報を得ることではなく、私たちが愛情を持って注目を注ぐことで、その人が価値を感じることにあります。

一方的なコミュニケーションは売り手のツールです。伝道は、商品を売るのではなく、イエス・キリストという生きた人物を紹介することです。神は、人口統計のターゲットとしてや宣教の目標数ではなく、ユニークで価値のある、神が心を留めた人々との関係を望んでいます。

- ノンクリスチャンとキリスト者を離れた元クリスチャン62%が、決めつけずに話を聞いてくれる人が信仰について語るのに最適だと答えています：他のどの資質をはるかに上回る高い数値（評価）です。

バーナグループ

人は、偏見なく純粋に話を聞いてほしいと願います。しかし、健全な方法で意見をぶつける前に、まず理解する必要があります。耳を傾けることで、相手のことを大切に思い、相手の間違いを指摘することだけが目的ではないと示すことができます。

真に人の話を聞くことは、本当に有益です。彼らの人生で何が起きているかを知ることができ、私たちが必要だと思うものではなく、彼らの実際のニーズに応えることができ、彼らが尋ねるだろうと思うものではなく、彼らの実際の質問に応えた福音の接点を作ることができる。

話し合う：次の7つのポイントを一緒に考え、伝道の会話の一部として人の話を聞くことの自分の長所と短所を振り返ってみます。

1. 質問する

上手に話を聞くには、良い質問をすることが重要です。質問をすると、私たちが真剣に聞いていることが相手に伝わり、興味深い方向へ会話を進め、相手の考え（と必要）がよく理解できます。イエスがバルティマイを癒したときにした、「あなたのために何をしてほしいのか」（マルコ10:46-52）と聞いたのが、最も顕著な模範です。

2. 「論破」に要注意

いち早く会話を殺すものは？会話で「論破（勝とう）」することです。私たちは、すべての答えを持っている必要はありません。バーナの調査によると、「知ったかぶりをする」会話相手は、ノンクリスチャンからあまり評価されないそうです。すべての会話で、勝利者として立ち去る必要はありません。会話の勝利とは、双方が自分の考えを明確に相手に伝えることができた場合です。

3. 余白を持たせる

無理矢理、結論を迫る必要はありません。人々が自分の言うこと、その返答として聞いたことを考える余白を与え、自分自身も常に急いで返事せず、内省できるスペースを確保するとよいでしょう。『ロミオとジュリエット』で修道士がロミオに言い聞かせるように、「賢くゆっくり。速く走る者はつまずく。」

4. 共に発見する

他の人の話に耳を傾けると、神がその人を通して私たちに新しいことを教えているのに気づくことがよくあります。伝道は、自分の側にその人を立たせようとするのではなく、イエスに向かって共に歩む旅だと自覚しなければなりません。

5. 反対意見を良く知る

他の世界観に真理が含まれていることがあります。キリスト教に関する質問には、役に

立つものや、洞察に満ちた反論もあります。自分の考えに反するものをすべて否定してはいけません。特に、まずは注意深く耳を傾け、なぜそれが相手にとって重要なのかを時間をかけて理解しなければなりません。探究心を持ち、良いものは良いと肯定すべきです。

6. 共通項を見つける

どんな会話でも、同意できる部分はたくさんあるはず。このような共通点を見つけることで、親和性を高め、同意の基盤ができ、喜んで歩み寄りを探れるようになり、思いがけない福音の接点につながります。

7. 成長する

人の話を聴く、つまり、本当の気持ち、考え、経験を聞くことは、思いやりが成長する機会です。

私たちの伝道に対する動機は簡単に歪んでしまいます。命令に従うためだけ、教会の伝道週間だからだけ、福音の十分な知識があり、伝える必要があるとわかっているからだけで伝道することがどれほどありますか。私たちの動機が、単に愛なのはどれくらいですか。聞くことは、思いやり、共感、愛において成長し、福音を表現するメッセンジャーになるのを助けますが、言うだけでなく、実際聴ける人であることが大事です。

周りの人の話を聴こうとするとき、（それが伝道の準備の祈りのときで、実際に会話伝道のときでも）、聖霊の声に耳を傾けなければなりません。伝道とは、「聖霊（最高の伝道者）とその人の会話に参加すること」だと言われます。目の前の人に耳を傾けるとき、聖霊に心を傾けましょう。

ディスカッション [20分]

1. 聞き上手の条件とは？自分は聞き上手だと思いますか？
2. 証人の話を聞かないことの「愚かさ、恥ずかしさ」とは何ですか？
3. 個人伝道だけでなく、公的伝道にも傾聴を取り入れる方法はありますか？どのようにしたらよいですか？
4. あなたが話す相手が、神様に耳を傾けるために、どのように勤めることができますか？

適用 [10分]

まだクリスチャンでない人と会話をして、聴く練習をします。「もし、あなたが神に一つ質問できるとしたら、何を尋ねますか」というような簡単な質問から始めて、会話がどのように発展していくかを見てみましょう。相手が話している間、腰を据えて、相手の話に応じて適切な質問をし、会話を誘導したり強要せず、会話を豊かにするようにします。

(求められない限り) 自分の意見を発言しすぎず、相手の話を聞くための余白を作る。相手の意見を喜んで聴いていることを確認するため、相手が言ったことを同じ言葉で繰り返す、会話の後には話を聞いて嬉しかったと伝える。

その後、自分への質問で振り返ってみてください：

1. この会話でしたように、聴いてもらえたら、どう感じると思いますか？
2. 相手の気持ち、考え、意見、懸念、反論をより明確に理解できましたか？
3. 何か新しく学んだ、役に立ったことはありましたか？

4. これまで議論したことから、どのようにもっと洞察を得たり、良い対応ができませんか？

祈り

神を待ち望み、神に耳を傾ける時間を一緒に過ごします。神に語りかけてもらい、その声を聞くことができるようにしてください。グループのメンバーが、神からの声を聞いたと感じたら、お互いに励ましを分かち合う。

あなたが周りの人の話をよく聞けるように神が助けてくれるように祈ります。手を差し伸べる人への思いやりと愛が深まるように、祈ります。

アカウンタビリティ [15分]

アカウンタビリティ用紙に記入し、ペアや小グループで共有し、お互いのために祈ります。

セッション6 軽視された伝道ツール -感謝

このセッションでは、信仰と伝道において、感謝が果たす役割について考えます。感謝する生活態度がもたらす感情的、心理的なメリット、そして、神がどんな方で、何をしてくれたか、なぜ神に永遠に感謝する理由があるかを思い出す重要性について考えます。

セッションのまとめ

感謝を捧げることは、イエスと共に歩み、世の中に証しする上で重要な役割を担っていて、大きな困難に直面しても、神の善さを常に思い出し、感情的に健康なメッセンジャーになるのを助けてくれます。

セッションの背景

- 11月5日を忘れるな、忘れるな...

イギリスでは、ガイ・フォークスと火薬陰謀事件を記念して、毎年「ボンファイヤーナイト」が開催されます。焚き火や花火、温かい食べ物や飲み物を楽しみながら、家族で楽しい時間を過ごします。しかし、これは一体何の記念日でしょうか？

1605年、ある陰謀家グループが、36樽の火薬で貴族院を爆破し、国王ジェームズ1世を暗殺する計画を立てた。この計画は11月5日の国会開会中に行われる予定だったが、密

告により当局に知られ、貴族院を捜索したところ、火薬の樽を見張る陰謀家の一人、ガイ・フォークスが見つかった。

計画は失敗に終わり、フォークスとその仲間たちの多くは反逆罪で有罪となり、絞首刑、絞首刑、四つ裂きの刑に処された。

それがいつしか、だれかの思い付きで、この出来事を思い出し、イギリス中の家族連れが、焚き火に投げ込まれた「ガイ」（古着でできたかかしのような像）を見ながらホットドッグを食べる楽しい夜のイベントになりました！奇妙な習慣、また奇妙なことを記念していることが多いのです。

実のところ、ほとんどのイギリス人は、毎年11月5日が何の記念日なのか、具体的な内容も知らないだろうし、覚えていたとしても、生活に与える影響もほとんどありません。しかし、神がユダヤ人に「過越の食事でエジプトの奴隷から解放されたことを思い出すように」と言ったとき、神はそれを単なる年中行事の口実にするつもりはありませんでした。神がしたことを、鮮明に強烈に思い出すためのものでした（出エジプト記12:1-14）。過越の祭りの週に行われる行事とその詳細は、非常に重要な意味を持ちます。恣意的なものではなく、ユダヤ人を奴隷から救い出した神の誠実さを鮮明に物語るものです。過越の

祭りを祝うことは、思い出すことであり、覚えて感謝することです。

「思い出す」という言葉は、聖書で200回以上使われています。多くは、神がご自分の民に、神が誰で、神の命令は何で、神が何をしたかを思い起こすようにと語っています。「思い出す」ことは、神の民が、神を彼らの中心に置くための最も重要な方法です。

苦しいときでも、「神は良い方」と覚えて、感謝の心を持ち続けることができます。

敗北に見えるときでも、神が救ってくれたことを思い出し、希望を持ち続けることができます。

偶像の誘惑があっても、彼だけが神であることを思い出し、忠実であり続けることができる。

神の民がこれらを忘れるたびに、混乱と災難に陥りがちです。思い出すことで、真理と希望を再発見できます。

「思い出せ、思い出せ」-神は、祭り、歌、祈り、共同体、みことば、物語、伝統、奉仕を通して、何度も何度も民に語りかけます-「思い出せ」、思い出すことで、私たちは変えられるからです。

セッションガイド

近況報告 [10-20分]

互いを知る時間を取り、出来事や機会に関する振り返りなど、グループの励みになることを共有します。

祈り

この時間を主に委ね、近況報告で挙げられた良い状況や困難な状況について祈ります。

学び [20-30分]

以下の教材をそのまま読むか、自分なりにアレンジして教えます。

- いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。
- これが、キリスト・イエスにあって神があなたに望んでおられることです。

● |テサロニケ5:16-18

現代のアメリカで行われている感謝祭は、とても素晴らしいアイデアです。持っているものすべてに感謝し、他の人々と分かち合うために丸一日を設けることで、みんなが恩恵を受けます。伝道でも同じようなアプローチが有効です。しかし、目の前の神から与えられた機会に感謝するより、救われた話「成功」を祝う方が得意です。

パウロは1テサロニケで、どんな状況でも感謝すべきで、それが私たちに対するキリスト・イエスにある神の御心だからと念を押します。パウロは、感謝の心が、人に霊的、感情的、肉体的に影響を与えることを知っていました。心理学者が、感謝することで睡眠が深くなり、自尊心が高まり、共感性が高まり、精神力が高まることを認めているのは、驚くにはあたりません。

感謝は、私たちがより健全な人間として世界に出て行くために役立つという点で、伝道のための貴重なツールです。しかし、精神的、感情的な利点だけでなく、感謝は私たちの中で、また私たちを通して神が働いていることを思い出させるので、伝道の助けになります。

感謝は、平凡な日常から、神が働いておられる非凡な方法を見出させてくれます。落胆す

るとき、主が以前してくれたことに感謝すると、主が再び働いてくれると信じることができます。毎日信仰を分かち合う機会があるので感謝することで、キリストの任務の召命に参加するよう、他の人々をかき立てることができます。これは、信仰を伝えることに不安を感じている人々に、伝道のすべての行為が神への従順の成功例として、見栄えする救いの結末を迎える必要がないと理解させることができます。感謝祭は、伝道のためのマルチツールのようなものです。

話し合う: クリスチャンの感謝には、「思い出すこと」と「感謝すること」の2つの部分があります。イエスとの歩みの中で、神が誰で、何をしてくれたかを思い出し、それを感謝する時をどのように作っていますか？

忠実に証しするために、神への感謝を普段から心がける方法をいくつか紹介します。

個人的に

神の希望を他の人に伝えるため神が与えてくれたすべての機会（それをモノにしたかどうかは別として）をメモしておくことです。そうすることで、神がどのように働いているかを思い出し、出会った人々を覚えて祈ります。今後、新たな機会を容易に認識できるようになるかもしれません。

家族として

友人や家族と一緒にいるとき、神があなたの人生にどのように働いてくれたか、神に感謝の気持ちを表すことを意識してください。年に一度（感謝祭など）の正式な行事に慣れているかもしれませんが、週に一度でもいいのではないのでしょうか。定期的に感謝の交わりをすることで、互いを高め合うことができます。

コミュニティで

集会や礼拝の中で、救いの実りだけでなく、機会の物語を祝う場を設ける。私たちは常に救いを祝うべきですが、「普通の」人々の生活の「普通の」機会に神が働かれた物語が最も強く心に響くことがよくあります。もし私たちが、実を結ぶことと同じくらい、種を植えることに感謝し、祝うなら、きっと多くの種を植えることができるはずで

聖書的に

聖書にはクリエイティブな感謝の表現がたくさんあるので、それを使ってクリエイティブに感謝を伝えましょう。感謝の詩篇を読んで、神への感謝を表現したり、同じ感謝を別の方法で創造的に表現するためのインスピレーションとして使ってください。詩や絵画、作曲などの創作活動を通して感謝の気持ちを表現することは、感謝の心を振り返り、宣言し、他の人々に明らかにする素晴らしい方法です。

喜んで

カール・バートによれば、「喜びは最も単純な感謝の形である」。1999年のアカデミー賞でロベルト・ベニーニが外国語映画賞を受賞したとき、彼は前の座席に飛び上がり、盛大に祝い始めた。列を駆け上がり、出会った人全員とハグをした後、最終的にステージに上がり、イタリア語訛りの拙い英語で感謝の気持ちを表現しようとした。

訛りは気にならなかった。ベニーニが大きな喜びを英語の語彙力で表現しきれなかったように、心から喜びを表現すること以上に神への感謝を表すものはありません。喜びをもって神に感謝する生き方は、伝道の力に直結し、周囲の人々の興味を引きま

ふつうに（自然に当たり前）

私たちは世界に出て行き、なぜ神様に感謝しているかを人々に説明することで証しができ

3年目： リトリート

アドバンスの各年度のクライマックスはリトリートです。どのように行うかはあなた次第ですが、ここでは、アドバンスのグループミーティングの一般的な原則の沿って、3年目を締めくくる時間の過ごし方を提案します。

アドバンス・グループ・リトリートのやり方

大まかなアイデアは、非日常の場で普段より時間をとりアドバンス・グループのセッションをします。午前、午後、夕方のいずれかしか時間が取れない場合は、時間の許す限りでよいですが、丸一日リトリートはとても効果的です。

ここでは、リトリートに組み込むアイデアを挙げます。

鍵となるみことば

リトリート中、一緒に過ごす時間で、特定のことにフォーカスしたいなら、IIコリントの聖句は鍵のみことばに有効です：

● こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めについているので、落胆することがありません。かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、主なるイエス・キリストを宣べ伝えています。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべなのです。「闇の中から光が輝き出よ」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいました。

● 私たちは、この宝を土の器の中に入れてあります。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

● 迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

● IIコリント4:1-9

この箇所を、少なくとも12の点で内省することができます。

1. 伝道は神の憐れみの賜物（「あわれみを受けてこの務めについている」）。
2. 純粋で聖なる方法を用いるべき（「恥となるような隠し事を捨て」）。
3. 明瞭であること（「真理を明らかに」）。
4. サタンは欺きを語る（「この世の神が一暗くし」）。
5. 焦点は私たちではなく、イエスであるべき（「自分自身を宣べ伝えているのではなく」）。
6. キリストへの礼拝として伝道を通して失われた人々に仕える（「あなたがたに仕えるしもべなのです」）。
7. 神は私たちの生活の中で働いている（「私たちの心を照らし」）。
8. 神の力は私たちの弱さの中で完全なものとなる（「私たちはこの宝を土の器の中に入れてあります」）。
9. 人生の苦難に押しつぶされることはない、主の喜びの中に力がある（「四方八方から苦しめられますが、窮することはありません」）。
10. 混乱した状況でも、希望がないわけではなく、神の善に信頼できる（「途方に暮れるが行き詰まらない」）。

11. 迫害されても孤立することはない、キリストとその教会がある（「迫害されますが、見捨てられることはない」）。

12. 大きな犠牲を払っても、致命的である必要はない（「倒されますが、滅びません」）。

この箇所から、他にどんな伝道への励ましを導き出せますか。

この箇所からどのように一緒に、または一人で（下記参照）学び、これらのポイントを引き出し、議論するかは、あなたがリトリートの時間をどのように運営するかによって、全く自由です。しかし、以下に提案する活動を見て、この箇所とこれらのポイントを心に留めておいてください。

みことば

アドバンスグループの主な目的は、神のみことばに献身する伝道者として互いに成長するのを助けることです。リトリートの時間は、神のみことばをより深く知る絶好の機会です。

延長して聖書を読む（ひとりで読む）

神のことばとゆっくり過ごす時間は、決して無駄ではありません。IIコリント4章の初めの9節を探求しました。続けて残りの9節をじっくり学んではどうですか？

マルコの福音書や新約聖書の手紙の一冊を一度に読み通すことは、その本の内容を十分に理解するための素晴らしい方法です。短い本なら、何度も読み直し、その都度祈り、振り返り、メモをとり、また読み直すというのはどうですか。全員が同じものを読む、または異なる選択肢を用意し、それぞれの感想を分かち合うこともできます。

バイブルスタディ (グループで読む)

リトリートで一緒に聖書の勉強を進める方法はいくつもあります。アドバンス・グループ・セッションで学んだ重要な箇所をもう一度学びたいと思うかもしれません。あるいは、修養会のベースとなる特定の箇所やテーマに導かれるかもしれません。ただし、これまでと同様、お互いを伝道者として成長させることに重点を置いてください。

また、YouVersionのバイブルスタディ Advance/City Gospel Movementsの「Exploring Evangelism Myths」に取り組むのも可能です。



ボーナスセッションなどのアドバンスの教材

このガイドのボーナスセッションは、通常のアドバンスグループセッションの実施時やリトリートの一部としても使用できます。また、同じフォーマットであなた独自のアイデアでのアドバンス・グループ・セッションを行うこともできます。

アドバンスのウェブサイト (advancegroups.org/blog) の「One Thing」というブログでは、さまざまな伝道者が「福音を伝え始めたときに知っていたらよかったと思うこと」を紹介しています。これらの短い文章は、素晴らしい議論のきっかけになります。

祈り

リトリート期間中、祈りのために特別に時間を確保する。特定のことに焦点を当てた祈り、聖書を通しての祈り、自発的な祈りの時間を計画する。次の3つに焦点を当てるのがお奨めです。

互いのために祈る

一緒に過ごす時間の優先順位として、互いのために祈ることを忘れないようにします。神に感謝していること、神の備えや突破口を必要としていることを1つずつ話してもらいましょう。具体的に正直に祈り求めるように促し、急かさず、お互いのために心から時間を捧げるようにします。この時間に生じた言葉や励ましを必ずメモに残しておくこと。

地域と世界のために祈る

自分の住んでいる地域と、世界的な福音の広がりのために、時間をかけて祈りましょう。地元や世界の状況特定のことに関心があれば、そのために祈ります。個人、教会、ミニストリー、宣教師、ニュースから得た情報を取り上げます。

アドバンスの旅路のために

このグループでの旅を感謝し、個人的な成長、実りや救いの物語を振り返る。主が始めたあなたの中の働きと、栄光が増し主の姿に変えられるよう、祈り求めます (2コリント3:17-18を通して祈ることもできます)。

ワーシップ

神のみことばに触れる時間、祈り、交わりはすべて礼拝の一部です。会衆として、歌やその他のクリエイティブな表現方法で神を慕い求め、献身を現すことも礼拝です。

特別賛美礼拝

音楽の賜物がある人を招いて、賛美礼拝のリードをしてもらいましょう。

ネット上に素晴らしい会衆賛美のアプリや動画があり、多くは無料で利用できます。お気に入りのワーシップソングをYouTubeで検索すると、歌詞付きバージョンが表示されるので、それを再生して皆で一緒に歌うとよいで

しょう。神の民が一つになって歌い、神の栄光を宣言することは力があります。

証と賛美

今年、神があなたの人生にどのように働かれたか、成長、突破口、伝道の機会、実りの物語を分かち合う時間を持つ。それぞれの証の後、祈りや歌など、グループに合った方法で神を賛美し、神がどんな方で、何をしてくださったか、何をしているかを感謝する時間を持つ。

任命式

もう一つの方法は、神に召され、力を与えられた伝道の仕事を、神の前で互いに委託し合うことです。アドバンスグループの3年目の節目にこれを再認識することで励みと確認になります。神の救いを世に知らせ、神の栄光を現わせることに感謝し、互いに祈り合います。

1年間の振り返り

194ページ掲載のフォームを使用し、提示された質問について考え、フォームに記入し、祈る時間を取ります。

これは、個人でもグループでも可能です。

フェローシップ

共に集うことで、互いへの友情と信頼を深めます。アドバンス・グループでの交流が、個々の祝福であったことを願います。リトリートでは、続けて責任と楽しみを抱負し合います。

アカウントビリティ

説明責任は、これまでの全セッションの中核をなしてきました。今年最後のこのセッション

でも、聖く謙虚に生きようと皆で再確認してください。

断食・絶食

リトリートの一環に断食の期間を設ける、食事中心の時間を設ける、みんなで話し合う場を設ける、正解、不正解はありません。重要なのは、リトリートで一緒に良い時間を過ごすという目標の達成です。

アクティビティ

自然が豊かな場所なら一緒に散歩をし、先に挙げた霊的アクティビティを行うのもよいでしょう。都会にいるなら、一緒にアートギャラリーを訪れ、鑑賞し、内省と献身の刺激にすることもできます。

また、レクリエーションやスポーツなど、単純に一緒に楽しむのも良いでしょう。

娯楽でも、献身を促すための交わりでも、楽しく交流を深めるものでも、質の高い時間投資にしてください。

次のステップ

アドバンスの3年目が終了しました。この1年 (とリトリート) を締めくくる前に、このグループの次のステップを必ず見ておいてください。

現行グループ

アドバンスグループで経験したことをシェアし合う場を設けます。どう成長し、発展してきたか振り返り、この1年で最も大きな学びは何だったかを考えます。

規範的にこのガイドに従うよりも、グループにぴったりにカスタマイズすることで、なにが一番楽しかったですか。互いに励まし合います。

3年間一緒にいて、これからも続けますか？
このガイドに提案されたリソースを使って、もう1年続ける、または、まったく別のことをしても良いです。初心に戻って、もう一度1年目を学ぶこともできます。セッションが新しく発展するかもしれません。どのような選択、「アドバンス」で一緒にやるかどうかにかかわらず、次年度に人々が何を楽しみにしているか分かち合ってください。まだの方は、アドバンスの3年目のために祈り、感謝し、これからのことを主に委ねます。

この機会に、一緒に4年目を始める日を決めます。

新しいグループ

今年中に発足した新しいグループの発展について話す時間を作る。拡張は、アドバンス・グループの旅において重要な要素です。新しいグループの立ち上げにサポートが必要な場合は、アドバンスのウェブサイトからご連絡ください。担当のアドバンス アンバサダーが、可能な限りサポートするためご連絡します。

それぞれが始めたグループの様子を聞き、その人たちのために祈ります。

リトリートの時間をどのように過ごすにしても、アドバンスのコアバリューに焦点を当て、グループとして歩んできた道のりを振り返り、これからのことを祈りましょう。そして、これまでの成長と実りを神に感謝し、これからの人生を神に委ねましょう。

付録

福音の教理

- あなたは、偶然の産物ではありません。あなたは、生命の源であり維持者である完全で愛に満ちた神（父、霊、子）によって、神の姿に似せて創造されたのです（創世記1章）。
- 私たちは皆、創造主に従順に生きるより、自分の道を行くことを選び神を拒み（罪を犯し）ました。そのため、世界は壊れ（傷つき）、苦しみに満ちています。この不公平（不当さ）は、神を悲しませます。神は、罪を無視したり弁解して矮小化せず、違反した者を正當に罰します（ローマ3:23）。
- 一旦、神に反抗し、宇宙の王に対する反逆行為を行った以上、物事を正すことはできません。神を拒絶することは、いのちそのものを拒絶することです。生命を拒絶し、正しい生き方の基準を破った神の罰（神の正義）である永遠の死が残ります（ローマ6:23）。
- しかし、神は愛そのもので、愛する子である私たちと永遠の関係を望んでいます。神は、私たちが救うための、恵み深い救出作戦を開始しました（1テモテ2:4-6）。
- 神は御子イエス・キリストを人間としてこの世に送り、父を拒むことのない完全な人間としての生涯を送りました。イエスは、私たちの身代わりに、神を拒絶した私たちにふさわしい死を自ら選び、十字架で殺されました（ヨハネ3:16、ローマ3:23-25）。
- その3日目に、イエスは死からよみがえり、死の呪いが解かれたことを示しました。

- 新しい命は、イエス・キリストを信頼し、罪の赦しを求めることによってのみ可能です（箴言28:13、エペソ2:1-10、1ヨハネ1:7-9）。
- イエスの死と復活は、和解、贖罪、宥和、そして悪の敗北を実現しました。私たちの罪はイエスのものとされ、イエスの義は私たちのものとされたのです。この取引が成立するために私たちに必要なのは、イエスを主と信じ（信仰）、神がイエスを死者の中からよみがえらせたことと信じることです。私たちは、信仰によってのみ救われるのです。（マタイ20:28、ローマ10:9、2コリント5:18-21、ヨハネ12:31、コロサイ2:15）。
- 私たちは今、天の父との回復された関係に入ることができます。平和を得、父の家族に養子として迎えられます。古い命に死に、新しい命に生まれ変わるのです。（ルカ9:23、コロサイ1:20、2:13-14、ローマ5:1-2、ガラテヤ4:4-7）。
- イエスは天に昇り、父の右の座に君臨していますが、イエスは信者に聖霊の賜物を送り、私たちが満ち足りた命の中で従順に生きる力を与え、イエスの良い知らせを世界に伝えるのを助けます。私たちは新しく造られた者、つまり弟子となり、人生における聖霊の働きによって変えられ、実を結ぶようになります。神の使者として世界で働き、平和の王国を代表し、言葉と行いでイエスの物語の真実を伝える証人として奉仕します（ミカ6:8、使徒1:8、11コリント5:11-21、ガラテヤ5:22-23）。

ある日、イエスは生者と死者を裁くために戻って来ます。神の完全な王国が回復され、イエスを主と信じる者には、愛する父との永遠の命が待っています。そうでない人には、永遠の死（地獄）が待っています。良い知らせは、誰も永遠に滅びる必要はなく、すべての人がイエス・キリストを信じて、神との関係の中で永遠の命と喜びを知ることができることです（1コリント15章、黙示録21:1-8、22:1-5）。

付録

福音物語

すべてが始まる前に、神ご自身が、父、子、聖霊という完璧な関係で存在していた。神が世界を創造し、それは非常に良いもので、神と人間は独特（ユニーク、特別）な関係がありました。私たち人類は、宇宙の王で、生命そのものの神にあって完全な生命のために創造されました！しかし、神は人類に自分を愛することを強制せず、自由意志と選択を与えました。この自由意志によって、人類は神を拒絶し、自分たちの道を行くことを選びました。

宇宙の王を拒絶することは、比類なき反逆で、生命そのものへの反逆です。死と苦しみと痛みがこの世に生まれました。人類は、完璧な天の父から引き離され、後戻りできない運命をたどりました。神は反逆を容認できませんでした。その行為には正義がないからです。正義の神は、犯した罪に対して罰を与えることを要求しなければなりません。生命への反逆の罰は死です。

しかし、神は、人類を死から救うため、つまり、私たちが神の命と愛の全容を永遠に知ることができる計画を開始するほど世界を愛しています。神は息子イエスをこの世に送り、完全な人間としての人生を歩ませました。

イエスは、人類が反抗したから受けるべき死の罰を受けるため、自ら進んで十字架の上で死に、私たちの身代わりとなりました。その3日後、イエスは復活しました。なぜなら、イエスは神で、死はイエスを捕らえることができないからです。この瞬間、人類は神に対する反逆の赦しを受けるだけでなく、イエスが可能にしてくれた新しい永遠の命を共有することができるようになりました。死の呪いが解かれたのです。

私たちがすべきことは、イエスが十字架につけられて復活した世界の救い主で、宇宙の王だということ信じ、彼を私たちの人生の主とすることを選ぶだけでよいのです。イエスに信頼するすべての人に救いと命があり、イエスの聖霊の力によって、私たちが創造されたような人生を送ることができます。イエスに信頼を置くことで、私たちは古い命に死に、新しい命に生まれ変わるのです。いつか、イエスは再臨され、その完全な王国が回復されます。だから、私たちは、今日、そして永遠に続く希望をすべての人が知ることができるように、神の愛を世界に伝える、召命が与えられています。

付録

ユースゴスペル トーク例

一：あなたは偶然ではない

多くの人が、宇宙が偶然、無から有になり、数十億年後に偶然の産物の私たち人類が誕生したと考えています。しかし、ただ偶発的に生まれたなら、人生になんの意味も希望もありません！

聖書は、神は常に存在し、被造物の人類と愛ある関係を願い、世界を創造したと語りまします。つまり、あなたは偶然ではありません。あなたは神の創造した存在で、愛され、目的があります。あなたがいる宇宙がより良いと、神が決めたから、あなたがここにいます！

二：あなたは的を外した！

問題は、神が自分を創造し、愛していることを知らない人は、人生の目的を見誤ることです！神を知るとは、意味ある生きるべき人生-愛にあふれ、親切で、慈悲深く、恵み深く、忍耐強く、賢い神である創造主との友情関係-を生きることです。聖書は、神がご自分の子どもたち、つまり、あなたと私に良いことを望む完全な父だと語りまします！しかし、聖書は、私たちが反抗的な子供で、父の愛に背を向け逃げ去ったとも語っています。神を知らないのは、ゴールを立てずに、サッカーワールドカップの決勝戦のピッチで走り回るようなものです。ゴールがなくて、試合時間ただ走り回るだけなら、だれも勝利できないし、意味がありません。

三：充実した人生を知ることができる！

聖書は、私たちが神が私たちのために持つ人生を拒むと、悪い結果になると教えます。なぜなら、私たちが創造した完璧な神よりも、私たちが人生の生き方を知っていると考えるからです。私たちの完璧でない物事の進め方が、完璧でない世界をもたらします。聖書はこれを「罪」と呼びますが、これは私たちが創造された目的から外れることを意味します。もう一つの罪の考え方は、自己中心です。神の道ではなく、自分の道を選びます。「神様、私はあなたより優れていて、あなたより知っていて、私はあなたを必要としない、私はあなたより良い神になれる」と言います。毎日のニュースを見れば、私たちの住む世界がどれほどめっちゃくちゃかわかります。これは、人々が的を外れたことを言い、自分のために生き、命の源の愛する父なる神以外のために生きる結果です。世界中で目にする全ての苦しみ、不正、混乱は、人類が神よりも自分の方がよく知っていると考え、神を拒絶したことで存在します。

この拒絶は、不完全で反抗的な人類の私たちと、すべてを創造した完全な神との間に障壁になります。私たちが神を拒絶すると、その行動には結果が伴います。もし先生に逆らって校則を破ったら、居残りになるかもしれません。私たちが創造主の神に逆らう結果は、行動を正すための単純な罰ではなく、私たちの行動に続く自然の現実です。神を否定することは、生命を否定することで、生命を否定した場合、何が残りますか。死です。

しかし、神はあなたが死ぬことを望みません。神は、あなたが神との関係の中で、あらゆる面で満ち足りた人生を送るためにあなたを創造しました。私たちが作り出した問題を解決するために神がしたことを聖書は教えます。神は御子イエスをこの世に送り、人間の形をした神として、私たちがどう生きるべきかを示す完璧な人間としての人生を送り、私たちの拒絶の結果を自ら引き受けました。

イエスは、私たちが神様を拒んだ時に選んだ死を受けるため十字架で殺され、罰を受けました。しかし、ここで驚くべきニュースがあります、3日目に彼はよみがえりました！

人々はこう言うかもしれません。「正気か？死から生還できるわけがない」と。しかしイエスは神で、神は命だと忘れないでください！聖書によると、もしあなたが神の愛に背を向けていたことを神に謝り、主であるイエスを信じるなら、つまり、不完全で混沌とした自分のために生きるのではなく、自分らしく生きるように創造した完全な方を信じるなら、私たちは自分が選んだ死から、イエスとの関係における真のいのちに、今日そして永遠に天国に移ることができます！

[愛すべき父から逃げ出し、散々な目に遭い、家に引き返すと、思いがけない大歓迎を受けたことに気づく、「放蕩息子」の話をするすることができます。私たちは息子や娘として、すべての祝福と特権を伴って迎え入れられます。]

四：あなたの人生の特等席にいるのは誰ですか？

あなたの家には、お気に入りの椅子がありますか？テレビが一番よく見えて、他の人が座ると、イライラしてしまう場所？私たちの人生には特等席があり、自分の存在を支配し、君臨します。この玉座に他の誰かが座り、自分の人生を支配することを許可したくありません。神にこう言います。「神様、あなたは私の人生の特等席に座ることはできません。」

しかし、神は私たちをととも愛していて、神が創造した真の人生を知ることがを望み、助け、導き、心の王座である神の居場所に座ることを望んでいます。神を正当な位置に置くことは、私たちが神の愛の中で真に満たされ、真に生きることができるのを意味します。

多くの人は、人生とは何か混乱しています。うつ病、自傷行為、摂食障害、自分のアイデンティティを理解できずに苦しんでいる人もいるかもしれません。鏡に映る自分の姿に満足できない人、将来が不安な人もいます。自分が何か意味のあることを成し遂げられるとは思えません。深い不幸とストレスを抱えている人もいます。順風満帆な人生なのに、まだ何か足りない、でも、それが何かは分からない人もいます...

[ここで、実際の経験と結びついた、短い証しができます。]

神はこれらすべての現実に対応を持っています。あなたがそう感じるの、あなたが本当に生きていないから。呼吸しているだけの存在は死で終わるだけです。

人生の目的を見失わないでください。神に立ち返り、神を拒んだことを謝れば、神はあなたを赦してくれます。神を主だと信頼すれば、あなたの本当の姿を示してくれます。神は完全な生命、本当の生命を与え、あなたは決して死を経験することはありません。この世で息を引き取る時、今までにないほど神の永遠に近く、生き生きするでしょう。確かに、人生にはまだ課題があり、イエスに従ったからといって、世界のすべての問題が即座に解決するわけではありません。しかし、神はあなたを助けてくれます。この複雑な世界で、神があなたのために持っている人生を生きるために、神はあなたに聖霊を授けます。教会は完璧ではありませんが、地上の家族で、神をもっと知り、人生が困難なときでも進み続け、神の愛とケアを世界に明らかにするためにデザインされています。あなたはもう二度と以前と同じではありません。

あなたは偶然ではなく、比べられないほど完全な神によって愛されています。しかし、神はあなたに信頼しろと強制はしません。真の愛は常に選択するものです。自分で選ばなければなりません。あなたは今日、神に立ち返り、神との関係の中で本当の人生を知ることができます。

あなたは何を選びますか？

質問：

1. このプレゼンのどこが良いですか？
2. 何か足りないものはありますか？
3. なぜ、これが「若者向け」だと思いますか？
4. このトークを他の聴衆グループ（例：学生、ママと幼児のグループ、ビジネスリーダーの昼食会、老人ホームなど）にどのように適応させますか？

追加教材

その他のセッションのアイデア

これらのセッションのアイデアは、あなた独自の方法で使用してください。各アイデアには、問題提起の鍵となる聖書箇所と、話し合いのための質問が含まれます。

霊的な親

私たちの信仰を形成し、弟子としての旅路を共に歩んでくれた「霊的な親」について振り返ってみましょう。霊的な父としてのパウロとテモテの関係だけでなく、テモテの母親と祖母が彼の歩みに果たした役割についても考察してみてください。このセッションは、これらの特別な人々について考え、物語や学んだ教訓を共有することで互いに励まし合い、あなたの霊的な子供が誰を探る機会として活用してください。

ディスカッション質問

1. あなたの信仰の旅の手助けになった人物とその理由を教えてください。
2. 彼らから学んだ最大のことは何ですか？
3. どんな人が良い霊的な親と言えますか？
4. あなたを霊的な親だと思う人はいますか？

鍵となる聖書箇所

11テモテ1:1-13

生涯のみことば

私たちはそれぞれ、自分の信仰を形作った、特定の時に励まされた、チャレンジを受けた、神から最も深く語りかけられた、いくつかの重要な聖書箇所を挙げる事ができる

でしょう。このセッションでは、これらの聖句について考える時間を取り、あなたにとって重要な意味を持つ聖句にまつわる話とともに、互いに分かち合います。

鍵となる聖書箇所

詩篇 119:9-16

ディスカッション質問

1. あなたの信仰や働きに大きな影響を与えた聖書の箇所や節を3つ教えてください。

2. あなたにとって重要な意味を持つのはなぜですか？

3. 聖書が自分に語りかけてきたことに驚いたことがありますか？

4. 日常生活の中で、どのように聖書を読む習慣がありますか？

主要な用語

このセッションでは、伝道に関するいくつかの重要な用語について調べ、みんなで話し合ってみましょう。特定の用語や表現を明確にするための重要性を話し合い、互いに助け合いながら、わかりやすい定義を一緒に探求し導き出すことができます。:

- 伝道 (228ページのブログの項目を参照)
- 伝道者
- 福音、ゴスペル
- 証し、証言
- 宣教、ミッション
- 宣言
- 弟子、弟子訓練
- クリスマン、キリスト者
- 礼拝、ワーシップ

ディスカッション質問

1. これらの言葉の意味をきちんと把握するのは、なぜ大切ですか？

2. これらの概念を、他の人が意味を理解できるようにシンプルに表現することができますか？

3. この一節は、神についての究極の真理の知恵について書かれていますが、私たちの信仰や実践の具体的な側面を理解する上で、何を教えてくださいか？

4. 用語の定義 (概念) をどのように応用へ移しますか？

鍵となる聖書箇所

箴言 2:1-6

証し

証は伝道のための素晴らしいツールです。証し自体は伝道ではありません。常に福音も伝える必要がありますが、トータルな伝道の一部として、どのように信仰に至り、神が人生の中で何をしてくれたかの過去や現在のことを分かち合うことは貴重です。このセッションでは、伝道での

証の位置づけを議論し、互いのストーリーを共有しましょう。互いに質問し合い、普通の証の仕方では見逃していた詳細を引き出すことで、物語に磨きをかける時間になります。証が、人生に働かれる神の最新情報を含む、躍動的で生きたものにする事を学んでください。

鍵となる聖書箇所

マルコ 5:1-20

ディスカッション質問

1. 初めてイエスを主と信じるに至った経緯は証のなかで、どれくらいの価値を置いていますか？

2. 人生の最近の神の働きを共有するのが得意ですか？
3. 健全な伝道において、証しはどのような役割を果たしますか？
4. マルコ5章のイエスと悪霊に憑かれた人の話は、証の力について何を物語っていますか？

聖霊

聖霊がいなければ、伝道は時間の無駄です。聖霊だけが、私たちの努力を用いて、新しい命をもたらすことができます。このセッションでは、最高の伝道者である聖霊について考察する時間を持ち、私たちが再び聖霊に満たされるよう求めます。このセッションでは、聖霊の取り扱いを受けるスペースを作ります。

鍵となる聖書箇所

ヨハネ 16:7-11

他者の人生

伝道者や宣教師の生涯を振り返り、彼らの歩みから受ける感動や教訓を学ぶことができます（何人かを挙げてありますが、このリスト以外でもあなたが興味深いと思う人を自由に選んでください）。事前に計画を立てれば、その伝道者の伝記を見つけ、1ヶ月の間に全員が読んでから集まり、セッションで話し合うことができます。ユーチューブからこれらの伝道者のドキュメンタリーや短いクリップが見つかるので、セッションの前や最中に見ることができます。

ディスカッション質問

1. あなたと聖霊の関係をどのように表現しますか？
2. 聖霊はどのような点で「最大の伝道者」と言えますか？
3. イエスはヨハネ16章で「自分が行って、御霊（助言者）が来るほうがいい」と言います。なぜか分かりますか？
4. 今すぐ聖霊を招きますか（来てもらいますか）？

重要な伝道師・宣教師

- D・L・ムーディー
- ジョン・ウェスリー
- ウィリアム&キャサリン・ブース
- グラディス・エイルワード
- エイミー・センブル・マクファーソン
- エリック・リデル
- セリーナ・ヘイスティングス
- ジョン・ウィンバー
- ビリー・グラハム
- リエンハルト・ボンケ
- ルイス・パラオ
- ユン兄
- ハドソン・テラー

ディスカッション質問

1. 伝道師の生涯で、最も印象に残ったことは何ですか？
2. 彼らの人生から、あなたが受け止めなければならない警告はありますか？

3. このような生き方を見て、感動したり、刺激を受けたりしますか？
4. あなたの伝記を読んだ人が、あなたの伝道の旅からどんな学びを得ることを望みますか？

ホスピタリティ

ホスピタリティは、一つの軽視された伝道ツールだと考えられます。聖書では、神の愛を分かち合うのに、もてなしが重要な役割を担っているのがわかります。単なる歴史的、文化的な習慣だと、今日無視できません。おもてなしは、クリスチャン生活の重要な部分で、多くの伝道の機会をもたらします。このセッションでは、一緒にホスピタリティを学びます。どんなもてなしをしたか、受けたかのエピソードをシェアしたり、クリエイティブなもてなし方を探したり、今後数週間、ホスピタリティを意識できるようお互いに責任を持ちましょう。

鍵となる聖書箇所

ルカ 14:12-14

ディスカッション質問

1. あなたにとって、「おもてなし」とはどんな言葉ですか？
2. 伝道に、どのようにホスピタリティを活用していますか？
3. おもてなしの心を広げるには、どのような課題がありますか？
4. ルカ14章をよく探ってみてください。真のおもてなしと御国について、イエスが語る真意は何ですか？

奉仕

おもてなしのセッションのアイデアと同様に、福音の機会がもたらされる、人々のニーズに応じた奉仕のあり方を、クリエイティブと一緒に探求します。ウィリアム・ブースは言いました。「空腹と凍えた足のままでは、神の愛で彼らの心を温めることはできない。」

鍵となる聖書箇所

ヤコブ 2:14-17

ディスカッション質問

1. あなたのコミュニティでは、具体的にどんなニーズがありますか？
2. 奉仕の行為が直接福音を語る機会につながるのを見たことがありますか？
3. 奉仕の行為そのものが伝道だと考えることの危険性は何ですか？
4. たとえそれが伝道の機会につながらなくても、奉仕がクリスチャン生活の中心だと言えるのはなぜですか？

チームワーク

ひとりで伝道するのはあまり良い考えではありませんが、実際、福音を伝えるとき一人になってしまうことはよくあります。このセッションでは、伝道での聖書的なチームワークの理想と必要性を探ります。

鍵となる聖書箇所

- ルカ 10:1-3
- 伝道者の書 4:9-12
- 箴言 27:17
- ペテロ 4:10
- ヘブル 10:24-25

聖書の模範 (モデル)

聖書は、福音の真理を指し示し、どのようなメッセンジャーになるべきかを教え、初代教会の伝道の模範から私たちの意識を高めます。しかし、聖書は、どのように戦略を立て、あらゆる国の人々に伝道すればよいか手取り足取り、きめ細やかには教えてくれません。でも、これは間違いではありません。文化や方法は移り変わりますが、福音は変わりません。伝道はダイナミックで適応性のあるべきものです。しかし、有益なことに、使徒の働き 2章には、私たちの証しが聖書に忠実で、神に敬意を払うものであることを保証するために、どんな文化やシーズンでも私たちを導く3つのシンプルな伝道の原則が示されています。このセッションでは、使徒の働き 2章を読み解き、以下のような聖書的な伝道モデルを探求します：

祈り： 主を求め (使徒2:1-13)

宣言する： みことばを語る (使徒2:14-41)

存在 (そこにいること)： 愛を示す (使徒2:42-47)

ディスカッション質問

- これらを読んで、チームワークの価値とは何ですか？
- チームワークの課題は何ですか？
- 聖書のみことばに表現されるように、信頼できる人、支え合える人がいますか？それは誰で、あなたにとってどんな存在ですか？
- 伝道でのチームワークで、教会での伝道をよりよく現すにはどうすればよいですか？

鍵となる聖書箇所

使徒 2章

ディスカッション質問

- なぜ、祈り、宣教、存在が伝道の聖書的理想と言えますか？
- 伝道に異言の賜物が与えられたことは、なぜ重要でしたか？
- ペテロの宣言は、私たちが今日の自分の宣言を考える上で、どのような本質的な要素があるのでしょうか？
- 父なる神の御前にいること、教会の家族と一緒にいること、そして証人として世界に存在することを、どのようにバランスをとればよいですか？

偉大な伝道章

IIコリント6章は、聖書の中で伝道に関する最も偉大な章だと言われます。パウロは、神が私たちをこの世で神と一緒に働く者として選んでくださったという驚くべき現実を思い出させ、しばしば葛藤と苦難がつきまといますが、この現実が反対者に私たちの信仰の本質を確認させると教えます。真理は常に反対を受けますが、反対が最終的に私たちに圧倒すべきものではありません。

このセッションでは、この章の伝道の豊かさ、それがもたらすチャンスとチャレンジについて学びます。

鍵となる聖書箇所

IIコリント 6章

信仰, 明確さ, 招き

アドバンスの旅の始まりに、以下の3つの質問から、アドバンスグループに参加したいかの判断材料とされました：

信仰： あなたは、福音が人類を救う唯一の方法で人が、真のいのちと救いを知ることができると信じていますか。

明瞭であること： 機会があれば、いつでも明瞭に福音を伝えたいと思いますか？

招き： あなたは、福音の希望への招待を広げ、人々がイエスとの永遠の関係に移っていくのを見たいと願っていますか？

このセッションでは、アドバンスの旅路の現時点で、この3つの質問をより詳細に、そして新鮮な洞察力をもって一緒に探求することができます。

ディスカッション質問

- この箇所が、伝道に関する聖書の最も偉大な章と呼ばれるのはなぜだと思いますか？
- どのようなつまずきを人々に与える可能性があり、それを避けるにはどうしたらいいですか？
- パウロは、直面する葛藤を通して、私たちの伝道が認証されると言います。これは、あなたの証しをどのように励ましますか？
- 愛をもって福音を伝えようという呼びかけと、「未信者と一緒に組んではいけない」という課題をどのように調和させればよいですか？

鍵となる聖書箇所

IIコリント 4:5-18

ディスカッション質問

- 具体的にこの3つの質問が、アドバンスがその人に合っているかを判断するのに役立つと思うのはなぜですか (また、役に立ちましたか)？
- アドバンスを始めてから、どのような形で福音の力が働いていて、また、それがあなたの信仰にどのような影響を与えていますか？
- また、そのことが福音に関する会話や宣教にどのような影響を及ぼしていますか？
- アドバンスは、あなたの周囲の人々の福音への招き方に影響を及ぼしましたか？

伝道者の役割

250ページの「伝道者の役割」の図を見てください。図にある各単語を考察し、図全体がどのように役割の理解につながるかを考えながら、このセッションで伝道者の役割とは何かを一緒に学びます。

鍵となる聖書箇所

エペソ 4:11-13

ディスカッション質問

1. 伝道者の役割とは？

2. すべての信者が福音を伝えるべきなら、なぜ神はある人々を伝道者に召命するのですか？
3. だれかが質問2を自問し、その人が伝道者として召され、賜物が与えられているのを見極めるのに、どんな手助けができますか？
4. 世界と同様に教会にも伝道者のメッセージが不可欠なのはなぜですか。図.1よりも図.2がそれをよく表しているのはなぜですか？

外に出て行く

毎回セッション前半に実践を促すため何らかの形で一緒に出かけるグループもあります。祈りウォーク、街頭伝道、同日に企画されたミッションの機会やイベントに参加するなど、「出ていく」を実践できます。セッション全体を外出して過ごす場合でも、一緒に祈ったり、アカウンタビリティフォームを見たりする時間を確保してください。

事前の質問

1. 今日、外に出て行くのはなぜですか？
2. どんなことを意識して出て行くとういのですか？
3. 出て行く前に何を祈ればよいですか？

事後の質問

1. 今日はどんな出会いがありましたか？
2. アフターフォローは必要ですか？
3. 今日あったこと、そして話した人たちのために、どう祈ればよいですか？

地面に手をついても、すぐに立ち上がりなさい！そして、20年後、30年後も、私と同じように、時には疲れ、時には傷つきながら、それでもイエス・キリストのためにレースを走り続けていることに気づくでしょう。神の国と世界の伝道のために、共に邁進しよう。」

ジョージの言葉に救われました。うまくいかないことも、つらいこともあるだろう。でも、

1年目

振り返り

アドバンスの1年目が終了したら、このフォームを使って、学んだこと、成長したことを振り返り、アドバンスの次の1年に向けての希望を書いてください。そこから、他の人の励みになるようなエピソードがあれば、以下のサイトで共有してください。
advancegroups.org/stories (アドバンスグループ)

この1年を通して、どのように成長したいと思っていましたか？

どのように成長しましたか？

今年一番の学びは何ですか？

今年アドバンスを通して一番驚いたことは何ですか？

あなたの伝道に、最も励みとなったことは何ですか？

最大のチャレンジは何でしたか？

今年、あなたに最も影響を与えた聖句とその理由を教えてください。

今年、あなたの祈りを通して神はどのように働かれましたか？

アドバンス2年目にどのように成長したいですか (今年、自分のグループを立ち上げますか)？

あなたは、来年、どのような伝道の機会を待ち望んでいますか？

2年目

振り返り

アドバンス2年目の終わりに、このフォームを使って、学んだこと、成長したことを振り返り、アドバンスの次の1年に向けての希望を書いてください。そこから、他の人を励ますエピソードがあれば、advancegroups.org/stories で共有してください。

2年目のアドバンスを通して、どのように成長したいと思っていましたか？

あなたの伝道に、最も励みになったことは何ですか（昨年の反省で期待した機会を得ることができましたか）？

今年は、1年目とどう違いました？

最大のチャレンジは何でしたか？

どのように成長しましたか？

今年、あなたに最も影響を与えた聖句とその理由を教えてください。

今年一番の学びは何ですか？

今年、あなたの祈りをとおして神はどのように働かれましたか？

今年のアドバンスを通して一番驚いたことは何ですか？

アドバンス3年目の抱負を聞かせてください（まだなら、今年自分のグループを立ち上げる予定ですか）。

3年目

振り返り

アドバンス3年目の終わりに、このフォームを使って、学んだこと、成長したことを振り返り、今後の希望を書いてください。そこから、他の人を励ますエピソードがあれば、advancegroups.org/stories で共有してください。

この1年のアドバンスを通して、どのように成長したいと思っていましたか？

どのように成長しましたか？

今年一番の学びは何ですか？

今年のアドバンスで一番驚いたことは何ですか？

あなたの伝道に、最も励みになったことは何ですか？

最大のチャレンジは何でしたか？

今年、あなたに最も影響を与えた聖句とその理由を教えてください。

今年、あなたの祈りを通して神がどのように働かれましたか？

来年はどのように成長したいですか？

この先の一年、どのような伝道の機会を待ち望んでいますか？

アカウンタビリティ用紙

advancegroups.org/group-guide
から印刷用をダウンロードする。

「神よ、私を探り、私の心を知ってください。」(詩篇139篇23節)

互いに受け入れ合う(ローマ15:7)

過ちを告白し合う(ヤコブ5:16)

互いに励まし合い、建て上げ合う(1テサロニケ5:11)

評価

✓ 良い
— オーク
✗ 悪い

「神に創造された自分のアイデンティティを生きなさい。神があなたに対して生きておられるように、他の人に対しても寛大に、恵み深く生きなさい。」(マタイ5:48, MSG)

人生のビジョンはどれだけ明確か?	私の家族は幸せだろうか?
私の携わる動きのビジョンはどれだけ明確か?	私の友人関係はどうか?
自分のしている事を楽しんでいるか?	私の仕える人たち(同僚、リーダー、異性)との関係は健全か?
自分のしている事に神の喜びを感じているか?	空腹、怒り、孤独、疲れを感じたとき健全に反応しているか?
私はどれだけ情熱的か?	私は不適切な欲望を抱いていないか?
私は、イエスとの親密さを追求しているか?	私は十分な休息をとっているか?
十分な祈りの時間を持っているか?	私は時間をうまく管理できているか?
個人的に聖書を学ぶ時間を取っているか?	私は余暇を健全に過ごしているか?
今日、聖書は私の中で生きていますか?	教会、仕事、家庭生活の健全なバランスを保っているか?
自分の人生とミニストリーに神の力の表現を求めているか?	私にとってイエスは実在する?
私にとってイエスは実在する?	ノンクリスチャンと関係を築き、維持している?
私は教えられやすく、説明責任を果たしているか?	性的な誘惑に身をさらしていないか?
私は協力的で、近づきやすいか?	人生のどこかの領域で嫉妬、不純、批判的、イライラする、傷つきやすい、不信感などに、敗北していないか?
私はよく話を聞いているか?	お金をうまく管理できているか?
私は、自分の弱さを他者に見せているか?	惜しみなく献げているか?
私は仕える心でリードしているか?	他人をうらやまないことを選んでいるか?
私は信用できる人間か?	不平や不満を言わないことを選択しているか?
私は約束を守っているか?	誠実に歩んでいるか?
私は健全な視点を持ち続けているか?	決断力があり、自信に満ちているか?
私は(人からの、仕事からの、状況からの)プレッシャーにうまく対処できているか?	危険を冒すこと(リスク)をいとわないか?
私の健康状態はどうか?	目標を立て、それを達成できているか?
健康的な食事ができているか?	犠牲を払うことをいとわないか?
よく眠れているか?	切磋琢磨して(自分を磨いて)いるか?
私は不適切な思考に心を奪われていないか?	御霊の力によって行動しているか?
私は、病人や傷ついた人、困っている人に心を配っているか?	私は誰かを赦さないままではないか?
	私は、破壊的な思考パターンや砦(要塞)からの自由を追い求めているか?

「心の底から神様を信じなさい。自分の力ですべてを解決しようとしなさい。何をすることも、どこに行くにも、神様の声に耳を傾けてください。彼はあなたを軌道に乗せてくれる存在なのです。自分がすべてを知っていると思込まないでください。神のもとに走れ! 悪から逃げなさい。」(箴言3:5-7, MSG)

アドバンス グループメンタリングガイド
© The Message Trust, 2022.

発行元
メッセージ・トラスト
message.org.uk

特に断りのない限り、聖書、新改訳2017©2017新日本聖書刊行会から引用しています。NLTと書かれた聖書の引用は、聖書、新共同訳、著作権から引用されています。v©1996, 2004, 2015 by Tyndale House Foundation. Tyndale House Publishers, Carol Stream, Illinois 60188の許可を得て使用しています。無断転載を禁じます。

ESVと書かれた聖句は、The Holy Bible, English Standard Version® (ESV®) Copyright © 2001 by Crossway, a publishing ministry of Good News Publishers.から引用されています。無断転載を禁じます。

NRSVと記された聖句の引用は、New Revised Standard Version Bible, copyright © 1989 National Council of Churches of Christ in the United States of Americaから引用されています。全世界で無断転載を禁じます。

MSGと記された聖句は、ユージン・H・ピーターソン著『THE MESSAGE』(著作権 © 1993, 1994, 1995, 4996, 2000, 2001, 2002) から引用したものです。NavPressの許可を得て使用しています。すべての著作権はNavPressに帰属します。ティンデル・ハウス・パブリッシャーズ・インクが代理しています。

本書の無断転載を禁じます。著作権法で認められている場合を除き、本書のいかなる部分も、出版社の事前の許可なく、いかなる形式、いかなる手段によっても複製することを禁じます。

Ben Jackは、1988年の著作権法、意匠法、特許法に基づいて、この作品の作者として識別される権利を主張しています。

エディションE2.0、英国で印刷されています。

福音。
他にはない。



ADVANCEGROUPS.ORG